

徳島県立博物館年報

第 29 号 (令和元年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 29 (for the fiscal year of 2019)

目次

徳島県立博物館の使命	2	V 情報の発信と公開	
I 展示		1. 博物館の広報活動	43
1. 常設展	3	2. テレビ・ラジオへの出演等	44
2. 企画展	6	3. インターネットによる情報提供	44
3. 特別陳列	10	4. 外部ネットワークとの連携	45
4. 館外での展示	13	5. 情報システムの概要	46
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	13	VI 県民協働・参画	
6. 展示関係出版物	16	1. 博物館友の会	47
II 普及教育		2. 公募ボランティア	48
1. 普及行事	17	3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	49
2. 学校教育支援事業	21	VII シンクタンクとしての社会貢献	
3. インバウンドへの対応	25	1. レファレンス業務	51
4. 普及教育関係出版物	25	2. 各種委員会委員等の受諾	51
III 調査研究		3. 講師の派遣	52
1. 課題調査	27	4. 大学教育への寄与	54
2. 日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト	28	5. 学会・研究会等の運営への寄与	54
3. 分野別（個別）調査研究	30	6. 博物館ネットワーク	55
4. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）の実施	32	VIII 管理運営・マネジメント	
5. 科学研究費補助金等による研究	32	1. 組織・職員	57
6. 他機関との共同研究	33	2. 予算	57
7. 研究成果の公表	33	3. 文化の森の連携事業	58
IV 資料の収集・保存と活用		4. 防災及び危機管理	58
1. 採集資料	37	5. ユニバーサル化への取り組み	58
2. 購入資料	37	6. 博物館協議会	59
3. 寄贈資料	38	7. 各種研修会への参加	59
4. 寄託資料	39	8. 視察等博物館関係来訪者	60
5. 資料の貸し出し	39	IX 中期活動目標と自己評価	
6. 写真・映像の提供	40	1. 中期活動目標	61
7. 資料の提供	40	2. 令和元年度実績と自己評価	69
8. 資料の交換	40	X 観覧者等統計	84
9. 館蔵資料数	41	XI 施設の概要	
10. 資料収集委員会	41	1. 沿革	89
11. 文献資料の収集	41	2. 施設の概要	90
12. 資料の保存	41	3. 博物館各室面積	92
		XII 例規	94

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがつどえる地域の拠点を目指します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館
 - (1) 情報の発信と公開
 - (2) 県民協働・参画
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

そのような中で、平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」を実施し（年報24号参照）、その成果に基づいて、27年度には文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

29年度からは、常設展リニューアルに向けての検討を本格化させた。「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置し新常設展のあり方について、外部委員とともに検討を行った。また新常設展基本計画案を作成し、「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員を交えた検討を行った。

30年度は、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催し、公募した県民等と意見交換を行うなど、29年度に引き続き、常設展リニューアルに向けての検討を進めた。7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定し、9月には新常設展設計事業業務委託プロポーザルを行った。同業務については、株式会社乃村工藝社と契約し、10月から新常設展の基本設計業務に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。

令和元年度は、4月から10月までの間、実施設計業務に取り組み、10月には実施設計図書が納品された。12月に展示製作にかかる入札を行い、株式会社乃村工藝社が落札した。3月には県議会での承認を得て、同社と契約を締結し、展示構築業務を開始した。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことになっている。学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりのある資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、2、3年先

までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得の工夫をしている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の3つで構成している。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

- 人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち など
 自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／
 生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

4 展示



「文化の森の植物」の展示



「大嘗祭と阿波」の展示解説



「アゲハチョウと甲虫」の展示解説



「博物館所蔵の刀剣」の展示解説

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。20年度から、多様な資料の公開を図るため、自然史関係の展示も行っている。

●写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景―塩田のあった頃―

30年度（1月22日（火）～4月14日（日）

展示資料数 39点（館蔵資料39点）

塩田風景、撫養街道の町並みなど、鳴門市の写真家・故岩朝哲男氏が撮影した写真から、鳴門の風景の移り変わりについて紹介した。

●文化の森の植物～植物相の移り変わり～

4月16日（火）～7月7日（日）

展示資料数 54点（館蔵資料54点）

展示関係印刷物 あり

当館普及行事「中級クラス植物観察会」での参加者の成果発表として、それぞれが調査を通じて関心を持った植物について紹介した。また、文化の森開園前の植物相調査のデータと比較して、どのような変化があったのかということなども、あわせて紹介した。

●アゲハチョウと甲虫―愛好家たちのコレクション―

7月9日（火）～9月29日（日）

展示資料数 4,179点（館蔵資料0点）

展示関係印刷物 あり

徳島県吉野川市在住の小川昌彦氏（徳島蝶の会代表）による世界のアゲハチョウのコレクションと、徳島市在住の増田敏雄氏による甲虫コレクションを紹介した。

●大嘗祭と阿波

10月1日（火）～12月1日（日）

展示資料数 24点（館蔵資料10点）

展示関係印刷物 あり

11月に今上天皇即位の大嘗祭が行われることにちなみ、古代・中世の大嘗祭と阿波の関係について館蔵資料及び寄託資料によって紹介した。寄託資料である美馬市木屋平の「三木家文書」（県指定文化財）に含まれている関係史料を初めて公開した。

●博物館所蔵の刀剣

12月3日（火）～2月16日（日）

展示資料数 16点（館蔵資料16点）

展示関係印刷物 あり

博物館の所蔵する刀剣の中から、阿波刀を中心に、古刀・新刀・新々刀期の代表的なものを展示した。

●阿波晩茶の製造技術と製造用具



「阿波晩茶の製造技術と製造用具」の展示

2月18日（火）～2年度（4月12日（日））

展示資料 45点（館蔵資料45点）

展示関係印刷物 あり

那賀町の阿波晩茶生産農家から寄贈された製造用具を中心にして、阿波晩茶の製造技術と製造用具を紹介した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを行い、以下の資料を展示した。

展示資料数 3点（館蔵資料3点）

① 30年度（1月29日（火））～5月19日（日）

松浦春拳筆 花鳥図対幅 1点

② 5月21日（火）～1月26日（日）

井川鳴門筆 武田信玄上杉謙信一騎打図 1点

③ 1月28日（火）～令和2年度

中山養福筆 四季富士山図 1点

(4) トピックコーナーでの小展示

元年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●タンポポ調査と西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて

30年度（3月5日（火））～6月2日（日）

展示資料数 10点（館蔵資料10点）

タンポポ調査について徳島県で見られるタンポポのアクリル封入標本とともに展示した。また、西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて展示した。

●徳島県勝浦町から中四国初の獣脚類恐竜の骨化石などを発見 —平成30年冬の恐竜化石含有層の緊急発掘調査報告—

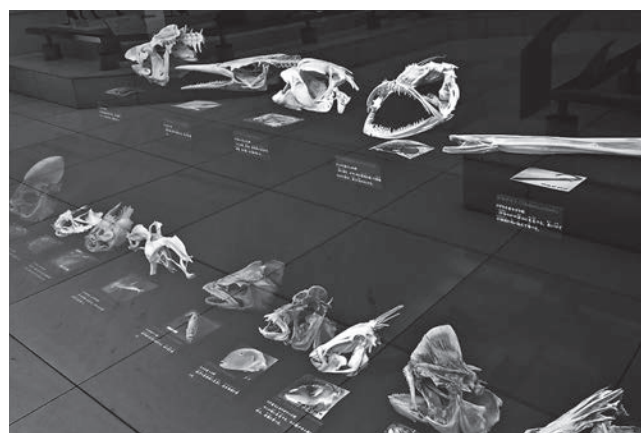
4月16日（火）～5月6日（月）

展示資料数 10点（館蔵資料10点）

徳島県勝浦町の恐竜化石含有層から発見された獣脚



「徳島県勝浦町から中四国初の獣脚類恐竜の骨化石などを発見」の展示



「奇怪！魚類の頭骨標本」の展示

類の脛骨、竜脚類の歯などを展示した。

●世界農業遺産を支えるモノ

6月4日（火）～7月28日（日）

展示資料点数 8点（館蔵資料8点）

平成30年3月に「徳島県にし阿波地域」が世界農業遺産として認定されたのに伴い、収蔵した関係農具を展示紹介した。

●新着資料紹介 戦争関係資料

7月30日（火）～9月29日（日）

展示資料点数 7点（館蔵資料7点）

アジア・太平洋戦争の終結から74年が経ち、戦争の体験や記憶が遠のくなかで、継続して戦争と平和について考えていくことが大切である。その一助となることを願い、近年、当館が受け入れた資料のなかから数点を選び紹介した。

●奇怪！魚類の頭骨標本～河野コレクションより～

10月1日（火）～1月19日（日）

展示資料数 14点（館蔵資料14点）

展示関係印刷物 あり

徳島県海部郡の鞆浦漁協に勤める河野亮平氏が収集・作製した徳島県産の海水魚類の頭骨標本を展示・紹介した。

6 展示

●徳島県勝浦町から産出した恐竜時代のカメ化石

1月21日(火)～3月1日(日)

展示資料数 7点(館蔵資料7点)

徳島県勝浦町の恐竜化石含有層から産出した日本最古のスッポンモドキ科カメ類の甲羅などを展示した。

●タンポポはスゴイ

3月3日(火)～2年度(5月31日(日))

展示資料数 7点(館蔵資料7点)

タンポポ調査に関連して、育毛剤として役にたつタンポポや、さまざまな場所で育つタンポポの持つたくましい生命力について紹介した。さらに、江戸時代に出版された書籍に挿絵として掲載されていた“ふきづめ”が県内で発見されたので、タンポポのアクリル封入標本とともに展示した。

(5) 博物館ロビー等での小展示

元年度は、2階中央ロビー(鳥居龍蔵記念博物館常設展示室前)において小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、タイムリーなテーマがあれば実施することとしている。

●写真で見る徳島の遺跡

5月8日(水)～7月8日(日)

展示資料点数 20点(パネル)

1980年代後半から2000年代にかけて、徳島県博物館及び県立博物館が実施した遺跡調査時に撮影された写真を紹介した。

●写真で見る徳島の遺跡2

2月26日(水)～2年度

展示資料点数 20点(パネル)

1960年代後半から80年代にかけて、徳島県博物館が実施した遺跡調査時に撮影された写真を紹介した。

2. 企画展

令和元年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「ミネラルズ2019」

鉱物は、岩石をつくる物質であり、多くは結晶としての性質を持っている。一部は宝石や飾り石、天然資源になるなど、いろいろな側面がある。また、意外かもしれないが、鉱物は身近なところにもたくさんある。四国では、結晶片岩に伴う黄銅鉱や斑銅鉱といった銅鉱物などの産出が特徴的で、地域別では愛媛県市ノ川鉱山産の輝安鉱や、徳島市眉山産のルチル・紅簾石などが有名である。

この企画展では、多くの鉱物標本の展示を通して、

鉱物の世界をさまざまな角度から紹介した。とくに、四国産の鉱物を多数とりあげた。

●主催 徳島県立博物館

●期間 平成31年4月24日(水)～

令和元年6月2日(日)

(開催日数36日)

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円(65歳以上100円)

高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 8,740人

●展示構成

(1) 鉱物とは

岩石と鉱物/岩石をつくる鉱物

(2) 鉱物のもつさまざまな性質

色/形/光沢/蛍光性/硬さ/割れ方/磁性

その他

(3) 身のまわりの鉱物

金属などの鉱石/工業原料/宝飾品・飾り石/

合成鉱物

(4) 生物・化石と鉱物

生物がつくる鉱物/鉱物化した化石

(5) 四国の鉱物

(6) ギャラリー

●展示資料数 540点(館蔵資料440点)



「ミネラルズ2019」の展示



「ミネラルズ2019」関連行事・眉山の地質見学



徳島県立博物館60周年記念 企画展

ミネラルズ

MINERALS 2019

2019 4.24(土) - 6.2(日)

会場 徳島県立博物館 1階 企画展示室
開館時間 9:30 ~ 17:00
休館日 5/7, 5/13, 5/20, 5/27
観覧料 一般200円、高校・大学生100円、小中学生50円
20名以上の団体は2割引/土・日曜日、祝日の高校生以下は無料
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所有者及びその介護者は無料
65歳以上は100円(証明書等の提示が必要) / 学校教育による利用は無料

ICOM

「ミネラルズ2019」チラシ表面

ミネラルズ

MINERALS 2019

鉱物は、岩石をつくる物質であり、多くは結晶としての性質を持っています。一部は宝石や飾り石、天然資源になるなど、いろいろな側面があります。また、意外かもしれませんが、鉱物は身近なところにもたくさんあります。四国では、結晶片岩に伴う黄銅鉱や斑銅鉱などの銅鉱物の産出が特徴的で、地域別では愛媛県産/川鉱山産の輝安鉱や、徳島市眉山産のルチル・紅寶石などが有名です。

この企画展では、多くの鉱物標本の展示を通して、鉱物の世界をさまざまな角度から紹介していきます。とくに、四国産の鉱物を多数とりあげます。

展示構成

- (1) 鉱物とは
- (2) 鉱物のもつさまざまな性質
- (3) 身のまわりの鉱物
- (4) 生物・化石と鉱物
- (5) 四国の鉱物
- (6) ギャラリー

関連行事のご案内


展示解説

日時/4月27日(土)、5月4日(土・祝)
いずれも 14:00~15:00
講師/当館学芸員
申込/不要
※大学生と一般の方は企画展観覧料が必要です

野外観察会

眉山の地質見学

一眉山の岩石・鉱物かんさつ
日時/5月12日(日) 13:30~16:00
場所/徳島市眉山(現地集合・現地解散)
講師/当館学芸員
申込/必要
※往復はがきで5月2日までに届くように徳島県立博物館までお申込みください



●観覧料から(入館前25分/タワラー約15分)
●交差点の交差点から(徒歩約15分)
●徳島市(徳島県庁)から(車約20分)
●徳島県庁から(徒歩約15分)

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-8070 徳島県徳島市入野町向山
TEL: 088-668-3636 / FAX: 088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/

みんなおいでよ！ 友の会

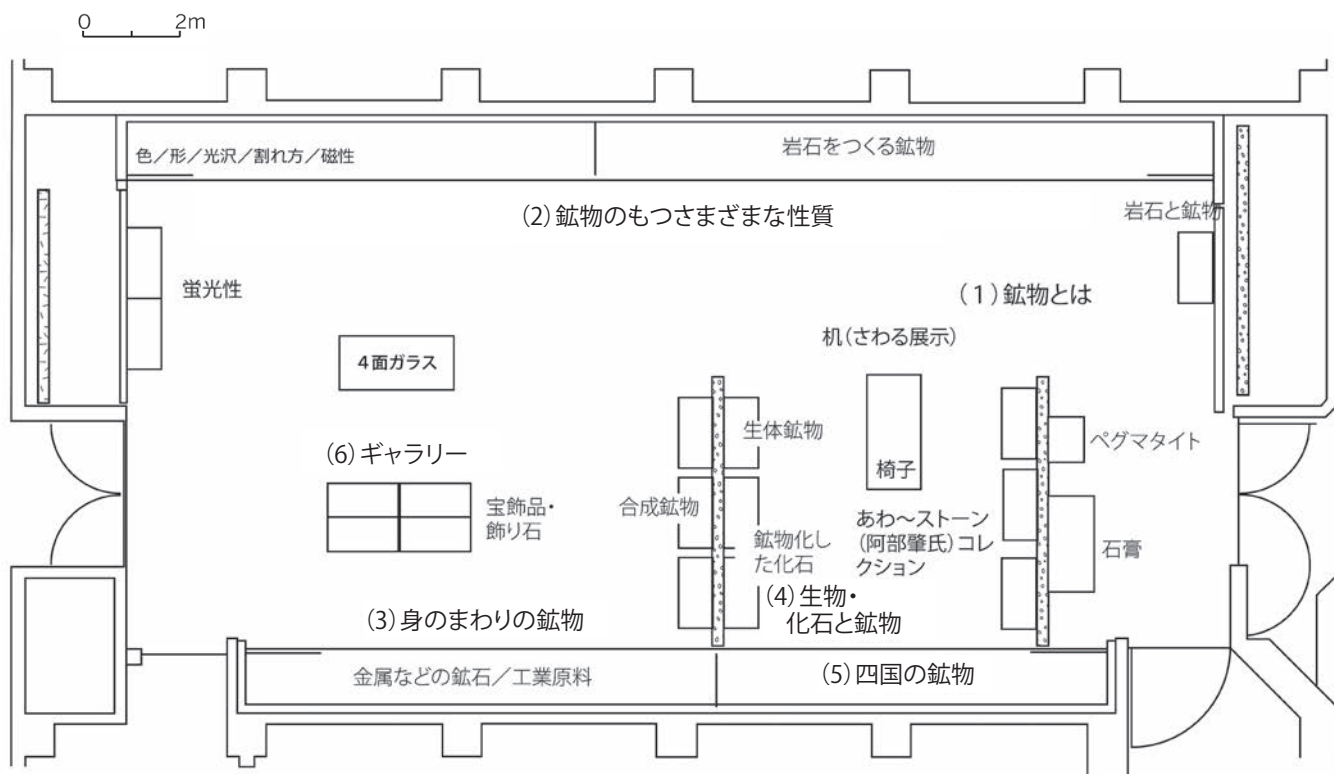
博物館友の会では、博物館を積極的に利用し、自然や歴史・文化に親しみ、参加・体験することで子どもから大人まで楽しく学んでいます。多くの方のご入会をお待ちしております。

- 年会費 個人会員2,000円 家族会員3,000円 (10月~3月の半年会員は半額)
- 会員の特典 博物館の常設展・企画展の観覧料が無料になります。催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。友の会行事に参加できます。(一部参加料が必要です。)

友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。

徳島県立博物館友の会事務局
〒770-8070 徳島県徳島市入野町向山
TEL: 088-668-3636 / FAX: 088-668-7197

「ミネラルズ2019」チラシ裏面



「ミネラルズ2019」の展示配置

8 展示

●マスコミによる報道件数 8件

●関連行事

①展示解説

第1回：4月28日（日）14：00～15：00

参加者：80人

第2回：5月6日（月）14：00～15：00

参加者：136人（協力：阿部 肇氏）

第3回：5月26日（日）14：00～15：00

参加者：100人

②眉山の地質見学－眉山の岩石・鉱物かんさつ－

場所：徳島市寺町～眉山町

5月12日（日）13：30～16：00

参加者：20人（参加申込97人）

(2) 第2回企画展「とくしまの恐竜時代 －徳島県の恐竜化石発掘調査報告－」

徳島県には、恐竜時代（三畳紀、ジュラ紀、白亜紀）の地層が広く分布している。近年、勝浦町の白亜紀前期の地層（物部川層群）から、相次いで恐竜化石が発見された。また、この恐竜化石を含む地層からは、恐竜化石以外にも多様な動物化石も発見され、全国的に注目を集めている。さらに阿讃山脈をつくる白亜紀後期の地層である和泉層群からは、恐竜時代末期のカメやアンモナイト、二枚貝の化石など、海洋生物の化石が多数見つっている。

この企画展では、徳島県立博物館などの研究チームによって発見された勝浦町の恐竜化石等を中心に、県内外の恐竜時代の動物・植物化石を紹介した。

●主催 徳島県立博物館

●期間 令和元年7月19日（金）～9月8日（日）
（開催日数45日）

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円（65歳以上100円）

高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 18,710人

●展示構成

(1) 徳島の恐竜時代の化石

- ・徳島の三畳紀・ジュラ紀の地層と化石
- ・徳島の白亜紀前期の地層（海成層）と化石
- ・徳島の白亜紀前期の地層（陸成層）と化石
- ・徳島周辺の白亜紀後期の地層と化石

(2) 日本や世界の恐竜時代の化石

(3) 恐竜から鳥へ

●展示資料数 240点（館蔵資料193点）

●マスコミによる報道件数 22件

●関連行事

①展示解説

第1回：7月21日（日）14：00～15：00

参加者：120人

第2回：8月4日（日）14：00～15：00

参加者：175人

第3回：9月1日（日）14：00～15：00

参加者：222人

②化石のレプリカをつくろう

場所：博物館実習室

9月7（土）13：30～15：00

参加者：27人（参加申込65人）



「とくしまの恐竜時代」の展示



「とくしまの恐竜時代」関連行事・展示解説



「とくしまの恐竜時代」来場者1万人セレモニー

徳島県立博物館 60周年記念 企画展

とくしまの恐竜時代

Dinosaur Age in Tokushima

—徳島県の恐竜化石発掘報告—

2019 7.19 金 ▶ 9.8 日

徳島県立博物館 1階 企画展示室

- 開館時間：9:30～17:00
- 休館日：毎週月曜日 ※8/12(月・振替休日)は開館
- 観覧料：一般 200円、高校・大学生 100円、小中学生 50円

20名以上の団体は2割引(土・日曜日、祝日、夏休み期間中の高校生以下は無料) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者及びその介助者1名は無料(65歳以上は100円) (両者兼用の提示が必要) / 学校教育による利用は無料

文化の森総合公園 徳島県立博物館

「とくしまの恐竜時代」チラシ表面

とくしまの恐竜時代

Dinosaur Age in Tokushima

—徳島県の恐竜化石発掘報告—

徳島県は、恐竜時代(三疊紀、ジュラ紀、白亜紀)の地層が広く分布しています。近年、徳島県勝浦町の白亜紀前期の地層から、相次いで恐竜化石が発見されました。また、この恐竜化石を含む地層(いわゆるボーン・ベッド)からは、恐竜化石以外にもワニの歯やカメの甲羅、硬鱗魚のウロコ、淡水生サメ類の歯など、多様な動物化石も発見され、全国的に注目を集めています。

本企画展では、徳島県立博物館を中心とする研究チームによって発見された勝浦町の恐竜化石をはじめ、徳島県内外の恐竜時代の地層から産出した動物・植物化石を紹介いたします。

展示構成

- ① 徳島の恐竜時代の化石
 - ・徳島の三疊紀・ジュラ紀の地層と化石
 - ・徳島の白亜紀前期の地層と化石
 - ・徳島周辺の白亜紀後期の地層と化石
 - ・徳島の恐竜化石
- ② 日本や世界の恐竜時代の化石
- ③ 恐竜から鳥へ

展示解説

日時：7/21(日)、8/4(日)、9/1(日)
すべて 14:00～15:00

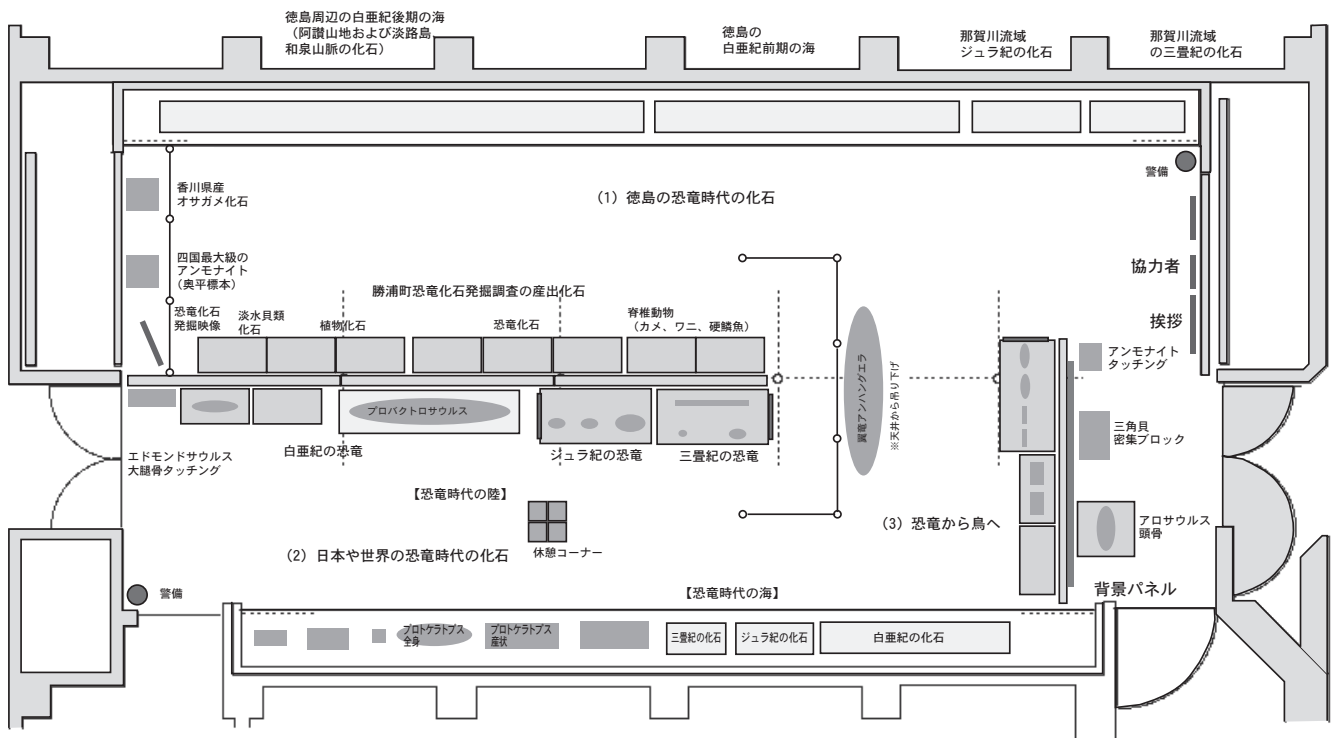
実物の恐竜化石にタッチできるコーナーもあるよ!

文化の森総合公園 徳島県立博物館

〒770-8070 徳島県徳島市八万町内倉山
TEL: 089-668-2636 / FAX: 089-668-7197
https://museum.tokushima.ac.jp/

「とくしまの恐竜時代」チラシ裏面

0 2m



「とくしまの恐竜時代」の展示配置

3. 特別陳列

(1) ヒロシマ原爆展～徳島県戦没者記念館 開館5周年記念 第8回特別企画展～

1945年8月6日、広島に放たれた一発の原子爆弾は、一瞬のうちに街を焼き尽くし、その年の暮れまでに14万もの尊い命を奪った。辛うじて生き延びた人々も、放射線による障害や差別・偏見に苦しみ、心身に負った傷は今なお消えることはない。

この展示では、遺品をはじめ、実物資料と写真パネル、被爆者が見た光景を描いた絵画等を紹介した。

- 主 催 広島市
公益財団法人広島平和文化センター
徳島県
徳島県教育委員会
一般財団法人徳島県遺族会
徳島県戦没者記念館奉賛会
- 協 力 徳島県立博物館
- 期 間 令和元年7月10日(水)～7月30日(火)
(開館日数18日)
- 会 場 メイン会場：文化の森多目的活動室
サテライト会場：徳島県戦没者記念館
—あしたへ—
- 観覧料 無料
- 観覧者数 5,731人
- 展示資料 100点(館蔵資料0点)
- マスコミによる報道件数 11件

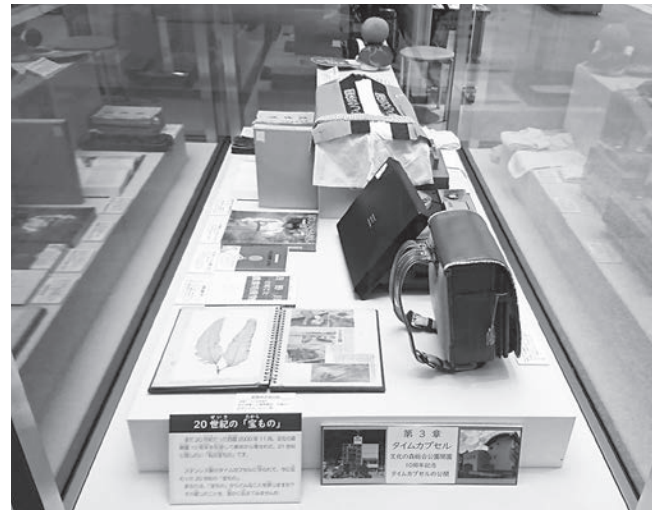


「ヒロシマ原爆展」の展示

(2) 博物館60周年記念展 とくしまタイ ムトラベル—過去・現在・未来—

徳島県に総合博物館が開館したのは昭和34年(1959)12月10日で、令和元年(2019)で60周年となった。当初、「徳島県博物館」として県下すべての小・中学校の児童・生徒をはじめとする、県民の多額の寄付によって眉山の麓に建設された博物館は、文化の森に移転してからも「県民の博物館」として県民とともに活動し、現在に至る。令和元年には常設展示室のリニューアルに向けて、県民ワークショップやインクルーシブデザイン・ワークショップによって新しい展示を県民と協働でつくっていくなど、「県民の博物館」の歩みは、今も発展しながら続いている。

この特別陳列では、博物館設立60周年記念として、昭和30年代からの徳島の歴史や世相の変化と照らし合わせながら「県民の博物館」の歩みを振り返るとともに、常設展示室リニューアルによって変わる「新しい博物館」のプロモーション展示を行った。



「とくしまタイムトラベル」の展示



「とくしまタイムトラベル」の展示解説

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 令和元年10月5日(土)～11月10日(日)
(開館日数31日間)
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 無料
- 観覧者数 6,364人
- 展示構成

プロローグ

- 第1章 とくしま 現在・過去・未来
- 第2章 徳島県博物館と徳島県立博物館
- 第3章 タイムカプセル 文化の森開園10周年記念タイムカプセルの公開
- 第4章 あたらしい常設展示室 リニューアル計画「徳島まるづかみ！」

エピローグ わたしの博物館

- 展示資料数 1,192点(館蔵資料1,192点)
- マスコミによる報道件数 2件
- 企画展関連行事

展示解説

10月6日(日) 14:00～15:00

参加者 43人

11月3日(日) 14:00～15:00

参加者 52人

特別陳列 博物館60周年記念展

とくしまタイムトラベル

—過去・現在・未来—

2019 10.5 (土) ▶ 11.10 (日)

徳島県博物館 (1959～1990)

徳島県立博物館 (1990～)

「県民の博物館」60年の歩みを
収蔵資料と共にふりかえります。

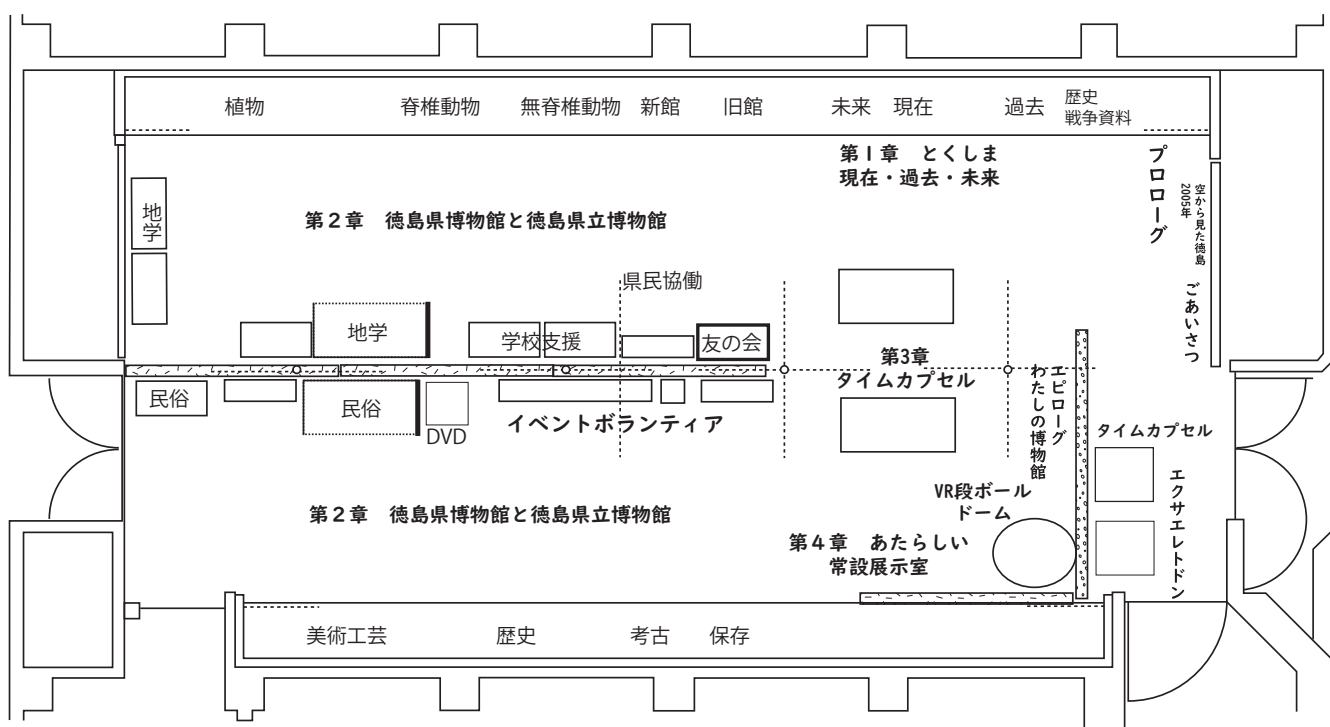
徳島県立博物館 1階 企画展示室

- 開館時間：9:30～17:00
- 休館日：毎週月曜日 (※10/14 (体育の日), 11/4 (振替休日) は開館)
10/15 (土), 11/5 (土)
- 観覧料：無料

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山
TEL: 088-668-3636
FAX: 088-668-7197
<https://museum.tokushima-ec.ed.jp/>

特別陳列「とくしまタイムトラベル」のチラシ

0 2m



「とくしまタイムトラベル」の展示配置

(3) 「板東俘虜収容所」の世界展

第一次世界大戦によって戦争捕虜となったドイツ兵は、日本全国の収容所に収容された。その一つに、1917年（大正6）から1920年までの間、現在の鳴門市大麻町に設置された板東俘虜収容所がある。ドイツ兵は捕虜として生活する一方で、地元の人々に対し技術指導を行ったり、文化的な交流をしたりした。

この展示では、捕虜の子孫が寄贈した収容所新聞や第九の初演に関わる捕虜のはがき、大谷焼窯元で捕虜が文字を刻んだ火鉢などを展示し、日独交流の歴史を紹介した。

- 主 催 徳島県 鳴門市
「板東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」登録推進協議会
- 後 援 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
一般社団法人徳島新聞社
四国放送株式会社 NHK 徳島放送局
- 特別協力 徳島県立博物館
- 期 間 令和元年12月12日（木）～1月19日（日）
（開館日数28日）
- 会 場 博物館企画展示室
- 観覧料 無料
- 観覧者数 2,496人
- 展示資料 121点（館蔵資料0点）
- マスコミによる報道件数 3件
- 関連行事
- ①展示解説
第1回：12月22日（日）14：00～15：00
参加者 15人
第2回：1月12日（日）14：00～15：00
参加者 23人
- ②ガリ版刷り体験ワークショップ
会 場 博物館3階実習室（定員15名）
第1回：1月13日（日・祝）13：00～14：30
参加者 15人



「板東俘虜収容所」の世界展」の展示

第2回：1月13日（日・祝）15：00～16：30

参加者 15人

(4) 文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る

鳥居龍蔵の調査活動には、「アジアを駆け抜ける」と形容される34回に及ぶ海外調査と、列島全域にわたる国内調査がある。国内調査のうち、彼の学説形成に大きな影響を与えた近畿、千島、信州、南九州などの調査は、その重要性がよく知られている。しかし郷里である徳島の調査は、回数が多く多岐にわたるにも関わらず、一部の遺跡をのぞいてクローズアップされることや、体系的に意義づけられることが少なかった。

この展示では、鳥居龍蔵の徳島における調査活動に焦点をあて、網羅的に遺跡をリストアップし、関連する県内外の文化財を一堂に集成し紹介した。

- 主 催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館
- 期 間 令和2年2月8日（土）～3月15日（日）
（開館日数32日間）
- 会 場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般 200円（65歳以上100円）
高校・大学生 100円
小・中学生 50円
- 観覧者数 1,481人
- 展示構成
序 章 少年の蹉跎（つまづき）と立志
第1章 青年、野（フィールド）へ
第2章 凱旋帰国 人類学の泰斗・鳥居博士帰る
第3章 「川内村史」町の学者、石造物から地域を語る
終 章 困むひと、巡るひと、継ぐひと
- 展示資料総点数 312点（館蔵資料15点）

(5) 八杵神社所蔵 重要文化財 二品家政所 下文―地域で守り伝えた文化財―

阿南市長生町宮内に所在する八杵神社には、平安時代末期の長寛元年（1163）の古文書「二品家政所下文」とこれに附属する法華経八巻が伝来しており、12世紀の阿波の社会・宗教に関する貴重な文化財として知られている。

この展示では、八杵神社の歴史的意義とともに、文化財保護の重要性について紹介した。

- 主 催 徳島県立博物館
- 期 間 令和2年3月26日（木）～
2年度（4月5日（日））
（開館日数10日間）



「八杵神社所蔵 重要文化財 二品家政所下文」の展示



移動展「あわぎん恐竜時代展」の展示

- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 無料
- 観覧者数 444人
- 展示資料 11点（館蔵資料2点）
- マスコミによる報道件数 2件

(5) 2019年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主催 文化の森6館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 令和元年12月5日（水）～12月10日（火）
- 会場 近代美術館ギャラリー（展示）
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 278人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。元年度は貸し出しがなかった。

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。元年度は移動展が2件あった。

●移動展「かつうらの恐竜時代」

- 主催 勝浦町
- 協力 徳島県立博物館
- 期間 令和元年9月14日（土）～9月23日（月・祝）

- 会場 勝浦町立図書館 郷土資料展示室
- 観覧者数 288人
- 資料点数 100点（館蔵100点）

●移動展「あわぎん恐竜時代展」

- 主催 阿波銀行
- 協力 徳島県立博物館
- 期間 令和2年1月11日（土）～1月29日（水）
- 会場 阿波銀プラザ 本店営業部2F・3F
- 観覧者数 8,419人
- 資料点数 43点（館蔵43点）

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) これまでの常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。

そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更

を含む「リフレッシュ事業」(中規模な展示更新)を行った(年報19号参照)。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。大規模な展示更新が見込めないなかで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った(年報25号参照)。

開館30周年が近づいたことから、29年度には、常設展の更新に向けての取り組みを本格化させることになった。9月から10月にかけては、「未来創造!博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置し、新常設展のあり方について外部委員(文化の森各館職員や県及び県教委関係課職員)とともに検討を行った。10月30日にはタスクフォースによる検討結果を受けて、県知事との意見交換会(ランチミーティング)を行った。こうした検討結果をもとに、さらに検討を深化させるため、11月から12月にかけて「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員(有識者等)から意見をもらった。2月には「未来の博物館を考える検討委員会提言書—徳島県立博物館新常設展基本計画案一」が提示された。

30年度は、29年度の検討を踏まえ、参加者公募型による、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催した。4月30日(月・祝)、5月13日(日)の2日間にわたり、10歳代から60歳代までの延べ34人(4月30日:16人、5月13日:18人)の県民と、専門家延べ9人(4月30日:4人、5月13日:5人)、アドバイザー2人(4月30日:1人、5月13日:1人)が参加し、当館職員とともに新常設展のあり方について意見を交わした。ここでの意見も踏まえ、7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定した。これにもとづき、9月には新常設展設計事業業務委託プロポーザルを実施した。

(2) 新常設展設計事業

新常設展設計事業については、株式会社乃村工藝社と契約し、設計準備会を行った上で、30年10月25日から新常設展の基本設計に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。

基本設計に係る協議及び調査等は、内容によって4つの分科会を設定した上で実施した(年報28号参照)。分科会A:全般、ロビーゾーン、コミュニケーションゾーン、その他

分科会B(人文):メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会B(自然):メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会C:モニター調査、PR企画

元年度は、30年度に引き続き新常設展設計業務を進めた。4月から10月までの間、実施設計に取り組み、10月に設計図書が納品された。

元年度の実施設計に係る協議及びワークショップ等の日程は次のとおりである。

(日程)

- 4月12日(金) A会議
- 5月15日(水) A会議、B(人文・自然)会議
- 5月16日(木) 展示計画再点検ワークショップ
- 5月24日(金) 「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ(1回目)
- 5月25日(土) 県民とともに新常設展を考えるワークショップ
- 6月5日(水) A会議、B(人文)会議
- 6月7日(金) B(自然)会議
- 6月17日(月) アドバイザー(染川香澄氏)を交えての展示内容に関する討議
- 6月18日(火) 「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ(2回目)
- 6月19日(水) A会議、B(人文・自然)会議
- 7月3日(水) A会議、B(人文・自然)会議
- 7月23日(火) A会議、B(人文・自然)会議
- 8月7日(水) A会議、B(人文・自然)会議
- 8月30日(金) A会議、B(人文・自然)会議
- 9月11日(水) A会議、B(人文・自然)会議
- 10月2日(水) A会議

実施設計に際し、県民や専門家等の協力を得て、委託業務を行う乃村工藝社とともに、各種ワークショップを実施した。

●新常設展展示計画再点検のためのワークショップ

5月16日(木)

ファシリテーター:染川香澄氏(ハンズ・オンプランニング)

参加者:博物館職員、乃村工藝社社員

セクションごとに展示計画を説明し、相互に講評、意見交換を行った。意見の分類、整理により課題等が明らかになった。

●「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ(1回目)

5月24日(金)

ファシリテーター:塩瀬隆之氏(京都大学総合博物館)、山田小百合氏(NPO法人Collable)

リードユーザー:7人(車椅子利用者2人、徳島県



展示計画再点検ワークショップ（5月16日）

在住外国人2人、視覚障がい者1人、聴覚障がい者2人）

手話通訳者：2人

参加者：博物館職員、近代美術館職員、二十一世紀館職員、乃村工藝社社員

各リードユーザーの立場から見た現常設展の利用検証と課題の検討を行った。

●県民とともに新常設展を考えるワークショップ

5月25日（土）

参加者：県民10人、博物館職員、乃村工藝社社員
新常設展展示計画について、公募した県民等との意見交換を行った。

●「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ（2回目）

6月18日（火）

ファシリテーター：塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館）、山田小百合氏（NPO法人Collable）

リードユーザー：7人（車椅子利用者2人、徳島在住外国人2人、視覚障がい者1人、聴覚障がい者2人）

手話通訳者：2人

参加者：染川香澄氏（ハンズ・オンプランニング）、博物館職員、近代美術館職員、乃村工藝社社員

1回目（5月24日）の検討を踏まえ、課題解決に向けた実践方法の試行と、それにもとづく意見交換等を行った。

●新常設展運営に向けた研修

9月27日（金）

講義・ワークショップ「地域博物館のこれからを考える」

講師：河野まゆ子氏（JTB総合研究所）



県民とともに新常設展を考えるワークショップ（5月25日）

(3) 新常設展構築事業

12月には新常設展構築業務委託に係る入札を行い、株式会社乃村工藝社が落札した。3月、県議会での承認を得て、同社と契約を締結した。

元年度の展示製作に係る協議の日程は次のとおりである。

3月20日（金） 全体定例会

3月24日（火） 人文系分科会・自然史系分科会

3月25日（水） 全体定例会

(4) 常設展示室・企画展示室の改修・修繕

展示ケースなど各種設備・備品に経年劣化や破損が見られるようになり、早期の改修や修繕が望まれる。元年度は、部門展示室の扉の修理方法について検討した。また、企画展示室のウォールケースの一部を修繕した。

(5) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展リニューアルに向けて準備を進める一方で、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを継続している。元年度は、展示室を利用したイベントの充実や、トピックコーナーなどの更新などを行った。主な取り組みは、以下の通りである。

①部門展示（人文）における多様な展示の展開

人文、自然のテーマを織り交ぜて4回の展示替えを行った（詳細はp.4～5参照）。

②阿波の近世絵画の展示替えを2回行った（詳細はp.5参照）。

③チャレンジコーナーの更新

24年度から引き続いて、低年齢の子どもが利用しやすいよう「キッズ・チャレンジコーナー」を設置している。カーペットマットと座卓を設置し、土器パズルや塗り絵など体験学習的な内容を継続している。

④トピックコーナーの更新

速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。元年度は更新を6回行った（詳細は p.5～6 参照）。

⑤展示解説等の促進

- ・部門展示「文化の森の植物」、「アゲハチョウと甲虫」、「大嘗祭と阿波」、「博物館所蔵の刀剣」で展示解説を行った。「阿波晩茶の製造技術と製造用具」の展示解説は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

⑥展示解説シート等の配布

- ・部門展示「文化の森の植物」、「アゲハチョウと甲虫」、「大嘗祭と阿波」、「博物館所蔵の刀剣」、「阿波晩茶の製造技術と製造用具」、トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本」では、展示解説シートを新たに設置し、配布した。
- ・常設展示室内数箇所で作りのセルフガイドを設置・配布している。

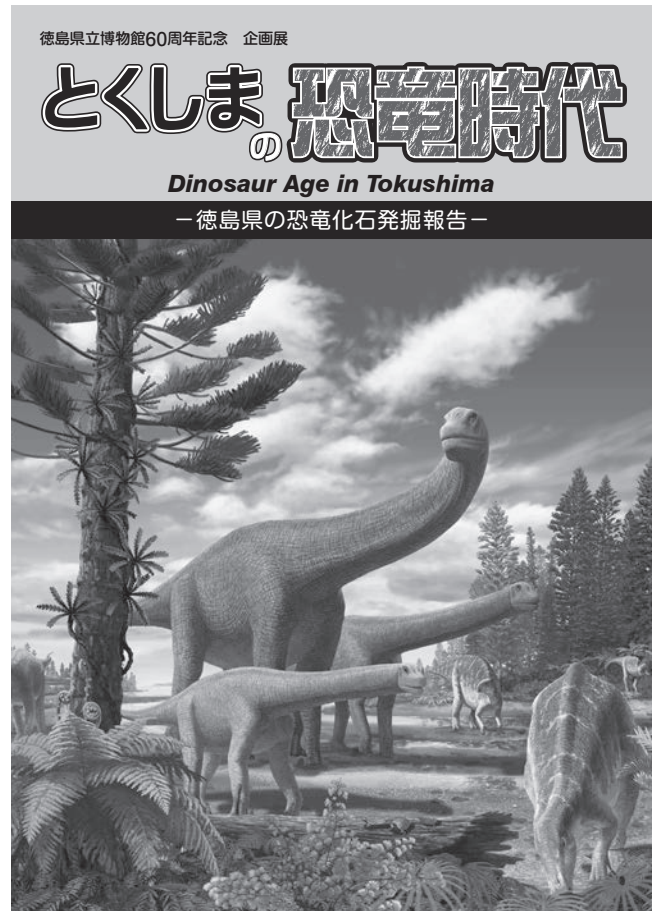
6. 展示関係出版物

■企画展図録

●第2回企画展図録「とくしまの恐竜時代—徳島県の恐竜化石発掘報告—」

編集・発行 徳島県立博物館

令和元年7月19日発行、A4判50ページ、750部
友の会増刷 300部



企画展図録「とくしまの恐竜時代—徳島県の恐竜化石発掘調査報告—」の表紙

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

令和元年度は、年間 91 回計画し、うち 86 回を実施し、5 回をコロナウイルス感染拡大防止等のため中止した。他にクイズラリーを 21 回行った。新しい内容の行事を行ったり、教員のためのイベントを開催したりして、時代に合った催し物を計画している。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊在住者が多いが、三好市や那賀町、香川県など県外からの参加も見られる。さらに、「歴史散歩」、「野外生きものかんさつ」、「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域で開催するなど、興味をもってもらえるような工夫をしている。

1. 普及行事

■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

6月 2日 (日)	弥生時代の鉄鍛冶にチャレンジ!	12人
7月 7日 (日)	さきどり自由研究、民具にチャレンジ	4人
1月 26日 (日)	拓本をとろう	12人



ワクワクむかし体験「拓本をとろう」

■歴史散歩

県内外の遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月 19日 (日)	五色塚古墳と淡路島の遺跡見学バスツアー	39人
6月 30日 (日)	徳島大空襲の史跡を歩こう	30人
3月 15日 (日)	洪野の古墳見学	中止

■野外生きものかんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察を通して学ぶシリーズ。

4月 28日 (日)	初めての植物かんさつ (春編)	47人
5月 11日 (土)	花巡り!植物かんさつハイキング5月～新緑の自然で癒やされよう!～	12人
6月 8日 (土)	初めての植物かんさつ (梅雨期編)	33人
7月 7日 (土)	花巡り!植物かんさつハイキング7月～真夏の森林浴～	27人
7月 13日 (土)	川魚かんさつ	31人
7月 20日 (日)	初めての植物かんさつ (夏編)	34人
7月 21日 (土)	夏の昆虫ウォッチング	30人
7月 28日 (日)	水生昆虫のかんさつ	51人
9月 1日 (日)	漂着物を探そう!	38人
9月 15日 (日)	花巡り!植物かんさつハイキング9月～秋の実りを見つけよう!～	12人



野外生きものかんさつ「川魚かんさつ」

18 普及教育

11月24日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング
11月~晩秋のあづり越えて温まろう!~ 15人

12月8日(日) 初めての植物かんさつ(冬編) 19人

2月8日(日) 初めての植物かんさつ(新春編) 19人

2月23日(日) 冬の昆虫ウォッチング 19人

■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や調理を通して学ぶシリーズ。

7月28日(日) 夏休みの自由研究に!植物の繊維を取ろう 37人

8月4日(日) 葉っぱのスタンプで遊ぼう 38人

10月20日(日) ドングリでピザを作ろう 36人

12月1日(日) クリスマスリースに一光る松ぼっくり工作 29人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。

7月14日(日) 貝化石標本をつくろう 24人

12月22日(土) 木の葉化石の発掘体験 27人

2月16日(日) アンモナイト標本をつくろう 29人

■生きものしらべ隊

昆虫や植物、化石などの調べ方を学び、自然の専門家をめざすシリーズ。

5月26日(日) スンプでかんたん顕微鏡かんさつ 33人

11月23日(土・祝) 電子顕微鏡で化石を見よう! 中止

3月8日(日) 電子顕微鏡で昆虫を見よう! 中止

3月22日(日) タンポポを調べよう 中止

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。



みどりを楽しもう・味わおう
「クリスマスリースに一光る松ぼっくり工作」

4月28日(日) ゼロから始める植物学~植物用語編~ 21人

6月8日(土) ゼロから始める植物学~名前の調べ方編~ 17人

7月20日(土) ゼロから始める植物学~標本の作り方編~ 30人

10月20日(日) 阿波の「ええじゃないか」と幕末社会 15人

12月8日(日) ゼロから始める植物学~植物の名前編~ 13人

2月8日(日) ゼロから始める植物学~標本整理編~ 9人

■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。元年度は、入門編として3回、初級編として5回、それぞれセットで実施した。

5月18日(土) ゼロからの古文書① 32人

6月15日(土) ゼロからの古文書② 27人

7月20日(土) ゼロからの古文書③ 28人

9月21日(土) 古文書に親しむ① 36人

10月19日(土) 古文書に親しむ② 26人

11月16日(土) 古文書に親しむ③ 35人

12月21日(土) 古文書に親しむ④ 33人

1月18日(土) 古文書に親しむ⑤ 35人

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全4回のうち1回は海陽町立博物館講師が担当した。

6月16日(日) 海陽町の蝶 36人

7月28日(日) 以西底曳網漁船の漁業日誌 17人

8月25日(日) 山を登ったドジョウ:ナガレホトケドジョウ 17人

9月22日(日) 近世阿波の工芸職人 8人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「ミネラルズ2019」関連行事

4月27日(土) 企画展「ミネラルズ2019」展示解説 80人

5月4日(土・祝) 企画展「ミネラルズ2019」展示解説 136人

5月12日(日) 眉山の地質見学-眉山の岩石・鉱物かんさつ- 20人

5月26日(日) 企画展「ミネラルズ2019」展示解説 100人

●企画展「とくしまの恐竜時代」関連行事

7月21日(日) 企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説 120人

8月 4日(日)	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	175人
8月 18日(日)①	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	95人
8月 18日(日)②	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	135人
9月 1日(日)	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	222人
9月 7日(日)	化石レプリカをつくろう	27人
●特別陳列「博物館60周年記念展」関連行事		
10月 6日(日)	特別陳列「博物館60周年記念展」展示解説	43人
11月 3日(日・祝)	特別陳列「博物館60周年記念展」展示解説	52人
●特別陳列『板東俘虜収容所』の世界展」関連行事		
12月 22日(日)	特別陳列「『板東俘虜収容所』の世界展」展示解説	15人
1月 12日(日)	特別陳列「『板東俘虜収容所』の世界展」展示解説	23人
1月 13日(日・祝)①	ガリ版刷り体験ワークショップ	15人
1月 13日(日・祝)②	ガリ版刷り体験ワークショップ	15人
●部門展示関連行事		
4月 28日(日)	部門展示「文化の森の植物～植物相の移り変わり～」展示解説	33人
6月 8日(土)	部門展示「文化の森の植物～植物相の移り変わり～」展示解説	20人
7月 14日(日)	部門展示「アゲハチョウと甲虫－愛好家たちのコレクション－」展示解説	54人
8月 11日(日)	部門展示「アゲハチョウと甲虫－愛好家たちのコレクション－」展示解説	56人
9月 29日(日)	部門展示「アゲハチョウと甲虫－愛好家たちのコレクション－」展示解説	32人
10月 27日(日)	部門展示「大嘗祭と阿波」展示解説	20人
11月 17日(日)	部門展示「大嘗祭と阿波」展示解説	35人
12月 15日(日)	部門展示「博物館所蔵の刀剣」展示解説	26人
1月 12日(日)	部門展示「博物館所蔵の刀剣」展示解説	34人

3月 20日(日) 部門展示「阿波晩茶の製造技術と製造用具」 中止

■その他の普及行事等(博物館スペシャルなど)

●文化の森こどもの日フェスティバル

5月5日(日・祝)

文化の森6館による春期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「化石のクリーニング実演」、「ミクロの世界」、「昔のあそびいろいろ」、「紙しばい バーナムの骨」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「ぬり絵とすごろくで楽しもう」を行った。

参加者：1,884人

●県民とともに新常設展を考えるワークショップ

5月25日(土)

常設展のリニューアルに向けて、新常設展をよりよいものにするため、県民とともにそのあり方について、参加者公募型のワークショップを開催し、率直な意見交換を行った。

参加者：10人 専門家：1人

●「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ

5月24(金) 6月18日(火)

だれもが楽しめる博物館の展示や情報提供のあり方についてワークショップを行い、リードユーザーとともにアイデアを出し合い検討した。

5月24日(参加者：7人 専門家：2人)

6月18日(参加者：7人 専門家：2人)

●教員のための博物館の日 in 徳島 2019

7月24日(水)

教職員に、博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうことを目的としたイベント。国立科学博物館の提唱により、同館及び趣旨に賛同した各地の博物館で開催されている。当館では、25年度に初めて開催し、7回目となる。(詳細はp.23参照)。

参加者：22人

●藍の葉っぱであそぼう

7月24日(水)

「とくしま藍の日」の7月24日に、タデアイを使って、藍染めについての体験的な活動を行った。

参加者：21人

●科学体験フェスティバル in 徳島への出展

徳島大学で開催された第22回科学体験フェスティバル in 徳島(8月3日(土)・4日(日))に、テーマ「暗やみで光る!?化石や勾玉のレプリカを作ろう!!」をボランティアスタッフとの協働で出展した(詳細はp.48参照)。

参加者：1,522 人（3日 834 人、4日 930 人）

ボランティアスタッフ：29 人（3日 18 人、4日 11 人）

●親子切り絵教室～恐竜をつくろう～

企画展「とくしまの恐竜時代」にちなみ、親子を対象に、2階常設展示室キッズチャレンジコーナーにおいて、図書館スタッフと協働で行った。

参加者：170 人（7月31日 48 人、8月6日 70 人、20日 52 人）

●標本の名前を調べる会

8月17日（土）

毎年8月に行う恒例の行事で、学芸員のほか3人の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者：38 名

●文化の森サマーフェスティバル

8月18日（日）

文化の森6館による夏期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、普段見ることができない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館わくわくバックヤードツアー」を実施した。また、2階常設展示室において「大昔の道具に触ってみよう」、「自然標本に親しもう」、「紙しばい とかげのぺろちゃん」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「民族衣装にチャレンジ！」をそれぞれ行った。

参加者：1,407 人

●文化の森 大秋祭り!!

11月3日（日・祝）

文化の森6館による秋期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「人形頭のしくみをしらべよう!」、「ペタペタイきもののスタンプであそ

ぼう!」、「博物館資料をつかってプラバンをつくろう!」、「紙しばい ぼくはてんとうむし」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「絵あわせパズルにチャレンジ!」をそれぞれ行った。

参加者：1,010 人

●あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」への出展

あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」（11月4日（月・祝））に、「恐竜の骨格模型の組み立て」をボランティアスタッフとの協働で出展した。また、自然や身の回りにある身近な「もの」にブラックライトを照射する体験もおこなった。（詳細は p.48 参照）。

参加者：705 人

ボランティアスタッフ：4 人

●手話通訳 & 要約筆記付き常設展見どころ解説

12月1日（日）

より多くの人に博物館の展示を楽しんでもらうため、手話通訳付きで常設展示室の見どころ解説を行った。これまでの経験をふまえ、触察資料も用いた解説を行ったところ、参加人数は少なかったがわかりやすいと高評価であった。

参加者：3 人

●視覚障がい者のための常設展見どころ解説

12月15日（日）

より多くの人に博物館の展示を楽しんでもらうため、常設展の見どころを時代ごとに、触察資料を用いながら解説した。参加者は地学、歴史に興味があり、岩石の触察、考古資料のレプリカの触察と解説に満足したようであった。視覚障がい者のみならず、多くの人にとって展示資料へのより深い理解へつなげることができると気づかされた。



「文化の森サマーフェスティバル」での「紙しばい とかげのぺろちゃん」



「聴覚障がい者のための常設展見どころ解説」

参加者：9人

●文化の森ウィンターフェスティバル

2月11日（火・祝）

文化の森6館による冬期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による「博物館Vキング」を実施した（詳細はp.48参照）。

参加者：1,264人

●鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2月16日（日）

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵の取り組みを踏まえ、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、28年度から実施しており、元年度で4回目となった。研究レポート（鳥居龍蔵研究、地域研究）を公募し、フォーラム（発表会）での口頭発表をしてもらった上で、優れた成果を表彰した。応募は中学生5件、高校生6件で、中学生5件、高校生5件を表彰対象とした。

参加者：76人

●徳島の恐竜化石シンポジウム「恐竜化石最前線～徳島の恐竜化石をもっと発掘！さらに発信！」

3月29日（日）

参加者：39人

★クイズラリー（その他の行事）

毎月第2・第4土曜日に、高校生以下を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月13日 80人（未就学35・小44・中1・高0）

4月27日 103人（未就学32・小68・中3・高0）

5月11日 81人（未就学20・小57・中4・高0）

5月25日 71人（未就学22・小43・中2・高4）

6月8日 105人（未就学35・小63・中7・高0）

6月22日 63人（未就学28・小33・中1・高1）

7月13日 93人（未就学47・小39・中6・高1）

7月27日 207人（未就学108・小89・中5・高5）

8月10日 250人（未就学122・小122・中3・高3）

8月24日 242人（未就学127・小109・中6・高0）

9月14日 86人（未就学46・小38・中0・高2）

9月28日 96人（未就学51・小45・中0・高0）

10月12日 台風接近のため中止

10月26日 75人（未就学38・小36・中1・高0）

11月9日 81人（未就学34・小46・中0・高1）

11月23日 96人（未就学39・小42・中15・高0）

12月14日 70人（未就学36・小32・中1・高1）

12月28日 66人（未就学31・小32・中1・高2）

1月11日 108人（未就学70・小37・中0・高1）

1月25日 147人（未就学73・小43・中1・高30）

2月8日 87人（未就学51・小34・中1・高1）

2月22日 92人（未就学42・小46・中2・高2）

3月14日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3月28日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

参加者合計 2,299人

（未就学1,087・小1,098・中60・高54）

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場である。また、学習指導要領にも、博物館等の社会教育機関の活用が明記され、博物館に対しても積極的な学校教育への支援が要請されている。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携（博学連携）のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

また、25年度に四国で初めて実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」を継続している。このイベントを開催することにより、教職員に当館の学校教育支援事業、施設、収蔵資料等についての理解を深めてもらい、授業等学校における活動で博物館を活用する方法を知ってもらうことを目指している。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援（館内授業）

講座室や実習室において、理科や社会科の授業と関連して、学年単位で博物館が利用されている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見たりさわったりしてもらうなどの体験的な活動も取り入れている。

22 普及教育

- ①藍住南小学校（藍住町） 5月31日（金）
5年生 101人
メダカの誕生（講師：井藤）
- ②上八万小学校（徳島市） 5月31日（金）
3年生 46人
こん虫のかんさつ（講師：山田）
- ③北島南小学校（北島町） 10月10日（木）
3年生 72人
町の様子の変り変わり（講師：磯本）
- ④美馬小学校（美馬市） 10月23日（水）
3年生 52人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑤江原南小学校（美馬市） 10月24日（木）
3年生 43人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑥大俣小学校（阿波市） 10月25日（金）
4・5年生 35人
メダカのかんさつ（講師：井藤）
- ⑦八万南小学校（徳島市） 11月21日（木）
3年生 104人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑧徳島大学あゆみの森保育園（徳島市） 12月13日（金）
3歳児 21人
どんぐりの木をみつけよう など（講師：小川）
- ⑦津田小学校（徳島市） 9月18日（水）
3年生 102人
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑧知恵島小学校（吉野川市） 10月8日（火）
3学年 16人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑨南井上小学校（徳島市） 10月11日（金）
3学年 60人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑩城西高校神山校（神山町） 10月15日（火）
1学年 29人
科学と人間生活（講師：山田）
- ⑪助任小学校（徳島市） 11月13日（水）
6年生 151人
戦争と人々のくらし（講師：松永）
- ⑫博物館・脇町高校TV会議（美馬市） 11月13日（水）
2年生 6人
課題研究（ヨシノボリおよびタナゴの生態について）（講師：井藤）
- ⑬津田小学校（徳島市） 12月3日（火）
3年生 102人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑭三野中学校（三好市） 12月10日（火）
1学年 41人
人々の衣服を染めた阿波の藍（講師：庄武）
- ⑮学島小学校（吉野川市） 12月11日（水）
3学年 26人
変わるわたしたちのくらし（講師：庄武）
- ⑯横見小学校（阿南市） 1月15日（水）
3年生 10人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑰吉井小学校（阿南市） 1月21日（火）
3年生 10人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑱渋野小学校（徳島市） 1月22日（水）
3年生 49人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑲内町小学校（徳島市） 1月28日（火）
3年生 41人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑳徳島聴覚支援学校（徳島市） 2月7日（金）
小学部3年 4人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ㉑平島小学校（阿南市） 2月14日（金）
3年生 58人
昔の道具を調べよう（講師：磯本）
- ㉒富田中学校（徳島市） 2月14日（金）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①徳島文理小学校（徳島市） 4月26日（金）
6年生 45人
大昔の暮らしをさぐる（講師：岡本・植地）
- ②川島小学校（吉野川市） 5月7日（火）
6年生 27人
大昔の暮らしをさぐる（講師：岡本・植地）
- ③広野小学校（神山町） 6月20日（木）
全学年 34人
水生生物調査（講師：山田）
- ④牛島小学校（吉野川市） 7月12日（金）
3学年 18人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑤吉野川市交流推進会議（吉野川市） 7月31日（水）
全学年 40人
交流体験 in よしのがわ（講師：佐藤・井藤）
- ⑥トータルキッズサービス（徳島市） 8月6日（火）
全学年 20人
夏休みの自由研究（講師：井藤）

1年生 131人

徳島大空襲（講師：松永）

②羽ノ浦小学校（阿南市） 2月14日（金）

3年生 133人

昔の道具とくらし（講師：庄武）

④加茂名南小学校（徳島市） 2月18日（火）

3年生 94人

昔の道具とくらし（講師：庄武）

⑤沖洲小学校（徳島市） 2月19日（水）

3年生 98人

昔の道具とくらし（講師：庄武）

⑥昭和小学校（徳島市） 2月21日（金）

3年生 56人

昔の道具とくらし（講師：磯本）

⑦高越小学校（吉野川市） 2月25日（火）

3年生 27人

昔の道具とくらし（講師：磯本）

(3) 遠足

保育園・幼稚園、各種学校、教育関係機関等の来館がある。受付案内員による常設展示解説の案内に加え、26年度より企画担当職員が、体験的な活動やワークシートなどを使った案内を行っている。

26年度以降の校種別入館数（その他含む）、地域別入館数（その他含む）は、表の通りである。「その他」とは、放課後児童クラブ、発達支援施設などである。

地域別では徳島市が圧倒的に多い。当館より遠くなるにつれて少ないが、県内各地からの入館がある。毎年、香川県の学校の入館もある。

(4) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員に

は、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

①黒崎小学校（鳴門市） 4月20日～4月28日

貸出資料：火おこしの道具 7セット

使用目的：社会科授業で利用するため

②徳島文理中学校（徳島市） 4月15日～5月11日

貸出資料：火山岩4（普賢岳の岩石、火山弾、火山灰、軽石）、主要な岩石6（花崗岩、安山岩、玄武岩、流紋岩、閃緑岩、斑レイ岩）
計10点

使用目的：授業で観察を行うのに使用するため

③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）

5月29日～6月7日

貸出資料：徳島藩藩札 5点

使用目的：社会科（歴史的分野）授業で活用

④市場中学校（阿波市） 6月18日～6月25日

貸出資料：ナウマンゾウの臼歯化石（レプリカ）1点

使用目的：社会科（歴史的分野）授業「日本列島の誕生」で提示するため

⑤八万中学校（徳島市） 9月26日～9月30日

貸出資料：写真パネル13、徳島大空襲遺物2、焼夷弾（複製）1、計16点

使用目的：徳島大空襲についての理解を深めるため

⑥海南小学校（海陽町） 10月26日～11月16日

校種別入館件数（件）

年度	幼稚・保育園	小学校	中学校	高校	その他	計
H26	24	56	6	7	11	104
H27	19	56	0	1	17	93
H28	26	58	3	1	11	99
H29	32	63	3	7	4	109
H30	37	60	3	1	22	123
R1	22	63	0	4	50	139

地域別入館者件数（件）

年度	徳島市	板野郡	鳴門市	小松島市	阿南市	名西郡	阿波市	吉野川市	那賀郡	美馬市	三好市	県外	計
				勝浦郡		名東郡			海部郡	美馬郡	三好郡		
H26	48	8	2	9	6	3	6	8	4	4	3	3	104
H27	38	9	4	3	10	3	5	9	4	2	2	4	93
H28	52	4	3	9	6	3	5	5	5	1	3	3	99
H29	52	6	8	3	13	2	8	5	3	1	4	4	109
H30	49	18	4	9	17	4	5	6	5	2	2	2	123
R1	53	34	3	7	19	2	4	8	3	3	2	1	139

24 普及教育

貸出資料：ネパール産アンモナイト4、マダガスカル産アンモナイト7、サメの歯化石5、モササウルスの歯5、三葉虫5、ナウマンゾウ臼歯レプリカ1、計27点

使用目的：理科学習の資料として利用

⑦助任小学校（徳島市） 10月30日～11月13日

貸出資料：写真パネル11、徳島大空襲遺物2、焼夷弾（複製）1、計14点

使用目的：徳島大空襲についての理解を深めるため

⑧八万小学校（徳島市） 10月30日～11月19日

貸出資料：三葉虫7、ノジュール中のアンモナイト7、カルカロドンの歯7、モササウルスの歯7、ヌムリテス7、ナウマンゾウ歯レプリカ1、計36点

使用目的：理科授業で使用するため

⑨相生中学校（那賀町） 11月11日～3月31日

貸出資料：「相生中学校付近」2007年8月10日（空中撮影写真）1点

使用目的：学校での展示に用いるため

⑩川内南小学校（徳島市） 12月4日～12月20日

貸出資料：三葉虫5、マダガスカル産アンモナイト5、カルカロドンの歯5、モササウルスの歯5、ヌムリテス5、ナウマンゾウ臼歯レプリカ1、計26点

使用目的：理科授業「大地のつくりと変化」で地層のなりたちやそこから見つかる化石について学ぶため

⑪富田中学校（徳島市） 2月12日～2月26日

貸出資料：写真パネル10、徳島大空襲遺物3、焼夷弾（複製）2、計15点

使用目的：戦争についての理解を深めるため

⑫八万小学校（徳島市） 2月14日～2月28日

資料貸出：羽釜1、こて1、炭火アイロン1、たらい1、わらぞうり1、竿秤1、箱まくら1、置炬燵1、計8点

使用目的：社会科「昔の道具とくらし」授業で使用するため

⑬応神小学校（徳島市） 2月25日～2月28日

貸出資料：羽釜1、飯びつ1、洗濯板1、たらい1、自在鉤1、鉄瓶1、火箸1、火消し壺1、箱膳1、さおばかり1、炭火アイロン、草履1、計13点

使用目的：社会科「昔の道具とくらし」授業で使用するため

(5) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生

徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

①南部中学校（徳島市） 5月14日～16日
3年生 4人

②徳島中学校（徳島市） 6月4日～5日
3年生 3人

③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）
6月26日～28日
2年生 4人

④八万中学校（徳島市） 7月2日～4日
3年生 3人

⑤川内中学校（徳島市） 10月1日～3日
2年生 3人

⑥城ノ内中学校（徳島市） 10月30日～31日
3年生 1人

⑦脇町高等学校（美馬市） 12月17日～18日
2年生 1人

(6) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

①教員のための博物館の日 in 徳島2019

（県教育委員会大学・研究機関等研修、フレッシュ研修、ミドルリーダー研修）

7月24日（水）参加者22人

・「授業で博物館をどうやって使うの？」

（講師：西川）

・展示案内・解説「徳島の自然と歴史（常設展等の解説と質問）」

A：理科コース 徳島の自然（案内：自然課学芸員）

B：社会科コース 徳島の歴史（案内：人文課学芸員）

B：企画展コース とくしまの恐竜時代（案内：辻野）

D：鳥居龍蔵記念博物館コース（案内：鳥居龍蔵記念博物館学芸員）

・見学ツアー「博物館の裏側」博物館のバックヤード見学（講師：小川・大橋）

・見て触れて聞いて実感！「徳島の自然と歴史」（学芸員による貸し出し資料の紹介、講師：学芸員全員）

②吉野川市小学校理科部会教員研修

8月2日（金）参加者8人

・昆虫標本の作成等（講師：山田）

③美馬地区理科部会小教員研修会

8月19日（月）参加者7人

・メダカの観察、昆虫標本の作り方（講師：山田・



「教員のための博物館の日」の「博物館のバックヤード見学」

井藤)

- ④県教育委員会フレッシュ研修Ⅰ・企業等研修
8月20日(火)・21日(水)・23日(金) 参加者
4人
・資料整理等(講師:学芸員ほか)
- ⑤平島学童クラブ研修会(阿南市平島公民館)
10月23日(水) 参加者50人
・葉っぱのスタンプ作りなどの植物を使った普及及
行事の紹介(講師:小川)
- ⑥県高校理科学会化学部会研修会
12月13日(金) 参加者15人
・バックヤード見学等(講師:中尾)

(7) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業や放課後児童クラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることとしている。

3. インバウンドへの対応

(1) 外国人観光ツアー客の来館

中国香港・徳島間の期間限定定期航空便の就航により、外国人の団体観光客による来館が5件あった。うち2件については、学芸員の専門分野に関する展示等の特設するなど、インバウンド向けの解説を行った。

- ①12月18日(水) 40人 自由見学
②12月25日(水) 20人 自由見学
③1月8日(水) 29人 自由見学
④1月15日(水) 36人 トピックコーナー「奇怪! 魚類の頭骨標本~河野コ

レクシオンより~」解説(担当:
井藤)

- ⑤1月22日(水) 36人 「ナウマンゾウの歯」等の解説(担当:中尾)

4. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する"Culture Club"、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で8,000部を印刷している。

令和元年度は、次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No.115(2019年6月25日発行)

表紙 徳島県勝浦町産の獣脚類恐竜の脛骨化石
Culture Club 県民の力で文化の森の植物を調べる
~『中級クラス植物観察会』の活動
から~

企画展 とくしまの恐竜時代—徳島県の恐竜化石発
掘報告—

収蔵品紹介 延喜式と三木家文書—古代・中世の大
嘗祭関係資料—

情報ボックス 『絵本目録覚』—徳島藩の絵師の絵
手本リスト—

Q&A クスノキの葉に寄生する外来昆虫がいるよ
うですが、何ですか?

●No.116(2019年9月25日発行)

表紙 60年前に生まれた博物館
Culture Club 本当に同じ種?~ナガレホトケド
ジョウにみられる種内変異~

特別陳列 とくしまタイムトラベル—過去・現在・
未来—

収蔵品紹介 ヌマコダキガイ類の化石

情報ボックス 植物を赤く光らせよう

Q&A 「だらだら祭り」と呼ばれる祭りがあると
聞きましたが、なぜそう呼ぶようになった
のですか?

●No.117(2019年12月3日発行)

表紙 刀

Culture Club 徳島藩と大井川—徳島藩家老が寄進
した石碑探訪—

部門展示 博物館所蔵の刀剣

野外博物館 暖かい森の木になるシダ~へゴ~

情報ボックス 太宰府天満宮のおふだ

Q & A 弥生時代や古墳時代には、どのような方法でお米を炊いていたのですか？

● No.118 (2020年3月25日発行)

表紙 光格上皇修学院御幸儀仗図

Culture Culb 外来植物とのつきあい方

企画展 蔵出し！とくしま”宝もの”展

収蔵品紹介 世界に一つだけの「じんぞく」

速報 2019年度の恐竜化石含有層（ボーンベッド）の本格発掘調査を実施

Q & A 遺跡から出土した鉄製品はどのように保存するのですか。

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判パンフレットを7万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、14人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

令和元年度は、次の1件の課題調査を行った。

(1) 金属製考古資料の発錆に関する調査

金属製の考古資料は、製作時から非常に長い時間が経過している。博物館所蔵資料に限っても、古いものでは弥生時代の資料で約2,000年、多くは古墳時代の資料で約1,500年が経過している。その姿は、資料全体が腐食生成物に覆われるなど、製作時或使用時から大きく変化した状態で、特に鉄製品については、表層と内部の剥離や膨張による変形・折損などが著しく、一般的には「サビた」「腐食した」と呼ばれる状態となっている。

出土鉄製品の腐食の進行について、埋蔵期間中と出土後の二つに注目する。我々が最初に目にするのは遺跡から出土した時で、すでに錆に覆われた姿となっていることが大半である。そして、出土した後は大気中で保管することになるが、出土直後から腐食は急激に進行し、新たな腐食が生じて折れたり割れたりして大きく破損することが多い。これは資料保管環境が腐食の進行や成長に強く関与していることを示す。また、発錆・折損の位置や状態は、いくつかのパターンが確認できるが、これは金属製品の材質や構造、製造技法によって特徴があるものと考えられる。

本調査では、鉄製考古資料の保存と調査研究・活用に資するため、鉄製考古資料の腐食状況調査を実施し

た。

●調査メンバー

博物館学芸員：植地岳彦（考古・保存科学）

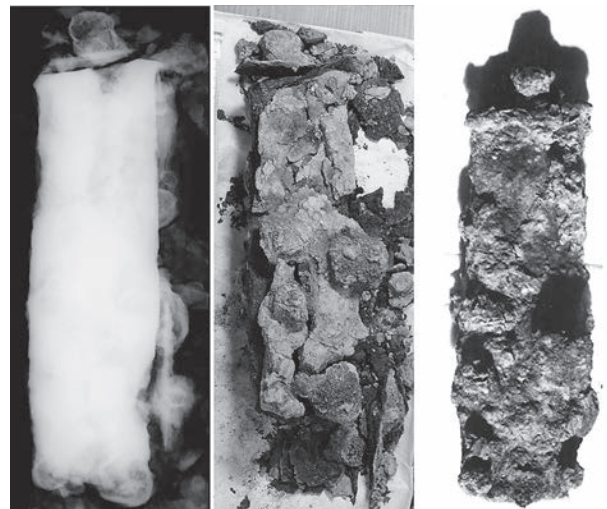
●調査概要

旧館時代から所蔵している古墳時代の出土鉄製品を中心に、現状把握を行い、今回の調査対象として、1960年代から博物館で保管をしている資料で、出土の状況と保管に至る経過、保存処理記録が明らかな2つの古墳出土品を選択した。

一つは節句山古墳群出土鉄製品6点で、発掘調査報告書に記載がある。もう一つは泉谷古墳出土鉄製品で、発掘調査は実施されておらず埋蔵文化財の保管に関する書類があるのみで、ほとんど記録がない鉄製品13点である。

これらの資料の大半は1980年代に保存処理と修復が行われ、現在は新たな腐食もなく安定しているが、出土直後の写真と保存処理前の写真を比較すると、いずれも腐食が生じていたこと、腐食の状態が資料によっては異なるものもあることが確認できる。

また、節句山2号墳出土の板状鉄斧は、保存処理・修復が実施されないまま保管され、大きく破損した状態であった。この鉄斧については、保存処理を実施しないまま出土から60年近く経過した古墳時代の鉄製品として、発錆状態の調査を実施した。外観やX線透過写真での観察と記録を行った後、保存処理として脱塩処理を開始し、その際に検出される塩化物イオン



課題調査の対象鉄製品（節句山古墳出土鉄斧）

の量を定期的に測定している。脱塩処理開始後 100 日以上が経過しても、一定量の塩化物イオンを検出している。

今後は、腐食の形態が異なる古墳時代の出土鉄製品についても調査を行い、出土後に進行する鉄製考古資料の腐食の実態を明らかにしていく。

2. 日本最古級恐竜化石含有層 調査・発掘信プロジェクト

徳島県勝浦町には、白亜紀前期（約 1 億 3000 万年前）の地層である立川層が分布する。平成 6 年に立川層から四国初となる鳥脚類イグアノドン類の歯化石が発見された。その後、平成 28 年に徳島県で 2 つ目の恐竜の化石（竜脚類ティタノサウルス形類の歯）が発見された。この発見を受け、当館は、福井県立恐竜博物館や徳島県内の化石愛好家の協力を得て、同年冬から 30 年春まで、断続的に恐竜化石発見地点周辺の地質調査を行ってきた。その結果、30 年 4 月に恐竜化石などの脊椎動物化石を多く含む層（ボーン・ベッド）を発見し、多数の恐竜化石を採集した。そして、令和元年 10 月 24 日から 12 月 27 日までの約 2 ヶ月間、本格的な発掘調査を実施した。

元年度の発掘調査は、ボーン・ベッドを安全に、そして効率的に大きく露出させるため、重機（小型ショベルカー）を導入した。化石が含まれる可能性が高い岩石は、発掘現場のやや後方の広場や後方支援施設（徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校勝浦ほ場）に運搬し、県内の化石愛好家や阿波井戸端塾などの協力を得て、岩石の小割作業と化石の探索を行った。発掘調査では、中四国初となる肉食恐竜（獣脚類）の完全な歯の化石などを発見した。



発掘作業（令和元年 11 月 25 日撮影）

●調査メンバー

博物館学芸員：辻野泰之（地学）・中尾賢一（地学）
佐藤陽一（動物）

館外調査者：東 洋一氏（福井県立恐竜博物館）
藺田哲平氏（福井県立恐竜博物館）
河部壮一郎氏（福井県立恐竜博物館）
中山健太郎氏（福井県立恐竜博物館）
小笠原憲四郎氏（筑波大学名誉教授）
橋本寿夫氏（元・中学校教員）
両角芳郎氏（元・徳島県立博物館）

調査協力者：34 名（徳島県化石同好会・徳島化石研究会・阿波勝浦井戸端塾・阿南市科学センター・金沢大学大学院生・広島大学大学院生など）

業務委託業者：6 名

●調査日程

10 月 24 日（木）～ 12 月 27 日（金）
化石発掘現場での調査
12 月 16 日（月）～ 12 月 24 日（火）
後方支援施設での作業

●調査概要および結果

化石発掘現場の調査および後方支援視察での小割作業において、肉食恐竜（獣脚類）の歯化石などを含む 59 点の脊椎動物化石を発見した。

内訳は以下のとおりである。

・肉食恐竜（獣脚類）の歯	1 点
・竜脚類の歯	1 点
・恐竜の骨質化した腱化石	1 点
・カメの甲羅化石	26 点
・ワニの歯	1 点
・硬鱗魚などの魚類のウロコ化石	14 点
・淡水生サメ類の歯化石	4 点
・その他 骨片化石	11 点



勝浦町産の肉食恐竜（獣脚類）の歯

採集された脊椎動物化石は、現在も徳島県立博物館および福井県立恐竜博物館で、整理作業を行い、岩石から取り出すためのクリーニングを実施中である。

●勝浦町恐竜化石発掘活性化協議会

徳島県をはじめ勝浦町、関係団体等が密接な連携のもと、恐竜化石産地周辺の環境に配慮した発掘調査を促進し、県民参加型の発掘の仕組みの検討や恐竜を核とした魅力の発信等を通じて、徳島県及び勝浦町の地方創生、地域活性化を図ることを目的にして協議会を設置した。元年度は2回開催した。

第3回 令和元年9月19日(木)
13時30分～15時
会場 勝浦町役場

第4回 令和2年3月30日(月)
13時30分～15時
会場 徳島県立博物館

●勝浦町恐竜発掘活性化協議会委員等名簿

(令和2年3月31日現在)

氏名	役職等
小笠原 憲四郎(委員長)	筑波大学名誉教授、元国立科学博物館客員研究員
石田 啓祐	徳島大学理工学部名誉教授
白石 弘幸	徳島県化石同好会代表(代理)
稲井 稔	特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端理事長
堀 雅昭	地元自治区長
竹内 敏	徳島県教育委員会教育次長
森吉 雅史	徳島県教育委員会文化の森振興本部企画振興部長
新居 美佐子(副委員長)	徳島県立博物館長
市川 公雄(副委員長)	勝浦町教育委員会教育長
笹山 芳宏	勝浦町教育委員会事務局長
田上 賢児	徳島県政策創造部地方創生局地方創生推進課長
阿部 順次	徳島県商工労働観光部観光政策課長
石木 正昭	勝浦町企画交流課長
東 洋一(オブザーバー)	福井県立恐竜博物館特別館長、福井県立大学恐竜学研究所特任教授



シンポジウム

●クラウドファンディング

恐竜化石発掘のための支援金を県内外から広く集めるため、Otsucle(おつくる)(運営:一般社団法人大学支援機構)を利用したクラウドファンディング「国内最古級恐竜化石本格発掘調査プロジェクト—徳島県で恐竜化石をもっと発掘したい!—」を実施した。目標額100万円のところ、7月12日から9月17日までの約2ヵ月間で、93人のサポーターから1,543,000円の支援金が集まった。

●シンポジウム

徳島県勝浦町で発見された恐竜化石の発掘調査の結果とその意義を紹介するとともに、その魅力を発信するため、徳島の恐竜化石シンポジウム「徳島の恐竜化石をもっと発掘!さらに発信!—徳島恐竜化石 最前線!!—」を実施した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、一般参加者なしで実施した。内容は、映像収録をし、YouTubeの徳島県チャンネルなどに配信した。

日時・場所:令和2年3月29日(日)13時30分～15時(徳島グランヴィリオホテル)

パネリスト:飯泉嘉門氏(徳島県知事)
野上武典氏(勝浦町長)
東 洋一氏(福井県立恐竜博物館特別館長)
小笠原 憲四郎氏(元・日本古生物学会長)
CAN氏(恐竜画家・勝浦町ふるさと恐竜大使)
辻野泰之(当館学芸員)

●記者会見

勝浦町の恐竜化石発掘調査に係わる記者会見を2件行った。

①勝浦町恐竜化石含有層で発見された肉食恐竜(獣脚類)の歯化石について

日時・場所:令和元年12月20日(金)
13時～15時(徳島県立博物館講座室)

説明者:辻野泰之(当館学芸員)

②徳島県勝浦町から発見された日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石について

日時・場所:令和2年2月10日(月)
13時～15時(徳島県立博物館講座室)

説明者:藺田哲平氏(福井県立恐竜博物館)
辻野泰之(当館学芸員)

3. 分野別（個別）調査研究

山田量崇（動物・無脊椎動物）

- ①トコジラミ上科半翅類の外傷性授精に関する研究
トコジラミ類の特異的な交尾様式について、とくに雌雄交尾器の機能と構造に着眼して研究を進めた。
- ②ムクゲカメムシ下目の分類学的研究
ムクゲカメムシ下目カメムシ類の分類学的研究を進めた。日本産ムクゲカメムシ科ムクゲカメムシ属の2新種を記載した。
- ③半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明
カメムシ目昆虫の交尾器の形質データを蓄積するため、国内各地にてサンプリングを行った（北海道大学科研費による分担研究）。
- ④新害虫ビワキジラミの防除対策の確立に関する研究
2019年度イノベーション創出強化研究推進事業「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」の一環として、ビワキジラミの天敵昆虫相の調査を行った。（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構を代表機関とする共同研究事業）

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

- ①徳島県淡水魚類相調査
穴吹川で魚類相調査を行った（奥村大輝氏と共同）。
- ②ドローンによる県内河川・海岸の空撮
淡水魚類等の生物の分布は河川争奪や盆地・平野の氾濫原などにおける溢流など地史の影響を大きく受けていると考えられる。その表れが地形である。これまで関心ある地域の空撮は手軽にできるものではなかったが、高性能で小型のドローンが開発されたことにより、容易に撮影できるようになった。当館では平成29年度末にドローンを導入し、30年度より河川流域の空撮を開始した。令和元年度は①の調査に関連して穴吹川流域や日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査事業に関連して勝浦川流域、新常設展構築事業に関連して紀伊水道など海岸域でも撮影を行った。

井藤大樹（動物・脊椎動物）

- ①徳島県淡水魚類相調査
穴吹川で魚類相調査を行った（奥村大輝氏と共同）。
- ②徳島県汽水・海水魚類調査
徳島県での汽水性ハゼ類やサメ類の調査を行った。本県におけるオナガザメ科ハチワレの漂着記録を報告した（有田忠弘氏と共同）。
- ③ホトケドジョウ類の分類学的研究

日本産ホトケドジョウ類の分類学的研究を進めた。日本産ホトケドジョウ属の1新種を記載した（山梨大学の宮崎淳一教授、近畿大学の細谷和海名誉教授と共同）。

- ④外来魚類ブラックバスの環境教育教材化に関する研究
オオクチバスおよびコクチバスの骨格標本の作製方法をマニュアル化し、環境教育用教材の資料としてまとめた（東山中学・高等学校の田中和大氏、近畿大学の細谷和海名誉教授と共同）。

小川 誠（植物）

- ①県産植物相の調査
徳島県の植物相の調査を行った（木下覺氏らと共同）。元年度は阿波学会の調査をかねて海陽町の植物相について調査を行った。
- ②タンポポの分布調査
市民参加型調査であるタンポポ調査を3月1日から実施した。
- ③市民の協力による普及行事の開発
「みどりのサポート隊」を募集し、市民ボランティアとの協働による普及行事の開発や改良を試みた。その成果をもとに元年度には新しい行事を加えることができた。
- ④自然に興味を持ってもらうためのツールの開発
ブラックライトで光る資料を収集し、徳島大学科学体験フェスティバルなどを通じて、自分で発見できることの喜びなどを知ってもらう活動を行った。さらに博物館ショップ用巡回資料を倉敷市立自然史博物館や面河山岳博物館に貸し出し、ワークショップの開催の支援を行った。

茨木 靖（植物）

- ①県産植物相の調査
徳島県の植物相の調査を行った（木下覺氏らと共同）。
- ②イネ科植物の比較研究
国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。
- ③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査を行った（濱直大氏らと共同）。

中尾賢一（地学）

- ①鮮新統～更新統の貝化石相の調査
長崎県と高知県で堆積構造の観察と貝化石の採集及び二枚貝類の分類学的研究を行った（三本健二氏と一部共同）。
- ②勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査
勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会などと共同）。
- ③海陽町の地質調査

海陽町竹ヶ島、大砂海岸などで地質調査を行った（徳島大学理工学部などと共同）。

辻野泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

②勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会などと共同）。

③阿讃山脈産の白亜紀後期アンモナイトに関する調査

阿讃山脈に分布する白亜紀後期の地層の和泉層群産の異常巻きアンモナイトの分類学的研究を行った（北九州市立自然史・歴史博物館と共同）。

岡本治代（考古・保存科学）

①四国における古代軒瓦の文様系譜・技術系譜の整理

香川県を中心に、軒瓦の文様系譜・技術系譜を整理した。

②中国・四国地方における鴟尾の調査

岡山県寒風窯跡や、愛媛県来住廃寺跡、高知県秦泉寺跡などから出土した鴟尾の調査を行った。

③鳥居龍蔵の近畿調査関連資料の調査

鳥居龍蔵が1917年（大正6）に行った近畿地方での遺跡調査に関連する資料を調査した。

④徳島市恵解山古墳群出土遺物の調査

恵解山古墳群出土遺物の所在を確認するとともに、各機関における収蔵の経緯を調査した。

植地岳彦（考古・保存科学）

①若杉山遺跡出土土器の補修

若杉山遺跡発掘調査出土土器の欠損部分について、保存・展示に必要な補修を行った。

②館蔵鉄製品の保存科学的調査

節句山古墳、泉谷古墳出土鉄製品の発錆状況について保存科学調査を行った。

③博物館等の展示及び収蔵に関する環境・設備の調査

展示室、収蔵庫の温度・湿度の変動と有機酸・アンモニアの発生状況について調査した。

④赤外線調査

県内市町の教育委員会、博物館・資料館、個人等の依頼を受け、棟札などの赤外線調査を行った。

⑤外部から依頼された文化財等の材質調査などを実施した。

長谷川賢二（歴史）

①中近世移行期における山伏の動向に関する研究

阿波をフィールドとして、従来の修験道史研究に

おける中近世移行期理解を再検討する作業を行った。

②古代・中世の阿波と大嘗祭の関係についての調査

古代・中世、阿波忌部によって担われた大嘗祭の匳服貢納の実態について、大嘗祭自体のあり方とあわせて史料を調査・検討した。成果の一部は、部門展示「大嘗祭と阿波」に反映した。

③晩年の鳥居龍蔵の学知をめぐる調査

鳥居龍蔵記念博物館所蔵資料を調査し、晩年の鳥居龍蔵の学問について追究した。

④博物館運営と市民参加の意義に関する検討

公立直営博物館の運営における市民参加の実態や意義について検討した。

⑤藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

松永友和（歴史）

①阿波藍に関する調査

江戸時代における阿波藍の歴史を調査した。具体的には、当館所蔵の手塚家資料や三木文庫所蔵文書などを分析し、江戸積藍商と紺屋との関係や、藩政との関わりなどを検討した。

②徳島藩に関する調査

徳島藩寛政改革における地方支配の編成にとまない設置された郡代に注目し、郡代が領内の状況を報告した藩政文書（いわゆる「郡代報告書」）の翻刻作業を進めた。また、藩領内の天保飢饉や百姓一揆などに関する古文書調査を行い、一部を翻刻・紹介した。

③四国遍路に関する調査

江戸時代における四国遍路の歴史を調査した。具体的には、徳島県内の遍路日記に注目し、翻刻作業を進めた。

④藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

庄武憲子（民俗）

①徳島県内の人形座に関する調査

個人蔵の木頭共楽座旧蔵資料の調査、記録を行った。

②民家に遺された神札の調査

徳島県内の民家に遺された神札についての資料整理、調査を行った。

③ユニバーサルミュージアムについての取り組み

ユニバーサル化推進委員会の取り組みとして、聴覚障がい、視覚障がい者向けの博物館普及行事の実施を試みた。

④四国山地に伝わる鉦踊りについての調査

近年存続が危ぶまれている、三好市山城町に伝わる鉦踊りの調査、記録、愛媛県四国中央市に伝わる鐘踊りとの比較を行った。

磯本宏紀（民俗）

①近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究

徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った（当館科研費による研究代表者）。

②阿波晩茶の製造技術に関する調査

徳島県域で生産される後発酵茶の製造技術及び製造用具等に関する調査を行い、報告書の執筆をした（徳島県文化資源活用課と共同）。

③民俗展示の多言語化のための基礎的研究

韓国等東アジアの水産資源を素材として言語と文化分類の比較研究と事典の作成を目的とする共同研究に参加した（千葉県立中央博物館科研費の連携研究者）。

④朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化

③の研究と連携して、カタクチイワシ漁と加工法及び食文化の植民地期の朝鮮への伝播と、戦後におけるそれらの変遷及び文化的影響についての共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館科研費の研究分担者）。

⑤地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

⑥ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から

生業遂行にあたり、従事者のコストとモチベーション、その調整過程の解明を元に、限界性を見極めた持続可能な生業遂行モデルを考察した（聖徳大学科研費の研究分担者）。

⑦犬伏家住宅の民具（製菓用具等）に関する調査

犬伏家住宅に保管される民具（製菓用具等）の資料調査を行い、報告書を執筆した（藍住町教育委員会との共同研究）。

大橋俊雄（美術工芸）

①江戸時代における好古の潮流をめぐる調査

柴野栗山、屋代弘賢、住吉広行など徳島に関わり

の深い人物を中心に、江戸後期における好古の潮流について調査した。

②阿波の住吉派についての調査

江戸時代の渡辺広輝から近代の須木一胤に及ぶまで、阿波の住吉派の画家の資料と作品を調査した。

③阿波刀についての調査

館蔵の刀剣を中心に、阿波の刀工について関連する文献などを調べた。

4. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）の実施

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。31年度は次の通り実施した。

6月11日（火） 井藤大樹「雑魚の話」

12月25日（水） 竹内利夫氏「ドイツの博物館展示が感じさせる何か」

5. 科学研究費補助金等による研究

●基盤研究（C）：近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究（平成28～令和元年度）

研究代表者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：民俗展示の多言語化のための基礎的研究—東アジアの水産資源を素材として（平成28～令和元年度）

研究代表者：島立理子氏（千葉県立中央博物館主任上席研究員）

当館の連携研究者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究（平成29～令和2年度）

研究代表者：胡光氏（愛媛大学法文学部教授）

当館の研究分担者：長谷川賢二、松永友和

●基盤研究（B）：朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化（平成29～令和2年度）

研究代表者：松田睦彦氏（国立歴史民俗博物館准教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系

統の検証と新奇形質の進化プロセス解明（令和元～令和5年度）

研究代表者：吉澤和徳氏（北海道大学農学部准教授）

当館の研究分担者：山田量崇

●基盤研究（C）：ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から（令和元～3年度）

研究代表者：石本敏也氏（聖徳大学文学部准教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●2019年度 イノベーション創出強化研究推進事業：四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ピワキジラムの防除対策の確立

代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機関

当館の研究共同者：山田量崇

6. 他機関との共同研究

●タンポポ調査・西日本2020

近畿、中国、四国の17府県の広域にわたりタンポポ調査を実施した（兵庫県立人と自然の博物館や倉敷市立自然史博物館、高知県立牧野植物園などと共同）。

●勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査

勝浦町の恐竜化石含有層の周辺地域の地質調査や化石の探索を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会と共同）。

●若杉山遺跡出土品に関する調査

国の史跡に指定された若杉山辰砂採掘遺跡から出土し、館が所蔵している石器、土器に関する調査を行った（徳島県文化資源活用課との共同）。

●藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った（「阿波志」調査会との共同）。

●阿波晩茶の製造技術に関する調査

徳島県域で生産される後発酵茶の製造技術及び製造用具等に関する調査を行い、報告書の執筆をした（徳島県文化資源活用課との共同）。

●地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館との共同）。

●犬伏家住宅の民具（製薬用具等）に関する調査

犬伏家住宅に保管される民具（製薬用具等）の資料調査を行い、報告書の執筆を行った（藍住町教育委員会との共同）。

7. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第30号の発行

2020年3月26日発行、A4判111ページ、600部

(*印：館外研究者)

論文

辻野泰之・東 洋一*・宮田和周*・中尾賢一・藪田 哲平*・河部壮一郎*・出山康代*・田上浩久*・田上竜熙*：徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より発見された竜脚類恐竜の歯. p.1-14.

調査報告・資料紹介

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新—更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(9). p.15-25.

大原賢二*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2019年). p.27-41.

玉川晋二郎*・黒川康嘉*：香川県の屋島におけるアリジゴクの記録(アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ科). p.43-48.

井藤大樹・奥村大輝*・佐藤陽一：穴吹川(吉野川水系)の魚類相～2019年調査～. p.49-62.

植地岳彦：金属製考古資料の発錆に関する基礎調査. p.63-74.

岩井顕彦*・岡本治代：恵解山8号墳出土遺物の再検討 附恵解山古墳群出土資料一覧表. p.75-88.

岡本治代：四国の鷗尾—伊予・阿波・土佐を中心に—. p.89-99.

短報

大原賢二*・山田量崇：徳島県で確認されたヨツモンカメノコハムシ. p.101-103.

玉川晋二郎*：香川県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況. p.105-106.

玉川晋二郎*：高知市で発見されたクスベニヒラタカスミカメ. p.107-108.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆ Yamada, K. & Hayashi, M.* (2019) Two new species of the genus *Cryptostemma* from Japan (Hemiptera: Heteroptera: Dipsocoridae). *Acta Entomologica*

Musei Nationalis Pragae, 59 : 381-390.

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K. & Duwal, R. K.* (2019.8) Three new species of the flower bug genus *Orius* (Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae) from Nepal. Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae, 59 : 391-401.

☆ Ye, Z.*, Yuan, J. J.*, Zhen, Y.*, Damgaard, J.*, Yamada, K., Zhu, X. X.*, Jiang, K.*, Yang, X.* Wang, W. W.*, Wang, S. J.*, Liang, J. G., Fu, S., Chen, P. P. & Bu, W. J. (2020.3) Local environmental selection and lineage admixture act as significant mechanisms in the adaptation of the widespread East Asian pond skater *Gerris latiaabdominis* to heterogeneous landscapes. Journal of Biogeography, 00:1-12 (on-line published).

長田庸平*・山田量崇 (2020.2) 波照間島初記録のカメムシ2種. Rostraria, (64) : 58-59.

大原賢二*・山田量崇 (2020.3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2019年). 徳島県立博物館研究報告, (30) : 27-41.

大原賢二*・山田量崇 (2020.3) 徳島県で確認されたヨツモンカメノコハムシ. 徳島県立博物館研究報告, (30) : 101-103.

☆ Ito, T, K. Hosoya* & J. Miyazaki* (2019.4) *Lefua tokaiensis*, a new species of nemacheilid loach from central Japan (Teleostei : Nemacheilidae). Ichthyological Research, 66 : 479-487.

井藤大樹・奥村大輝*・佐藤陽一 (2020.3) 穴吹川 (吉野川水系) の魚類相～2019年調査～. 徳島県立博物館研究報告, (30) : 49-62.

☆ 清水孝昭*・佐藤陽一・高木基裕* (2019.11) 徳島県におけるオヤニラミの遺伝的集団構造と攪乱. 魚類学雑誌, 66 (2) : 195-203.

〈一般著述〉

山田量崇 (2019.6) クスノキの葉に寄生する外来昆虫がいるようですが、何ですか?. 徳島県立博物館ニュース (レファレンス Q & A), (115) : 7.

山田量崇 (2019.7) [特集] 昆虫の不思議な世界3 トコジラミ類で見られるふしぎな交尾—外傷性授精. 生物の科学 遺産, 73 (4) : 368-374.

井藤大樹 (2019.9) 本当に同じ種? ～ナガレホトケドジョウにみられる種内変異～. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (116) : 2-3.

井藤大樹 (2020.3) 世界に一つだけの「じんぞく」. 徳島県立博物館ニュース (収蔵品紹介), (118) : 5.

●植物

〈一般著述〉

小川 誠・奥山清市*・矢野真志* (2019.9) 「博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう (1) 発見と採集」, 少年写真新聞社 : 48p.

小川 誠 (2019.9) 植物を赤く光らせよう. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (116) : 6.

小川 誠・奥山清市*・矢野真志* (2019.10) 「博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう (2) 観察と調査」, 少年写真新聞社 : 48p.

小川 誠・奥山清市*・矢野真志* (2019.11) 「博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう (3) 標本と工作」, 少年写真新聞社 : 48p.

小川 誠・奥山清市*・矢野真志* (2019.12) 「博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう (4) 展示と発表」, 少年写真新聞社 : 48p.

小川 誠 (2020.3) 外来植物とのつきあい方. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (118) : 2-3.

茨木 靖 (2019.12) 暖かい森の木になるシダ～ヘゴ～. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (117) : 5.

●地学

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

三本健二*・中尾賢一 (2020.3) 高知県の鮮新一更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類 (9). 徳島県立博物館研究報告, (30) : 15-25.

☆ 西山賢一*・鳥井真之*・横田修一郎*・若月 強*・井上 弦*・中尾賢一・星出和裕*・奥野 充* (2019.4) 阿蘇カルデラ壁斜面における斜面崩壊の発生頻度. 第四紀研究, 58 (2) : 149-162.

☆ Takashima, R.*, Nishi, H.*, Yamanaka, T.*, Orihashi, Y.*, Tsujino, Y., Quidelleur, X. *, Hayashi, K.*, Sawada, K.*, Nakamura, H.* and Ando, T.* (2019.6) Establishment of Upper Cretaceous bio- and carbon isotope stratigraphy in the northwest Pacific Ocean and radiometric ages around the Albian/Cenomanian, Coniacian/Santonian and Santonian/Campanian boundaries. Newsletters on Stratigraphy, 52 : 341-376.*

辻野泰之・東 洋一*・宮田和周*・中尾賢一・藺田哲平*・河部壮一郎*・出山康代*・田上浩久*・田上竜熙* (2020.3) 徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より発見された竜脚類恐竜の歯. 徳島県立博物館研究紀要, (30) : 1-14.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2019.9) ヌマコダキガイ類の化石. 徳島県立博物館ニュース (収蔵品紹介), (116) : 5.

辻野泰之 (2019.6) 徳島県勝浦町の獣脚類恐竜の脛骨化石. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (115) : 1.

辻野泰之 (2019.6) とくしまの恐竜時代 —徳島県の

恐竜化石発掘報告一、徳島県立博物館ニュース（表紙）、（115）：4.

辻野泰之（2020.3）2019年度の恐竜化石含有層（ボンベド）の本格発掘調査を実施。徳島県立博物館ニュース（速報）、（118）：6.

●考古

〈学術的著述〉

植地岳彦（2020.1）朝倉下経田遺跡出土品に付着する赤色顔料の材質調査。（公財）愛媛県埋蔵文化財センター編「朝倉下経田遺跡」埋蔵文化財発掘調査報告書198（公財）愛媛県埋蔵文化財センター：409-414.

植地岳彦（2020.3）金属製考古資料の発錆に関する基礎調査。徳島県立博物館研究報告、（30）：63-74.

岡本治代（2019.3）先史・古代史研究の現状、史窓、（49）：2-18.

香川将慶*・妹尾周三*・岡本治代・白石 純*（2020.2）山陽・四国地方、「第20回古代瓦研究会 シンポジウム 鷗尾・鬼瓦の展開 I—鷗尾—発表要旨」：131-153.

岩井顕彦*・岡本治代（2020.3）恵解山8号墳出土遺物の再検討 附恵解山古墳群出土資料一覧表。徳島県立博物館研究報告、（30）：75-88.

岡本治代（2020.3）四国の鷗尾—伊予・阿波・土佐を中心に—。徳島県立博物館研究報告、（30）：89-99.

〈一般著述〉

植地岳彦（2019.9）博物館60年前にうまれた博物館。徳島県立博物館ニュース（表紙）、（116）：1.

植地岳彦（2020.3）遺跡から出土した鉄製品はどのように保存するのですか。徳島県立博物館ニュース（Q & A）、（118）：7

岡本治代（2019.12）弥生時代や古墳時代には、どのような方法でお米を炊いていたのですか？。徳島県立博物館ニュース（Q & A）、（117）：7.

大橋俊雄・岡本治代（2020.3）光格上皇修学院御幸儀 杖図。徳島県立博物館ニュース（表紙）、（118）：1.

●歴史

〈学術的著述〉

長谷川賢二（2019.6）戦国期阿波の国人領主と熊野信仰—大西覚用の周辺—。橋詰茂編「戦国・近世初期 西と東の地域社会」、岩田書院：307-323.

長谷川賢二（2019.8）阿波と紀伊の文化的交流—熊野信仰にかかわる往来と移住伝承—。中世都市研究会編「港津と権力」、山川出版社：229-246.

松永友和（2020.3）史料紹介 大坂町奉行所与力・同心の四国出役関係史料について—古郷家文書「諸御触記録帳」の紹介と翻刻—。史窓、（50）：44-54.

〈一般著述〉

長谷川賢二（2019.3）忌部神社をめぐって：阿波忌部の近代—大正天皇即位の大嘗祭をめぐって—；中世の高越山と修験道。宇山孝人編「講座 麻植を学ぶ（歴史編）」、一般財団法人阿波和紙伝統産業会館：49-58, 81-90, 121-131.

長谷川賢二（2019.3）古代・中世。徳島県・徳島県教育委員会編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書12 無尽山荘厳院地蔵寺 四国八十八箇所霊場 第5番札所、徳島県・徳島県教育委員会：10-11.

大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲*（2019.3）まとめ。徳島県・徳島県教育委員会編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書12 無尽山荘厳院地蔵寺 四国八十八箇所霊場 第5番札所、徳島県・徳島県教育委員会：176-178.

長谷川賢二（2019.6）延喜式と三木家文書—古代・中世の大嘗祭関係資料—。徳島県立博物館ニュース（収蔵品紹介）、（115）：5.

長谷川賢二（2019.11）修験道と阿波の霊山・山伏。徳島新聞2019.11.9朝刊.

松永友和（2019.11）えびす信仰と阿波。西宮神社文化研究所編「えびすさま よもやま史話—西宮神社御社用日記」を読む—、神戸新聞総合出版センター：239-245.

松永友和（2019.12）徳島藩と大井川—徳島藩家老が寄進した石碑探訪—。徳島県立博物館ニュース（Culture Club）、（117）：2-3.

松永友和（2020.3）藩政改革と地方支配の再建。高橋啓監修・徳島市史編さん室編「徳島市史第六巻 戦争編・治安編・災害編」、徳島市教育委員会：441-448.

松永友和（2020.3）民衆運動の展開。高橋啓監修・徳島市史編さん室編「徳島市史第六巻 戦争編・治安編・災害編」、徳島市教育委員会：449-464.

松永友和（2020.3）天保飢饉と困窮人救済。高橋啓監修・徳島市史編さん室編「徳島市史第六巻 戦争編・治安編・災害編」、徳島市教育委員会：657-646.

松永友和（2020.3）史料編（史料番号71-81、100-110を担当）。高橋啓監修・徳島市史編さん室編「徳島市史第六巻 戦争編・治安編・災害編」、徳島市教育委員会：937-949、966-977.

松永友和（2020.3）板野郡中村の藍師・篠原家と山西庄五郎—伯州境・油屋周蔵の鮭メ粕取引をめぐって—。藍のふるさと阿波魅力発信協議会編「令和元年度「藍の魅力発信事業」に係る文化財調査研究事業 藍関連文書調査報告書」、藍のふるさと阿

波魅力発信協議会：35-36.

●民俗

〈学術的著述〉

庄武憲子(2020.3)鉦踊の現在. 徳島地域文化研究,(18): 45-62.

磯本宏紀(2019.3) 徳島の民俗学研究の現状—近年の研究動向を中心に—. 史窓, (49): 40-52.

磯本宏紀(2020.1) 犬伏家の生業用具—製菓関連用具を中心に—. 藍住町教育委員会編「犬伏家住宅調査報告書」, 藍住町教育委員会: 94-108.

高橋晋一*・磯本宏紀(2020.3) 製造技術. 徳島県文化資源活用課編「阿波晩茶製造技術」調査報告書」, 徳島県: 83-129.

磯本宏紀(2020.3) 製造用具. 徳島県文化資源活用課編「阿波晩茶製造技術」調査報告書」, 徳島県: 131-182.

磯本宏紀(2020.3) 明治・大正・昭和初期の絵葉書に見る阿波の「名所」. 徳島地域文化研究, (18): 24-44.

〈一般著述〉

庄武憲子(2019.12) 太宰府天満宮のおふだ. 徳島県立博物館ニュース(情報ボックス), (117): 6.

庄武憲子(2020.3) 新刊紹介 文化庁編「無形民俗文化財記録 第63集 盆行事 徳島県」. 徳島地域文化研究, (18): 163-165.

磯本宏紀(2019.9) 「だらだら祭り」と呼ばれる祭りがあると聞きましたが、なぜそう呼ぶようになったのですか?. 徳島県立博物館ニュース(Q & A), (116): 7.

磯本宏紀(2019.9) 韓国国立民俗博物館編, 韓日共同特別展展示図録「ミヨクと昆布—海が結ぶ韓日の日常」(分担執筆), 韓国国立民俗博物館(原文は韓国語).

磯本宏紀(2020.3) 国立歴史民俗博物館編, 国際企画展示展示図録「昆布とミヨク—潮香るくらしの日韓比較文化誌」(分担執筆), 国立歴史民俗博物館.

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄(2019.6) 「絵本目録覚」—徳島藩の絵師の絵手本リスト—. 徳島県立博物館ニュース(情報BOX), (115): 6.

(3) 学会・研究会等での発表

(* 印: 館外研究者)

●動物

山田量崇・Jung, S. H.*・Balvin, O.*(2019.9) トコジラミ上科における雌の副生殖器の多様性と進化. 日

本昆虫学会第79回大会(弘前).

●地学

Tsujino, Y. (2019.9) 3D digital model database for the type specimens of Cretaceous ammonoid in Japan. NATHIST off-site meeting, ICOM Kyoto 2019 (Osaka).

藪田哲平*・辻野泰之・田上浩久*・河部壮一郎*・中山健太郎*・東 洋一*(2020. 2) 徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より産出したスッポンモドキ科カメ類. 日本古生物学会第169回例会(東京).

●歴史

長谷川賢二(2019.7) 園城寺・熊野・修験道. 2019年度国際熊野学会大会(大津).

長谷川賢二(2019.11) 修験道と阿波の霊山・山伏. 2019年度鳴門史学会研究大会(徳島).

長谷川賢二(2019.12) 中近世移行期の阿波における山伏の動向. 徳島地方史研究会例会(徳島).

松永友和(2020.1) 江戸積藍商の取引先について. 徳島地方史研究会1月例会(徳島).

●民俗

庄武憲子(2019.6) 徳島県の祭礼と風流. 四国民俗学会(香川).

磯本宏紀(2019.8) 戦前の絵はがきに見る阿波の名所. 徳島地域文化研究会(徳島).

磯本宏紀(2019.10) 日本の地域博物館と民俗学. 韓国民俗学者大会「地域民俗と博物館」(順天).

磯本宏紀(2019.11) 漁民移動と定住をめぐる段階性—阿波堂浦一本釣り漁民と九州・五島行き以西底曳網漁民の移動を事例として—. 日本村落研究学会大会テーマセッション(仙台).

磯本宏紀(2019.11) 東シナ海における底びき網漁業と日本の食文化—グチをめぐる文化比較—. 韓国国立民俗博物館国際シンポジウム「近代東アジアの漁民文化とその展開」(ソウル).

IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

令和元年度は3人（人文1、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

穴吹川産魚類	一式
徳島県産オナガザメ類	1点
徳島県海岸性魚類	多数
徳島県産淡水魚類	多数
猪苗代湖産魚類	一式
青森県産淡水魚類	一式
北海道産淡水魚類	一式

●動物（昆虫）

シコクトゲオトンボ	14点
徳島県産トンボ類	11点
ヨツモンカメノコハムシ	44点
南西諸島産水生・半水生半翅類	多数

●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

●地学

礫岩片岩	2点
------	----

高知県穴内層産化石	10点
磁鉄鉱	1点
青色片岩	1点
勝浦町の恐竜化石含有層産の化石	59点

2. 購入資料

●地学

竜脚類アーカエオドントサウルスの歯と下顎骨	1点
ヴェロキラプトル全身骨格レプリカ	1点

●歴史

本朝王歴古今実録（3冊揃、阿波国文庫）	3点
阿波国板野郡大谷村宇志比古神社資料	40点
蜂須賀治昭書状	1点
引札	8点

購入資料合計 54点



購入資料：竜脚類アーカエオドントサウルスの歯と下顎骨



購入資料：ヴェロキラプトル全身骨格（レプリカ）



購入資料：本朝王歴古今実録（阿波国文庫）



購入資料：阿波国板野郡大谷村宇志比古神社資料

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

平成 31 年度四国横断自動車道吉野川渡河部水環境
調査 魚類標本 一式 建設環境研究所
琵琶湖産ハス 一式 田中和大氏
香川県産カワバタモロコ・ギンブナ
一式 橋本佳樹氏
香川県産タナゴ類 2点 岡崎登志夫氏
脇町高校標本群 一式
徳島県立脇町高等学校
アオゲラ 1点 柴折史昭氏
書籍 一式
日本自然保護協会

●動物（無脊椎動物）

ヤマナメクジ 1点
豊谷千幸氏・宮田正友美氏
イシガイ 1点 井藤大樹氏
河野圭典氏徳島県及び四国東部産貝類標本
10,000点 河野千代子氏

●動物（昆虫）

コガタノゲンゴロウ 1点
広岡佑太氏・讃山 潤氏
ハネナシコロギス 1点 矢間利彦氏
西川勝氏日本産直翅類 170点 市川顕彦氏
キュウシュウクチプトカメムシ
2点 大原賢二氏
徳島県産蛾類標本 209点 樋口博美氏
マルガタゲンゴロウ・ヒメミズカマキリ
2点 井藤大樹氏
五島列島・トカラ列島産カメムシ
15点 滑田保生氏
徳島県産甲虫類標本 602点 増田敏雄氏
徳島県産蛾類標本 219点 樋口博美氏

●植物

県内産植物標本 1,934点 和田賢次氏
県内産植物標本他 1,334点
徳島県立脇町高等学校
沖縄県産植物標本 11点 赤井賢成氏
香川県産植物標本 90点 久米 修氏
ヤエガヤ 1点 狩山俊悟氏
沖縄県産イネ科標本 37点 木場英久氏
広島県産イネ科標本 15点 西岡秀樹氏
徳島県産植物標本 4点 佐賀康男氏
新潟県等産イネ科標本 7点 柳田宏光氏
北米産植物標本 147点
オレゴン州立大学（OSC）

●地学

岡山県土橋鉦山産鉱物・岩石標本 4点
土橋鉦山株式会社・武部将治氏・阿部 肇氏
和泉層群産脊椎動物化石 3点 平島 昭氏
県内産岩石・鉱物標本 10点 阿部 肇氏
糸魚川の石ほか県外産岩石・鉱物標本
8点 平島 昭氏
那賀町産腕足動物化石 1点 平島 昭氏
蝦夷層群産植物化石ほか 6点 平島 昭氏
高知県本山町汗見川産鉱物 3点 阿部 肇氏
秋田県産硬質泥岩 1点 仁木雅彦氏
勝浦町産大型異常巻きアンモナイト（パラクリオセ
ラス） 1点 三木譲二氏
鳴門海峡海底産貝化石ブロック
1点 八木忠弘氏
北海道日高町産アンモナイト
2点 平島 昭氏
北海道日高町産の化石ほか 10点 平島 昭氏
鳥取県産鉱物標本 10点 阿部 肇氏
ウミユリ石灰岩 1点 阿部 肇氏

ネパール産変成岩および鉱物	10点	坂口常博氏・吉本 旭氏
北有馬層ヌマコダキガイ層産化石	12点	青木隆弘氏
徳島大学の地学標本	数百点	石田啓祐氏
穴内層産貝化石	20点	三本健二氏
土佐清水市産オオスナモグリ化石	7点	三本健二氏
立川層の二枚貝化石	2点	白石弘幸氏
上勝町の白亜紀前期の化石	2点	板東一郎氏
大隅石	1点	阿部 肇氏
ペリドットを含む砂ほか	4点	阿部 肇氏
徳島県・鹿児島県産岩石・鉱物	4点	阿部 肇氏
国内産鉱物	6点	阿部 肇氏
白亜紀アンモナイト	1点	平島 昭氏

●歴史

焼夷弾ほか	2点	阿部義幸氏
村上節太郎日露戦争関係資料ほか	24点	村上泰三氏
戦争関係資料（写真アルバムほか）	2点	森 稔氏

●民俗

昭和62～63年徳島県民謡緊急調査音源オープンリールテープ	5点	徳島県県民環境部スポーツ・文化局 文化資源活用課
桐ヒバチほか	4点	葛佐文一郎氏
娘頭	1点	枘富玲子氏
袋帯ほか	13点	矢間多恵子氏
メンツギ（飯櫃）ほか	12点	豊崎雅信氏
カニモジほか	5点	坂口文幸氏
晩茶製造用具一式	37点	富田忠夫氏
タイプライター	1点	船井健三氏

●美術工芸

河津沢太郎作中門鬼瓦（川島焼）	1組	後藤田久美子氏
-----------------	----	---------

4. 寄託資料

令和元年度末時点で寄託されている資料は78件あり、元年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

●考古

川島廃寺跡出土資料	456点	吉野川市教育委員会
-----------	------	-----------

●歴史

紙本墨書二品家政所下文 附紺紙金泥法華経8巻	9点	檜原 健氏
オオカミ頭骨	1点	明野里香氏

5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細はp.23～24参照）。

●動物

チワラスボ類標本	39点	乾 隆帝氏（福岡工業大学）
シコククチプトカメムシ	1点	石川 忠氏（東京農業大学）
ミズムシ科標本	21点	石川 忠氏（東京農業大学）

●地学

カメの甲羅の化石	2点	勝浦町教育委員会
勝浦町産出の化石および展示パネル	約130点	勝浦町教育委員会
穴内層産イモガイ化石	13点	加瀬友喜氏（神奈川大学）

●考古

若杉山遺跡出土資料	3点	出雲弥生の森博物館
根井出土銭ほか	465点	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
天河別神社古墳墳出土鏡	3点	徳島市考古資料館
古屋岩陰遺跡出土品ほか	59点	川口ダム自然エネルギーミュージアム

●歴史

徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係パネルほか	14点	徳島県経営戦略部総務課
異国船図記	1点	徳島県立文書館

●民俗

昭和62年から63年徳島県民謡緊急調査音源CD	NO.57,58	1点	さいたま市立博物館
以西底曳網漁業長崎濱崎水産関係写真ほか	15点	公益財団法人亀陽文庫	能古博物館
シビ延縄漁具ほか	4点	国立歴史民俗博物館	
テグスヌキほか	5点		

とくしま釣りの輪
 膳写版用鉄筆セットほか 5点
 徳島県立あすたむらんど 子ども科学館

●美術工芸

北野恒富筆 阿波踊之図 1点
 培広庵コレクション展実行委員会

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

オヤニラミ写真 1点
 阿南市市民部環境保全課

●地学

ティタノサウルス形類の歯の写真など 3点 阿南市科学センター
 アンモナイト・パラプゾシア写真 1点 三笠市立博物館ボランティアの会
 アンモナイト・パラプゾシア写真 1点 多摩六都科学館
 勝浦町産の肉食恐竜の歯の化石の写真 2点 (株)誠文堂新光社
 勝浦町産の肉食恐竜の歯の化石の写真 1点 勝浦町地域活性化協会
 プテロトリゴニアの写真 1点 (株)小学館
 獣脚類の脛骨の写真 1点 NHK大阪拠点放送局制作部
 勝浦町産の肉食恐竜の歯の化石の写真ほか 3点 阿南市文化協会
 ティタノサウルス形類の化石の写真 2点 ケーブルテレビ徳島(株)

●考古

忌部山古墳群調査時写真 7点 岡山真知子氏
 若杉山遺跡遠景写真ほか 2点 出雲弥生の森博物館
 若杉山遺跡出土石器等の写真 3点 阿南市
 畑田銅鐸写真 1点 徳島県文化資源活用課
 勢合銅鐸等の写真 5点 (株)山川出版
 土成丸山古墳航空写真 1点 徳島県文化資源活用課
 若杉山遺跡出土石器の写真 1点 NPO法人むきばんだ応援団

●歴史

徳島御城下絵図写真 1点 株式会社碧水社

1945年米軍撮影徳島市街地写真 2点 公益社団法人徳島県建築士会
 阿波名所図会写真 1点 徳島県危機管理部消費者くらし安全局消費者くらし政策課消費生活創造室
 平成度大嘗祭兎服写真 1点 一般社団法人なら文化交流機構
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真 1点 (株)NHKエンタープライズ制作本部
 徳島藩大森羽田出陣絵巻ほか 3点 徳島市教育委員会
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真 1点 須藤茂樹氏
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真 1点 株式会社天夢人

●民俗

林鼓浪筆「人形芝居小屋掛図」 1点 徳島市教育委員会
 荒テグス、磨テグス 2点 徳島県大阪本部

●美術工芸

渡辺広輝筆 光格上皇修学院御幸儀仗図巻画像 1点 (株)国書刊行会
 吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風画像 1点 (株)阿波銀行経営統括部
 渡辺広輝筆 春秋鶉図画像 1点 編集室 青人社
 吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風左隻画像 1点 徳島市教育委員会
 飯塚桃葉作 鶏蒔絵印籠ほか画像 33点 須藤茂樹氏

7. 資料の提供

●植物

さく葉標本 26点 北海道大学(SAPS)
 さく葉標本 33点 東北大学(TUS)
 さく葉標本 45点 千葉県立中央博物館(CBM)

8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学

●分野別収蔵資料数（令和2年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実 物	レ プ リ カ	模 型・模 写	文 献
脊 椎	25,363	25,289	55	13	6
無 脊 椎	49,302	49,236	0	58	8
昆 虫	209,925	208,592	0	7	1,326
植 物	198,986	198,634	62	8	282
地 学	10,211	10,074	135	2	0
考 古	8,418	8,267	73	19	59
歴 史	13,276	12,488	26	4	758
民 俗	18,906	18,896	5	5	0
美術工芸	9,861	9,852	0	4	5
合 計	544,248	541,328	356	120	2,444

及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている（「3. 寄贈資料」及び「7. 資料の提供」参照）。

なお、平成30年10月1日以降、植物（野菜、果実、精米等）を日本に持ち込むためには、輸出国政府の植物防疫機関の検査を受け、認可された植物に発行される検査証明書（Phytosanitary certificate）を貼付することが義務付けられことにより、国際間における円滑な標本の送受信に支障が生じている。当館での交換に際しては、適切な標本の送受信を行い、滞りない標本の交換収集に努めている。

9. 館蔵資料数

令和2年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱する。

令和元年度は、委員会を開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベル

アップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

●図書冊数（データベース登録数による）

14,330冊（うち令和元年度分 寄贈図書65冊、購入図書103冊）

●購入雑誌

自然史系（8タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌

人文系（23タイトル）：美術研究、美術史、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理、日本史研究

博物館学（2タイトル）：博物館研究、ミュゼ

●当館刊行物の定期発送先（令和2年3月末現在）

博物館ニュース	1,157ヶ所
博物館年報	319ヶ所
研究報告（国内）	432ヶ所
（国外）	41ヶ所
展示解説	90ヶ所
企画展図録（自然）	162ヶ所
（人文）	240ヶ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻

42 資料の収集・保存と活用

蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①と②の2種類の燻蒸を行ってきた。また、元年度は③を実施した。

①常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫（24時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ3m（約60㎡）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

元年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を3回行った。

②収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。30年度に実施したため、元年度は実施しなかった。

③二酸化炭素を用いた殺虫処理

寄贈や寄託を受けた資料のなかで、虫害が目立つもの、またその恐れがあるものについては、燻蒸庫燻蒸に先んじて二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施した。

(2) 常設展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、第3期中期活動目標（26～30年度）で、常設展示室の

定期点検を行うことを目標として定めたことから、26～27年度に、文化財害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施している。さらに、企画展示室において、資料汚損の原因となるアンモニア及び有機酸の発生状況を確認するため、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。

(3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、元年度も継続して実施した。また、元年度は、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行い、適正な環境が維持されていることが確認できた。

(4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から25年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。

燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。元年度は、常圧燻蒸庫の燻蒸作業に付随して活性炭交換を実施した。そして、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。また、徳島大学の協力を得て、燻蒸庫燻蒸装置のガス濃度測定と真空凍結乾燥機に使用している真空ポンプの整備を実施した。



二酸化炭素燻蒸の様子

V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	169ヶ所
中学校	85
高等学校・支援学校・その他学校	62
学会・研究所・同好会等	60
県及び県教育委員会各課・機関	53
市町村教育委員会	25
公民館・隣保館	210
市町村及び大学図書館	33
博物館施設等	313
宿泊施設等	40
報道関係機関等	62

●報道機関への資料提供

令和元年度は、次のような資料提供を行った（※月間催し物案内を除く）。

4月5日	トピックコーナー「徳島県勝浦町から中四国初の獣脚類恐竜の骨化石などを発見—平成30年冬の恐竜化石含有層の緊急発掘調査報告—」の開催について
4月24日	博物館新規ボランティアスタッフを募集します
6月14日	企画展「とくしまの恐竜時代—徳島県の恐竜化石発掘調査報告—」の開催について
6月28日	部門展示「アゲハチョウと甲虫—愛好

家たちのコレクション—」の開催について

7月5日	徳島県勝浦町において新たに発見された「竜脚類恐竜の歯とワニの椎体」と国内最古級恐竜化石発掘調査プロジェクト「クラウドファンディング」について
8月9日	企画展「とくしまの恐竜時代」1万人突破記念セレモニーの開催について
9月13日	第3回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
9月24日	部門展示「大嘗祭と阿波」の開催について
9月25日	特別陳列「博物館60周年記念展とくしまタイムトラベル—過去・現在・未来—」について
10月30日	勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査について
11月29日	部門展示「博物館所蔵の刀剣」の開催について
12月11日	勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査（後方支援施設での小割作業）の開始について
12月17日	勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査で発見された肉食恐竜（獣脚類）の歯化石について
2月7日	徳島県勝浦町から発見された日本最古のスポンモドキ科カメ類化石について
2月12日	部門展示「阿波晩茶の製造技術と製造用具」について
2月20日	企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」について
3月18日	特別陳列「八杵神社所蔵 重要文化財二品家政所下文—地域で守り伝えた文化財—」の開催について
3月24日	部門展示「発掘された木の道具」について
3月25日	徳島の恐竜化石シンポジウム「徳島の恐竜化石をもっと発掘！さらに推進！—徳島恐竜最前線—」開催について

- 3月25日 第4回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
 3月27日 企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」について

- 浦町での恐竜化石発掘などについて)
 1月19日 辻野泰之 四国放送ラジオ「中四国ライブネット」(勝浦町の恐竜化石について)
 1月22日 大橋俊雄 ケーブルテレビ徳島「朝ごはん食べた？」(部門展示「博物館所蔵の刀剣」について)
 2月14日 辻野泰之 エフエムびざん「ぐるぐる漫遊記」(勝浦町の恐竜化石について)
 2月16日 辻野泰之 関西テレビニュース(日本最古のスッポンモドキ科カメ類について)
 3月21日 磯本宏紀 ケーブルテレビあなん「トレンドカフェ」(部門展示「阿波晩茶製造技術と製造用具」について)
 3月26日 松永友和 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(特別陳列「八杵神社所蔵 重要文化財二品家政所下文-地域で守り伝えた文化財-」について)
 3月30日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「十郎兵衛一家の阿波でこさんぽ」(勝浦町の恐竜化石について)

2. テレビ・ラジオへの出演等

出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 5月1日 長谷川賢二 四国放送「フォーカス徳島」(阿波忌部について)
 5月20日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「たまたま金曜日」(勝浦町の恐竜化石について)
 7月5日 辻野泰之 エフエムびざん 特集番組「やっぱり恐竜が好き！」(勝浦町の恐竜化石について)
 7月19日 辻野泰之 四国放送「フォーカス徳島」(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 7月19日 辻野泰之 四国放送ニュース(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 7月19日 辻野泰之 NHK 徳島放送局ニュース(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 8月4日 辻野泰之 四国放送ラジオ「あわ紳士録」(勝浦町の恐竜化石について)
 8月19日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「朝ごはん食べた？」(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 8月21日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「ラブ！ラブ！徳島」(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 8月30日 辻野泰之 四国放送ラジオ「ラジオ大福」(企画展「とくしまの恐竜時代」について)
 9月13日 井藤大樹 関西テレビ ニュース(オオカミの頭骨について)
 9月13日 長谷川賢二 四国放送「フォーカス徳島」(オオカミの頭骨と犬神について)
 11月1日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(部門展示「大嘗祭と阿波」について)
 12月20日 辻野泰之 四国放送「フォーカス徳島」(勝浦町で発見された肉食恐竜の完全な歯化石について)
 12月30日 辻野泰之 関西テレビ ニュース(勝

3. インターネットによる情報提供

(1) ホームページ

①概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/> に変更された。26年8月には、ホームページの全面的なリニューアルを行い、トップページのメニューボタンの設置など、閲覧者が利用しやすいよう工夫している。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)
- ・関連活動紹介(友の会、博物館協議会など)

- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子ども向けメニュー、映像コーナー等）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。令和元年度は徳島県勝浦町における国内最古級の恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）の緊急発掘調査の概要と成果をまとめたページを新たに作成した。主な追加事項は下記の通りである。

- ・徳島の恐竜化石
- ・令和元年度博物館ボランティアの活動内容について
- ・みどりのサポート隊の活動
- ・各種催し物、企画展等の案内

②アクセスについて

元年度は、1年間でホームページへの総アクセス数が約1200万件あった。ホームページへの総訪問者数は約44万人であった。

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	訪問者数	アクセス数
2019年 4月	45,835	953,656
2019年 5月	41,765	1,010,772
2019年 6月	44,679	1,025,969
2019年 7月	50,525	1,378,584
2019年 8月	56,203	1,583,749
2019年 9月	43,890	1,022,189
2019年 10月	70,380	1,089,626
2019年 11月	52,074	941,511
2019年 12月	34,770	903,087
2020年 1月	39,221	839,336
2020年 2月	32,543	817,676
2020年 3月	30,986	771,207
合計	542,871	12,337,362

(2) Facebook（フェイスブック）ページの運用

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス（以下 SNS）の普及とともに、博物館をはじめとする社会教育機関においても SNS 等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式 Facebook ページを新設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebook ページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。元年度は、60件の記事を新たに掲載した。内容は、企画展の準備や注目される展示資料の紹介、部門展示やトピックコーナーの紹介、クイズラリーの開催など、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。また、勝浦町の恐竜化石に関する情報発信など、ホームページではみられなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活発に活用されている。

(3) デジタルアーカイブの構築

当館を含む文化の森総合公園の各文化施設では、30年4月から2年3月まで、（公財）図書館振興財団の助成事業「郷土資料・貴重資料等のデジタル化および公開事業」により、「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施した。この一環として、博物館でも、令和元年度に指定文化財を中心に50点の資料を撮影した。これらのデジタルデータは、令和2年度に「徳島県立博物館デジタルアーカイブ」において公開される予定である。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度には当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及び GBIF (Global

Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構)のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

第5期文化の森のシステム更新が平成23年度に行われたが、29年度には第6期文化の森のシステム更新が行われた。基本的には前システムのパソコン等ハード、ソフトの置き換えである。

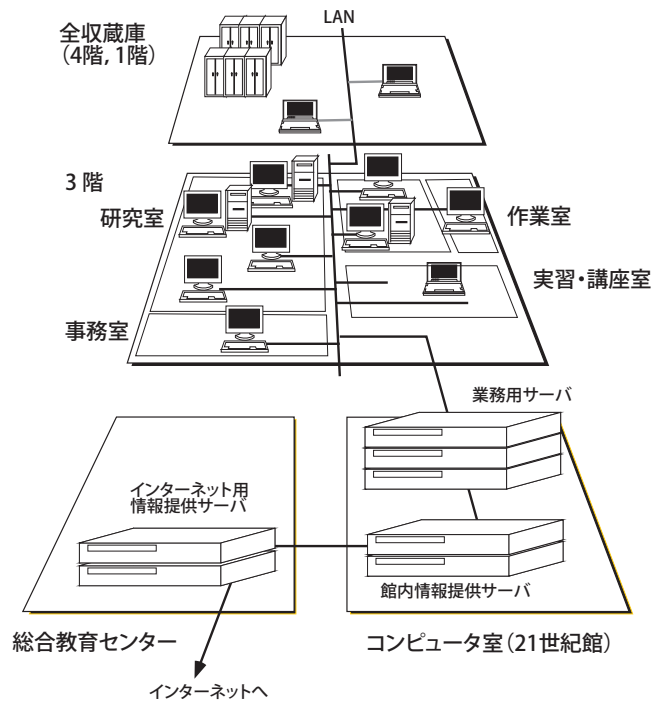
博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第6期システムの運用にあっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)のLANでつないである。ファイルサーバ(Windowsサーバ)とデータベースサーバ(FileMaker Server16Advanced)の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部(インターネット)用は総合教育センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然や歴史・文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事も行っている。事務局は当館内に置いている。

■会員（令和元年度末）

個人会員（年会費	2,000 円）	45 人
（半年会費	1,000 円）	3 人
家族会員（年会費	3,000 円）	56 組 208 人
（半年会費	1,500 円）	2 組 6 人

■役員（令和元年度）

会 長：行成正昭
 副会長：大杉洋子、徳野壽治、新居美佐子（博物館長）
 幹 事：森 敏博、幸坂敏行、結城孝典、本田壮一、坂井なつ
 監 査：石尾和仁、中村由香
 顧 問：鳥居 喬

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

令和元年度博物館企画展の図録等（「とくしまの恐竜時代」、「鳥居龍蔵、徳島を探る」）の増刷・頒布を行った。

●広報活動

新規会員の獲得をめざし、勧誘ポスターの掲示や会員募集案内チラシの配布を行った。また、博物館掲示板や展示ケース、博物館ホームページを活用して、会員募集や活動報告等の情報発信に務めた。

催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した会員募集や情報発信に努めた。また、友の会

報「アワーミュージアム」No.64・65 を発行し、会員に配付した。

① No.64（2019 年 7 月 31 日発行）

大嘗祭の匳服調進について

友の会行事報告 淡路日帰りバスツアー

友の会行事報告 遺跡・古墳見学（石井町）

友の会行事報告 化石をさがそう！

報告 2019 年度総会

新スタッフ紹介

② No.65（2020 年 1 月 31 日発行）

春の風物詩「ツクシ」について

友の会行事報告 那賀町日帰りバスツアー（阿波晩茶製造農家・博物館見学）

友の会行事報告 夜の文化の森たんけん（昆虫・ブラックライトで光るもの探し）

友の会行事報告 大昔の火おこしを体験しよう！

友の会行事報告 高知日帰りバスツアー

鳥居龍蔵記念博物館から企画展のお知らせ

常設展リニューアルのお知らせ

●野外活動等

会員を対象とした行事を 6 回実施した。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ①化石をさがそう！ | 6 月 2 日（日） |
| 場所：兵庫県南あわじ市 | 41 人 |
| ②遺跡・古墳見学（石井町） | 6 月 16 日（日） |
| 場所：石井町 | 6 人 |
| ③那賀町日帰りバスツアー（阿波晩茶製造農家・博物館見学） | 7 月 20 日（土） |



大昔の火おこしを体験しよう！



高知日帰りバスツアー

場所：那賀町 17人

- ④夜の文化の森たんけん（昆虫・ブラックライトで光るもの探し） 7月27日（土）

場所：文化の森総合公園 31人

- ⑤大昔の火おこしを体験しよう！ 10月26日（土）

場所：文化の森総合公園 14人

- ⑥高知日帰りバスツアー（植物園・歴史博物館見学）

場所：高知県高知市 12月7日（土）

38人

2. 公募ボランティア

平成17年度から、博物館の常設展示室を活用し、博物館や博物館資料の魅力を伝えるためのイベントを企画・運営するボランティアを公募し、毎年2月11日に開催しているボランティア企画イベント「博物館Vキング」に向けて、年間を通して活動している（年報第15号p.43～44参照）。

また、29年度からは、植物分野の行事を考案する「みどりのサポート隊」も公募し、活動の成果を普及行事に反映している（年報第26号p.52、第27号p.49参照）。

(1) イベントボランティア

令和元年度は46名のボランティアスタッフが参加し、3つの班に分かれて27回の会合を開いた。また、博物館資料や博物館の活動を紹介するとともに他団体の活動を学ぶため、博物館外で実施されたイベントにもブースを出展している。元年度に主催もしくは出展したイベントは以下の通りである。

- ①イベントボランティアかげ絵企画 5月4日（土）

30年度の「博物館Vキング」において上演したかげ絵を、再上演した。

参加者：142人

ボランティアスタッフ：6人

- ②科学体験フェスティバル in 徳島への出展

8月3・4日（土・日）

徳島大学で開催された第23回科学体験フェスティバル in 徳島に、「暗やみで光る!? 化石や勾玉のレプリカを作ろう!!」を出展した。おゆまる（熱するとやわらかくなる樹脂）でアンモナイトや寛永通宝のレプリカをつくってもらい、できた作品にブラックライトを照らして発光する様子を観察してもらった。

参加者：1,764人（3日834人、4日930人）

ボランティアスタッフ：延べ33人（3日20人、

4日13人）

- ③あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」への出展 11月4日（日）

あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」において、「恐竜の骨格模型の組み立て」を出展した。また、中央構造線の写真を立体視する体験も実施した。博物館資料の紹介や、他の団体がどのような活動をしているのかを理解する良い機会になった。

参加者：705人

ボランティアスタッフ：7人

- ④博物館Vキング 2月11日（火・祝）

文化の森ウインターフェスティバルにおける当館のイベントとして、「博物館Vキング」を実施した。準備の過程で、博物館資料を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。「博物館Vキング」では、「博物館で楽しいハンドクラフト」、「紙工作いろいろ」、「かげ絵と絵本の読み聞かせ」の3つのブースを出展した。

参加者：1,264人

ボランティアスタッフ：28人



あすたむらんど徳島への出展（骨格模型の組み立て）



博物館Vキング（紙工作いろいろ）

(2) みどりのサポート隊

元年度は46人のボランティアスタッフが参加し、10回の活動を実施した。いくつかの行事についての新しいアイデアを得ることができ、特に光る松ぼっくり工作やどんぐりピザについては、普及行事の「みどりを楽しもう・味わおう」シリーズにも反映できた（10月20日「どんぐりでピザを作ろう」、12月1日「クリスマスリースに一光る松ぼっくり工作」）。また、行事の予行を行った場合はその問題点を改良することができ、当日の参加者に喜んでもらえるなどの成果が上がっている。さらに、新展示に向けてクズの根を掘るなど協力を得ることができた。

元年度は次のような活動を行った。なお、開催時間は13:00～16:00、実施場所は博物館実習室である。

- ①光る松ぼっくり工作①仕込み編 4月21日
参加者：15名
- ②光る松ぼっくり工作②仕込みの続き 5月19日
参加者：5名
- ③桑の実でジャムを作ろう 6月16日
参加者：8名
- ④植物の繊維を取ろうのアレンジとレジン工作下準備 7月21日
参加者：6名
- ⑤葉っぱを使ったレジン工作 8月25日
参加者：10名
- ⑥光る松ぼっくり工作の準備とジェルキャンドル試作 9月22日
参加者：4名
- ⑦ドングリピザ試作 10月13日
参加者：5名
- ⑧光る松ぼっくり工作加工+立体プラバン 11月17日
参加者：6名
- ⑨クズを掘ってデンプンを取り出そう 12月15日
参加者：9名

- ⑩ドングリのでんぷんを取り出そう 1月19日
参加者：8名

3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

展示・普及教育・調査研究事業のうち、以下について、県民と協働で実施した。

(1) 展示

■県民との協働による展示

●部門展示「文化の森の植物～植物相の移り変わり～」

4月16日（火）～7月7日（日）

普及行事「中級クラス植物観察会」の参加者の成果発表として、それぞれが調査を通じて関心を持った植物について紹介した。

●部門展示「アゲハチョウと甲虫—愛好家たちのコレクション—」

7月9日（火）～9月29日（日）

徳島県吉野川市在住の小川昌彦氏（徳島蝶の会代表）による世界のアゲハチョウのコレクションと、徳島市在住の増田敏雄氏による甲虫コレクションを紹介した。

●トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本～河野コレクションより～」

10月1日（火）～1月19日（日）

徳島県海部郡の鞆浦漁協に勤める河野亮平氏が収集・作製した徳島県産の海水魚類の頭骨標本を展示・紹介した。

●企画展「ミネラルズ2019」

4月24日（水）～6月2日（日）

県内在住鉱物愛好家の協力を得て、四国内の鉱物資料の展示を行った

●特別陳列「とくしまタイムトラベル—過去・現在・未来—」

10月5日（土）～11月10日（日）



部門展示「文化の森の植物」で展示作業をする参加者

イベントボランティアと協働で製作した「のぞきからくり」や「風洞装置」を展示した。

■常設展の更新に向けた活動

●県民とともに新常設展を考えるワークショップ

5月25日(土)

参加者公募型のワークショップを開催し、新常設展のあり方について、率直な意見交換を行った。

●「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ

5月24日(金)、6月18日(火)

だれもが楽しめる博物館の展示のあり方、情報提供のあり方について、ワークショップを行い、リードユーザーとともにアイデアを出し合い検討した。

(2) 普及教育

●企画展展示解説

5月4日(土・祝) 企画展「ミネラルズ2019」展示解説

●ミュージアムトーク

4月28日(日) ゼロから始める植物学～植物用語編～

6月8日(土) ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～

7月20日(土) ゼロから始める植物学～標本の作り方編～

12月8日(日) ゼロから始める植物学～植物の名前編～

2月8日(日) ゼロから始める植物学～標本整理編～

●野外生きものかんさつ

4月28日(日) 初めての植物かんさつ(春編)

5月11日(土) 花巡り!植物かんさつハイキング5月～新緑の自然で癒やされよう!～

6月8日(土) 初めての植物かんさつ(梅雨期編)

7月7日(土) 花巡り!植物かんさつハイキング7月～真夏の森林浴～

7月20日(日) 初めての植物かんさつ(夏編)

9月1日(日) 漂着物を探そう!

9月15日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング9月～秋の実りを見つけよう!～

11月24日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング11月～晩秋のあづり越えて温まろう!～

12月8日(日) 初めての植物かんさつ(冬編)

2月8日(日) 初めての植物かんさつ(新春編)

●みどりを楽しもう、味わおう

10月20日(日) ドングリでピザを作ろう

12月1日(日) クリスマスリースに一光る松ぼっくり工作

●県民とともに新常設展を考えるワークショップ

5月25日(土)

(3) 調査研究

●タンポポ調査・西日本2020

近畿、中国、四国の17府県にまたがる広域でタンポポ調査を行った。だれでもが調査できる方法を採用し、参加を呼びかけたところ徳島県で600点の調査用紙が集まった。この調査は2年度と3年度にも行われ、3年度末に結果をまとめて報告する予定である。

●日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町で行われた恐竜化石含有層の発掘調査では、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾などの勝浦町内のボランティア37人(内、有識者3名)の協力を得て、化石の探索作業を行った。

(10月24日(木)～12月27日(金))：化石発掘現場での調査および後方支援施設での作業)

●漂着物の調査

県内の漂着物研究会である、とくしま海の観察会と、年4回定期的に県内海浜において漂着物の調査を実施している。調査結果は、展示や県民向けの講座などで活用されている。

●アサギマダラのマーキング調査

県民へ参加を呼びかけて実施している調査ではなく、問い合わせのあった方に協力をお願いしている。県内のマーキング記録は、アサギマダラメーリングリスト[asagi]、[asaginet]およびアサギネット掲示板から情報を整理している。

VII シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

令和元年度に行ったレファレンスの件数は571件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが201件（39%）で最も多く、次いでマス

コミ・出版関係が179件（34%）、博物館・図書館・官公庁等が57件（11%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が35件（7%）、大学生・院生・研究者等が19件（4%）、その他が28件（5%）であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

令和元年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

新居美佐子

（公財）日本博物館協会参与

（平成31.4.1～令和2.3.31）

日本博物館協会四国支部副支部長

（平成31.4.1～令和2.3.31）

四国地区博物館協議会副会長

（平成31.4.1～令和2.3.31）

徳島県博物館協議会会長

（平成31.4.1～令和2.3.31）

※平成31.4.1～4.30は前任の遠藤佳孝館長
長谷川賢二

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員

（平成19.5.1～）

阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員

（令和2.6.1～3.3.31）

徳島県文化財保存活用大綱策定委員会委員

（令和2.8.1～3.3.31）

鳴門市指定管理候補者選定委員会委員

（令和2.11.11～3.3.31）

徳島県戦没者記念館企画委員会委員

（平成27.7～）

高大連携教育研究会専門委員

（平成30.4.1～）

日本山岳修験学会理事

（令和元.9～3.9）

日本ミュージアム・マネジメント学会中・四国支部会副支部長

（平成30年度～）

四国中世史研究会運営委員

（平成31.4～令和3.3）

●分野別レファレンス件数（令和2年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	57
（無脊椎）	21
（昆虫）	129
植物	55
地学	129
考古	18
歴史	78
民俗	33
美術工芸	23
保存科学	4
その他	28
合計	571

52 シンクタンクとしての社会貢献

- 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25. 9. 1 ~)
- 小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(令和 2. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成 21. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~令和 2. 3. 31)
環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~令和 3. 6. 30)
- 茨木 靖
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~令和 2. 3. 31)
環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~令和 3. 6. 30)
阿波学会紀要第 62 号 編集委員
(平成 29. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
- 辻野泰之
日本古生物学会 化石友の会幹事
(令和元. 7. 1 ~令和 3. 6. 30)
- 山田量崇
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 21. 12. 1 ~令和 2. 3. 31)
徳島県田園環境検討委員会委員
(平成 22. 1. 15 ~令和 2. 1. 14)
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(平成 23. 5. 25 ~令和 2. 3. 31)
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員
(平成 24. 4. 2 ~令和 2. 3. 31)
環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~令和 3. 6. 30)
日本昆虫学会「日本の昆虫」編集委員
(平成 25. 3. 14 ~令和 2. 3. 31)
日本昆虫分類学会評議員
(平成 27. 1. 1 ~)
- 佐藤陽一
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
(平成 15. 4. 1 ~)
- 井藤大樹
平成 31 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(陸域調査)調査者
(令和元. 6. 7 ~2. 3. 31)
徳島県田園環境検討委員
(令和 2. 1. 15 ~)
- 庄武憲子
四国民俗学会理事
(令和元. 4. 1 ~2. 3. 31)
徳島発!輝くむらのたから評価委員
(令和元. 8. 6 ~2. 3. 31)
- 磯本宏紀
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
日本民具学会理事
(平成 28. 11 ~令和元. 10)
一般社団法人日本民俗学会評議員
(平成 30. 10 ~令和 2. 9)
一般社団法人日本民俗学会情報広報担当特別理事
(令和元. 5 ~令和 2. 9)
国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員
(平成 31. 4. 1 ~令和 2. 3. 31)
阿波晩茶製造技術調査委員会委員
(平成 30. 4. 2 ~令和 2. 3. 31)
犬伏家住宅調査委員会委員
(平成 30. 9. 18 ~令和元. 9. 30)
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査委員会専門委員
(令和元. 11. 4 ~令和 3. 3. 31)
阿波学会紀要第 63 号 編集委員
(令和元. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
- 松永友和
徳島地方史研究会運営委員
(平成 23. 5 ~)
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25. 9. 1 ~)
徳島市史第六巻調査執筆委員会委員
(平成 29. 6. 30 ~令和 2. 3. 31)
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員
(平成 31. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)
日本遺産「藍のふるさと阿波」藍関連文書調査専門委員会委員
(令和元. 7. 25 ~令和 2. 3. 31)
- 岡本治代
阿波学会紀要第 63 号 編集委員
(令和元. 4. 1 ~令和 3. 3. 31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・

担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している（詳細は p. 22～23 参照）。

5月19日 松永友和

三好郷土史研究会総会で講演「天保期阿波の民衆運動—上郡—揆を中心に—」（三好市保健センター）

5月29日 岡本治代

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波①国府」（徳島県立総合福祉センター）

6月5日 岡本治代

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波②寺院」（徳島県立総合福祉センター）

6月5日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）

6月25日 長谷川賢二

東京人権啓発企業連絡会第8グループ研修で講演「博物館の人権問題のあいだ」「徳島県における被差別部落の歴史と解放運動」（当館）

7月2日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（小松島市総合福祉センター）

7月11日 長谷川賢二

石井町ふるりの歴史を学ぶ会学習会で講演「阿波忌部と大嘗祭」（石井町中央公民館）

7月24日 岡本治代

徳島県立文書館「令和元年度古文書保存講座」講師

7月31日 佐藤陽一・井藤大樹

吉野川交流推進会議「交流体験 in よしのがわ（下流編）～おさかな博士の川魚かんさつ～」講師（鮎喰川）

8月24日～25日 辻野泰之・中尾賢一

「恐竜の化石を見つけよう！」化石発掘体験に講師として協力（勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」）

8月28日 松永友和

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「大塩平八郎と阿波・徳島」（徳島県立総合福祉センター）

9月2日 松永友和

徳島県シルバー大学校上板校で講演「江戸時代後期の阿波藍と徳島藩」（上板町老人福祉センター）

9月5日 植地岳彦

第41回全国公民館研究集会徳島県大会でファシリテーターとして分科会グループワーク実施「学校・

家庭・地域との連携」（アスティとくしま）

9月8日 植地岳彦

（公財）徳島県埋蔵文化財センター 2019年度アワコウコ楽講座「長国の埋蔵文化財 陸—長国の出土銭—」で講演「銅製品のサビと劣化—北の脇—括出土銭を中心に—」（徳島県立埋蔵文化財総合センター）

9月12日 松永友和

徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「江戸時代の旅と「鳴門」見物」（うずしお会館）

9月18日 庄武憲子

徳島県シルバー大学校大学院で講義「民俗学①②」（徳島県立総合福祉センター）

9月23日 岡本治代

長国の埋蔵文化財 陸～長国のうつわ in 牟岐～で講演「土器が語る長国の歴史」（海の総合文化センター）

10月9日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立過程」（徳島県立総合福祉センター）

10月9日 磯本宏紀

一般社団法人阿波和紙伝統産業会館・講習「民俗資料の分類・収集・保管」1回目での講師（吉野川市アメニティセンター）

10月23日 小川 誠

平島学童クラブ研修会「葉っぱのスタンプ作りなどの植物を使った普及行事の紹介」（阿南市平島公民館）

11月6日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」（徳島県立総合福祉センター）

11月10日 庄武憲子

天狗久まつりで講演「初代天狗久が阿波人形浄瑠璃に残したもの」（国府コミュニティセンター）

11月12日 長谷川賢二

まなび—あ徳島「新あわ学コース」で講演「四国遍路の歴史」（四国大学）

11月14日 磯本宏紀

一般社団法人阿波和紙伝統産業会館・講習「民俗資料の分類・収集・保管」2回目での講師（吉野川市アメニティセンター）

11月23日 辻野泰之

「第18回恐竜の里ウォークラリー」に講師として協力（勝浦町 人形文化交流館および恐竜の里）

11月26日 松永友和

公益財団法人三木文庫で講演「藍商と紺屋」

12月10日 磯本宏紀

一般社団法人阿波和紙伝統産業会館・講習「民俗資

54 シンクタンクとしての社会貢献

料の分類・収集・保管」3回目での講師（吉野川市アメニティセンター）

12月10日 茨木 靖

まなびーあ徳島「新あわ学コース」で講演「徳島の植物」（四国大学）

12月14日 長谷川賢二

令和元年度勝瑞学講座で講演「中世阿波の信仰と細川氏」（藍住町教育委員会）

1月12日 辻野泰之

「本店営業部新築オープン記念 あわぎん恐竜時代展」で講演およびガイドツアー（阿波銀プラザ 本店営業部ビル 2F・3F）

1月22日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校阿南校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（阿南ひまわり会館）

1月24日 植地岳彦

令和元年度徳島県社会教育研修大会でファシリテーターとしてワークショップ実施「子どもの教育」（徳島県立総合教育センター）

2月5日 磯本宏紀

石井町ふるりの歴史を学ぶ会学習会で講演「以西底曳網漁業における漁民の移住と定住化」（石井町中央公民館）

2月8日 松永友和

一般財団法人阿波和紙伝統産業会館の講座「阿波を学ぶ（歴史編）」で講演「大塩平八郎の乱」と阿波」（吉野川市アメニティセンター）

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受託

令和元年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

山田量崇

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成31.4.3～令和元.9.23）

磯本宏紀

徳島大学非常勤講師（博物館経営論）
（平成31.4.8～令和元.9.30）

松永友和

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成31.4.3～令和元.9.23）

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修

得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

元年度は、8月20日（火）～24日（土）に実習生の受け入れを行った。実習生は16人で、大学別の内訳は次の通りである。

鳴門教育大学	3人	四国大学	6人
徳島大学	2人	静岡大学	1人
秋田公立美術大学	1人	学習院大学	1人
京都美術工芸大学	1人	尾道市立大学	1人

なお、同時期に県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生として、高知県立大学の1人を受け入れた。

カリキュラムは表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定（年報22号参照）にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。博物館講座室を会場として、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で講義を担当した。各科目の日程、受講者数は次の通りである。

①博物館資料保存論 9月3日、5日～8日

徳島大1人、鳴門教育大6人、四国大26人

②博物館教育論 2月21～23日、26～27日

徳島大6人、鳴門教育大8人、四国大12人

③博物館展示論 2月29日～3月1日、3～5日

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休講）

参加者無し（予定数：徳島大6人、鳴門教育大6人、四国大12人）

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

令和元年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

令和元年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (8人)		B 班 (8人)	
		実習名(場所)	担当者	実習名(場所)	担当者
8/20(火)	午前	館長あいさつ(実習室)	新居	館長あいさつ(実習室)	新居
		ガイダンス・館内施設見学(館内)	大橋	ガイダンス・館内施設見学(館内)	大橋
	午後	普及行事の準備(実習室)	小川	美術資料の取り扱い方・整理(講座室)	大橋
8/21(水)	午前	考古資料の整理(考古収蔵庫)	岡本	化石の小割実習(研究室奥テラス)	辻野
	午後	学校連携、広報活動(講座室・館内)	西川・坂部	図書整理(実習室・書庫)	庄武
8/22(木)	午前	地学資料の整理(実習室・地学収蔵庫)	中尾	民俗資料の整理(歴民・考古収蔵庫)	磯本
	午後	魚類標本の整理(液浸収蔵庫)	井藤	民俗資料の整理(歴民・考古収蔵庫)	磯本
8/23(金)	午前	歴史資料の整理(実習室)	松永	学校連携、広報活動(講座室・館内)	西川・坂部
	午後	植物標本の整理(生物収蔵庫)	茨木	歴史資料の整理(実習室)	松永
8/24(土)	午前	文化財のX線調査(X線室・実習室)	植地	文化財のX線調査(X線室・実習室)	植地
	午後	美術資料の取り扱い方・整理(講座室)	大橋	昆虫標本の整理(実習室)	山田

●徳島地域文化研究会

総会及び研究会

開催日：8月8日(木)

会場：図書館集会室2

参加者：7人

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム(年2～3回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の発行(年刊)等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催(年2回程度)、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』(年刊)の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

●四国民俗学会

四国地域の民俗研究者により構成されており、研究会の開催(年1回程度)、会誌『四国民俗』の発行(年刊)、資料の調査研究等を行っている。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在76館(園)が加盟している。4県が持ち回

りで2年ずつ会長・事務局を務めることになっており、平成30～令和元年度は香川県立ミュージアムが会長館で、当館は副会長館を務めている。

元年度の役員会・総会及び研修が、次の通り開催された。

●役員会

日時：5月20日(月)

11:00～12:00

会場：香川県立ミュージアム 会議室

議題：平成30年度事業報告、決算報告及び監査報告

役員改選

令和元年度事業計画及び予算

その他

●総会

日時：5月20日(月)13:30～16:30

会場：香川県立ミュージアム 研修室

議題：平成30年度事業報告、決算報告及び監査報告

役員改選

令和元年度事業計画及び予算

その他

報告：演題「就学前施設との連携事業－「アートの日」の取り組みから－」

講師 亀井幸子氏(徳島県立近代美術館)

報告：演題「地域ゆかりの歴史資料を活用した学習プログラム開発－香川県立ミュージアム活用研究会の取り組みから－」

講師 藤田順也氏(香川県立ミュージアム)

●研修

日時：5月21日(火)9:45～11:00

場所：香川県立ミュージアム 研修室
 講演：演題「日本博物館協会本部の事業及び博物館を取り巻く全国的な状況について」
 講師 半田昌之氏（公益財団法人日本博物館協会 専務理事）

●視察

日時：5月21日（火）11：00～12：00
 場所：香川県立ミュージアム 特別展示室
 内容：特別展「自然に挑む 江戸の超グラフィック－高松松平家博物図譜」ほか
 解説 御厨義道氏（香川県立ミュージアム主任専門学芸員）

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、31年3月末現在では50館になっている。当館が事務局を務めている。

●元年度事業

- ①役員会の開催
 - 6月28日（金） 徳島県立文学書道館
 - 2月19日（水） 徳島県立博物館
- ②総会の開催
 - 参加者：31人
 - 日時：6月28日（金） 14：00～16：40
 - 場所：徳島県立文学書道館
 - 議事：平成30年度事業報告及び決算報告
平成30年度監査報告
令和元年度役員選出
令和元年度事業計画及び会計予算
その他
 - 講演：富永正志氏（徳島県立文学書道館 館長）
「徳島県立文学書道館について」
 - 視察：徳島県立文学書道館の見学
- ③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布
- ④徳島県博物館協議会ニュースの発行
No.60～62を発行・配布した。
- ⑤研修会の開催 参加者19人
 - 日時：10月25日（金） 13：30～16：00
 - 場所：阿南市科学センター
 - 内容：講演「虹で探る宇宙」
講師 今村和義氏（阿南市科学センター学芸員）
実習「栃木県塩原市産の原石を使った化石クリーニング」
講師 阿南市科学センター職員

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、31機関・団体が加入している。令和元年度は、鳥取市で第24回総会が開催されたほか、フィールドワーク等が行われた（11月21～22日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、平成30～令和元年度は事務局構成団体となっている。大阪人権博物館、水平社博物館等、加入機関・団体との個別的な協力も行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者155人が参加している。

令和元年度は、自然系博物館における標本情報の発信に関する研究会（2回）、出版事業として「博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう」の出版を行った。また、資料貸し出し事業「ワークショップ用ブラックライト」などを行った。

(5) 阿波しらすぎ大橋環境モニタリング調査 GIS データの管理

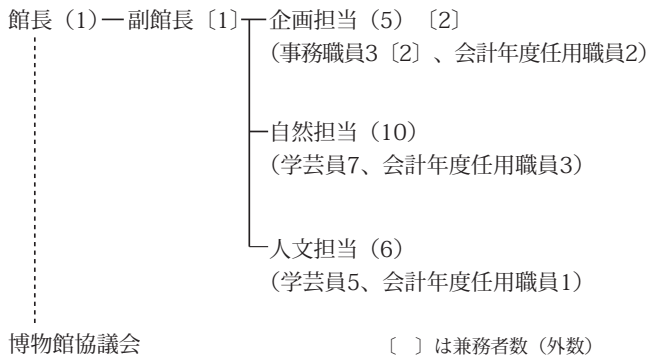
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらすぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始し、正式版は27年5月より配布を開始した。

VIII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和2年4月1日現在）



(2) 職員名簿（令和2年4月1日現在）

館長 新居美佐子
 副館長 長谷川賢二（鳥居龍蔵記念博物館長本務）

〈企画担当〉

課長補佐 西川 栄展
 課長補佐 石橋 典子（二十一世紀館課長補佐本務）

主査兼係長 植地 岳彦
 係長 丸山 直生
 主任 村尾 祐司（二十一世紀館主任本務）
 会計年度任用職員 松家あき子
 “ 田原 晶子

〈自然担当〉

課長 小川 誠（植物）
 上席学芸員 中尾 賢一（地学）
 専門学芸員 茨木 靖（植物）
 学芸係長 辻野 泰之（地学）
 学芸係長 山田 量崇（動物）
 主席 佐藤 陽一（動物）
 主任学芸員 井藤 大樹（動物）
 会計年度任用職員 田中 裕美
 “ 豊谷 千幸
 “ 中村美代子

〈人文担当〉

課長 大橋 俊雄（美術工芸）
 上席学芸員 庄武 憲子（民俗）
 学芸係長 磯本 宏紀（民俗）

主任 松永 友和（歴史）
 主任 岡本 治代（考古・保存科学）
 会計年度任用職員 尾崎みどり

(3) 人事異動

〈令和2年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉
 転出：長谷川賢二・副館長、鳥居龍蔵記念博物館長（博物館副館長兼務）へ
 坂部 公章・係長、阿南市立新野中学校教頭へ
 転入：丸山 直生・係長（徳島学院係長）
 兼務：西川 栄展・文化の森振興センター

(4) 令和元年度非常勤職員

●文化推進員（非常勤特別職）

清重 江美（平成 28.10.1～令和元 .9.30）
 松家あき子（平成 29.4.1～令和 2.3.31）
 田原 晶子（平成 30.4.1～令和 2.3.31）
 田中（藤田）裕美（平成 30.4.1～令和 2.3.31）
 豊谷 千幸（平成 30.9.1～令和 2.3.31）
 尾崎みどり（令和元 .10.1～令和 2.3.31）

●非常勤技能員

中村美代子（令和元 .6.1～令和 2.3.31）

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下に示す。

●令和元年度博物館費（2月現計予算額）（単位：千円）

予算総額	80,100
管理運営	14,480
展覧	5,214
調査研究	2,077
収集保存	5,152
普及教育	1,591
新常設展設計	26,000
新常設展構築	4,000
文化の森開園プレ 30周年記念事業（博物館60周年記念展）	1,500
日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト	20,086

3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務し（27年度からは本部兼務のみ）、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進を図っている。30年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携事業の継続

引き続き文化の森全館と連携を図り、5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」、8月18日の「文化の森サマーフェスティバル」、11月3日の「文化の森 大秋祭り!!」、2月11日の「文化の森ウィンターフェスティバル」を行った。また、こうしたイベントをより有意義なものとするため改善策について検討を深めた。

②文化の森学習応援事業の実施

従来から、文化の森の貸し館施設を学習室として開放してほしいとの要望が寄せられていた。これを受け、子どもたちの学力向上及び文化の森総合公園内の貸し館施設の有効活用の観点から、28年度から、夏休み、冬休みの期間中、机と椅子があり学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸し館スペースを一般予約の空き状況をみながら学習室として開放した。その結果、中学生、高校生を中心に多くの利用があった。なお、春休み期間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開放を中止した。

③文化の森開園30周年記念事業の検討

文化の森開園30周年のロゴマークを策定するとともに、記念行事の内容について検討を重ねた。

4. 防災及び危機管理

(1) 危機管理体制

文化の森3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

(2) 防災訓練

3月11日（水）、二十一世紀館を中心に、自衛消防訓練を行った。消防設備についての講義や現場確認、取扱説明を受けたほか、水消火器を使用した消火訓練を行い、防災意識を高めた。

(3) 耐震化対策の推進

地震発生時の安全確保のため、事務室、館長室、作業室、保存処理室、電子顕微鏡室、薬品庫、書類庫において書棚、スチール棚等の転倒防止の工事を行った。26年度に自然（動物）研究室、28年度に人文研究室、29年度に自然（植物・地学）、30年度に分析室（1・2）で施工しており、継続分として実施したものである。

5. ユニバーサル化への取り組み

令和元年度は以下の通り取り組んだ。

①「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ（1回目）

常設展更新に向け、塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館）、山田小百合氏（NPO法人Collable）の指導のもと、車椅子利用者2人、視覚障がい者1人、聴覚障がい者2人、県内在住外国人2人のリードユーザーと当館・近代美術館・二十一世紀館の職員、展示設計に関わる乃村工藝社員が、楽しめる新常設展とするためのワークショップを行った。

日時：5月24日

参加者：32人（指導者2人、リードユーザー7人、当館職員等16人、乃村工藝社員5人、手話通訳者2人）

②「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ（2回目）

前回の結果を受け、キャプションの向き、ハンズオン台座のかたち、床のサインデザイン、銅鐸エリアの解説デザイン、板碑・アンモナイトの展示デザイン、板碑等を外国語に翻訳しやすくする解説づくりなどの意見交換、検証などを行った。結果は実施設計に反映



「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」
ワークショップ（1回目）



「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」
ワークショップ (2回目)

し、さらに展示製作の中で実現を図りたい。

日時：6月18日

参加者：31人（指導者2人、リードユーザー7人、館職員15人、乃村工藝社員5人、手話通訳者2人）

③普及行事「手話通訳&要約筆記付き常設展見どころ解説」

総合展示の大テーマの見どころについて、触察資料を補助として使いながら、手話通訳者を依頼して解説した。

日時：12月1日 10:30～12:00

参加者：3人

④普及行事「視覚障がい者のための常設展見どころ解説」

総合展示の大テーマの見どころについて、触察資料を用意して解説した。用意した資料は、自然系・人文系にわたる23件である。

日時：12月15日 10:30～12:00

参加者：9人

6. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

令和元年度は協議会を1回開催した。

●令和元年度博物館協議会

日時：令和元年9月26日（木）

14:00～16:15

会場：博物館講座室

議事

- ①平成30年度事業の実施状況について
- ②令和元年度予算及び事業概要について
- ③今後の博物館運営について

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(令和2年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	川真田早苗	元文部科学省学習指導要領等改善検討指導・助言委員（牛島小学校教諭）
社会教育	安倍 久恵（副会長）	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原 多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	大栗 美菜	徳島市立考古資料館学芸員
学識経験	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館准教授
	河野まゆ子	JTB総合研究所地域戦略部長・主席研究員
	町田 哲（会長）	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村 幸江	阿波市国際交流協会会長
	三浦 麻衣	徳島新聞社生活文化部記者
家庭教育	角元 良	八万小学校PTA会長

7. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、次のような研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。月日、研修会等名称（主催者。名称に主催者名が含まれている場合は省略）、氏名の順に記す。

6月20日 公開承認施設担当者会議（文化庁）
大橋俊雄

6月21日 国宝重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（文化庁）
大橋俊雄

7月3日 第26回全国博物館長会議（文部科学省・（公財）日本博物館協会）
新居美佐子

9月4日 国際博物館会議（ICOM）京都大会

庄武憲子、磯本宏紀
辻野泰之、井藤大樹

9月5日 国際博物館会議（ICOM）自然史コレクション委員会オフサイトミーティング

辻野泰之

60 管理運営・マネジメント

- 9月 5日 第67回全国博物館大会（(公財)
日本博物館協会）
庄武憲子
- 10月 7～11日 第11回指定文化財（美術工芸品）
企画・展示セミナー（文化庁）
松永友和
- 10月 11日 令和元年度とくしま社会教育主事
の会
植地岳彦
- 11月 21～22日 第24回人権資料・展示全国ネッ
トワーク
西川栄展
- 11月 27～29日 令和元年度ミュージアム・マネジ
メント研修
新居美佐子
- 1月 30～31日 令和元年度研究協議会（(公財）
日本博物館協会）
西川栄展

8. 視察等博物館関係来訪者

- 4月 4日 桜美林大学 中生勝美氏
- 6月 15日 追手門学院大学心理学部
瀧端真理子氏ほか一行
- 7月 10日 広島平和記念資料館 滝川卓男氏
- 10月 3日 ノンフィクション作家・福井県年
縞博物館 山根一真氏
- 1月 24日 京都精華大学 姜 竣氏
- 1月 29・30日 山形県議会議員 船山現人氏
- 2月 23日 同志社女子大学 山田邦和氏
- 2月 29日 千葉県立中央博物館
萩野康則氏、伴光哲氏

IX 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標（令和元年9月26日策定）

生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなどもすすめられるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、3期15年間（第1期：平成16～20年度、第2期：21～25年度、第3期：26～30年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化をすすめてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動をすすめていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考えられる。

近年では、社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり、観光や地方創生への貢献なども期待されている。だからこそ、地域に根差し、学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究など、しっかりとした土台を保つことで、良質で多面的なサービスが実現できると考える。

30年度をもって第3期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第4期目標（平成31・令和元～5年度）をまとめた。

(1) 第3期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革をすすめ、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

第2期活動目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の基本理念および基本的性格（注）を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価をすすめることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残した。

そこで、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう見直した。

この「県民とともに」を基調とする活動路線は、ユニバーサルミュージアムへの各種の取り組み、公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、阿波木偶箱まわし調査などにおいて、一定の成果を挙げたといえる。しかしながら、これらの活動を含めた博物館活動全体について、県民のより一層の認識の深化という点において課題を残した。

62 中期活動目標と自己評価

(注)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」(昭和59年1月)に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次のとおりである。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にす博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学(考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉)・自然科学(動物、植物、地学)の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 第4期中期活動目標の策定の経緯

近年、当館を含めた博物館を取り巻く状況は予算の減少、少子高齢化、ユニバーサル化の推進、インバウンド対応、そして施設の老朽化と設備の長寿命化などの課題が重くのしかかり大きく変化してきている。加えて、当館は令和3(2021)年度のオープンを目標とする新常設展の構築に向けて、鋭意準備をすすめている状況である。このように第4期は、新たな時代を切り開いていくべき期間と言える。

そこで、第4期中期活動目標の策定にあたっては、これまで3期15年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい活動目標についての検討を行った。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を重視・継続し、さらにその深化を図るべく、見直しを行った。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—だれもがとどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがとどえる地域の拠点を目指します。

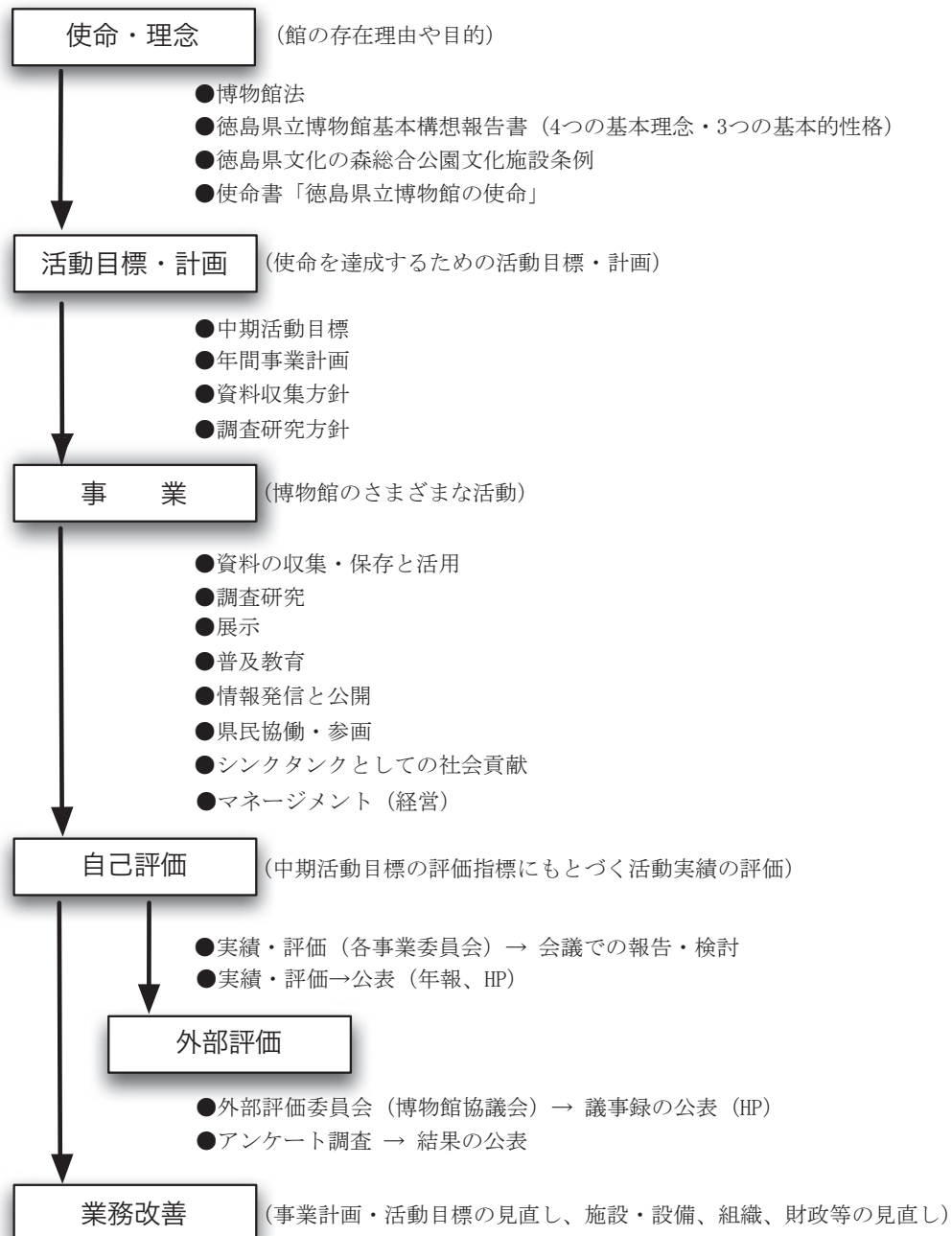
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第4期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成31・令和元～5年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- 中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- 年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- 活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- 活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおりである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

①展示

だれもが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんや関連機関との連携を大切にしながら、徳島および関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。今期は、だれもが学び、発見し、体験できる場の新たな創出のため、常設展全面リニューアルに取り組みます。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展リニューアルの実施	基本構想にもとづき、常設展のリニューアルを実施します。リニューアルにあたっては、実物資料（モノ）の魅力発信、フレキシブルな展示構成、ユニバーサル化推進、発見・参加体験の充実について重点的に取り組みます。	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み	実物資料（モノ）の魅力発信できる展示の設計・実施・活用		※ H31～R3年度の実施状況およびリニューアルオープン後の活用・改善状況等
		フレキシブルな展示構成に向けた取り組み	展示替えしやすい可変性のある展示の設計・実施・活用		
		ユニバーサル化推進に向けた取り組み	だれもが安心して利用できる空間の設計・整備・活用		
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み	高精細映像の制作と配置、ハンズオン展示の拡大と活用		
		新常設展のPRと活用に向けた取り組み	新常設展の広報・PRの充実とリニューアル後の効果的な活用		
1-2 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため目標値がリニューアル前後で異なる
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合		
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため考慮が必要
		展示替え回数	常設展の展示替えおよびテーマ展示の開催回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	※常設展リニューアル前は部門展示、トピック展示を含む
		展示室内の改善・修繕の実施状況	展示室内の設備等改善・修繕状況および展示補助具の追加・改善状況		展示替えは除く
1-3 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする※第4期中、常設展リニューアル工事にともなう企画展示室が使用できない期間を含むため考慮が必要
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		企画展の検討状況			
1-4 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列等の多様な展示の開催をすすめます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	2回/年	常設展ロビー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			

1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。また、他機関との共同による展示を検討、実施します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-6	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
			展示解説シート等の配布・設置状況	展示解説シート等の配布、追加状況		
1-7	県民などとの協働による展示の推進	県民などとの協働で、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化についてだれもが楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		5,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		館での授業件数			
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
学校の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%			
2-3	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4	県民との協働による普及行事等の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事等を推進します。	県民との協働による普及行事等の実施状況		県民からの協力を受けた行事を含む
2-5	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	幼児や外国人、障がい者などさまざまな人が、普及行事等に参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況		

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみならずおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元し、可視化に努め、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみならずが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数	2件/年	
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む

66 中期活動目標と自己評価

			民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
			マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、さまざまな手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、さまざまな形で活用します。(使命:「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
収集						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	前年度の収蔵資料点数実績+20,000点(年4,000点×5年)	550,000点	
			新規資料増加点数		4,000点	
			採集資料件数		20件/年	
			購入資料件数		3件/年	
			寄贈資料件数		100件/年	
4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
			新規寄託件数		3件/年	
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数(雑誌類を除く)		
			新規受入図書冊数		140冊	
			寄贈図書冊数		40冊	
			購入図書冊数		100冊	
			購入雑誌タイトル数			
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
4-5	資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
			収蔵庫点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査	適正な空気環境の維持		
			新たな防虫・防菌対策の検討	検討実績		
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			
活用						
4-7	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展での利用点数			
			常設展以外の展示での利用点数			
4-8	貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し(2-2学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			

⑤情報の発信と公開

博物館活動についてのさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話をすすめます。第4期は、だれもが博物館の情報を、より利用できるような環境づくりを目指します。また、常設展のリニューアルの進捗状況や広報など、タイムリーな情報発信に努めます。(使命:「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
5-1	マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材・報道した数	100件/年	印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）	
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年		
5-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段や発送の新規開拓	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数			
		年間催し物案内発送件数（発送回数）		600件（1回）/年		
		月間催し物案内発送件数（発送回数）		各80件（12回）/年		
		博物館ニュース発送件数（発送回数）		各1,100件（4回）/年		
5-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	9,000,000件/年	
		HPの新規および更新したページ数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	算定の都合上更新ページ数も含む	
		HPの内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上		
5-4	SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	内容が更新された回数	80回/年	
5-5	だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	子どもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応	スマートフォンなど新型端末への対応状況		
		HPの多言語対応	英語など日本語以外の対応状況			
		HPの見やすさや色の検討	文字の大きさを選択できたり、テキスト読み上げツールや見やすい配色などへの対応状況			
		デジタルアーカイブ	整備状況			
5-6	常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況	発信件数		FB、HP、資料提供などの総件数

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんと一緒に活動することにより、県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するとともに、だれもお互いにつながる拠点となることを目指します。（使命：「連」つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
6-1	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	H30年度の会員数から増加を目指す
		個人会員				
		家族会員				
		会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%		
		個人会員				
		家族会員				
		友の会行事実施回数		6回/年		
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%		
		個人会員				
		家族会員				
6-2	公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数		
		個人会員				
		家族会員				
		会報の発行回数		2回/年		
		公募ボランティア登録者数				イベントボランティア登録者数、みどりのサポート隊登録者数など
公募ボランティア活動回数（全体会・班会合、イベント）	企画運営型行事等件数	会合等を含む活動の延べ日数			イベントボランティア活動回数、みどりのサポート隊活動回数	

68 中期活動目標と自己評価

6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事および調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6 参照
			県民参画型調査の件数	2件/年	3-3 参照	
			県民との協働による普及行事等の実施状況			友の会会員、公募ボランティア、その他の県民と協働で実施したイベントを統合して記録する

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」つながりを大切に、だれもが持つ博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
7-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	500件/年	
			周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
			講演会等の受講者数			
7-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
			機関・団体等への協力状況			
7-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数		3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数	
			学生・院生指導人数			
			博物館実習生受入人数			
			学芸員養成科目受講者数			
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
			連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのよい運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況		
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内および近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合		

8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4	設置者による理解および外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県および県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
			危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割および当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
			自己点検評価の状況			
			外部評価の状況			

2. 令和元年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
1-1 常設展リニューアルの実施	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み		・「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」での検討及び県知事との意見交換会（ランチミーティング） ・「未来の博物館を考える検討委員会」での検討	・基本設計における検討 ・来館者モニタリング調査の実施 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作	・実施設計における検討 ・展示計画再点検ワークショップの実施 ・新常設展での重文展示に関する文化庁との協議 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作 ・デジタルアーカイブの構築と資料撮影
	フレキシブルな展示構成に向けた取り組み			・基本設計における検討 ・新常設展での展示に向けた資料の収集	・実施設計における検討 ・新常設展での展示に向けた資料の収集
	ユニバーサル化推進に向けた取り組み			・基本設計における検討 ・インクルーシブデザイン学習会の実施	・実施設計における検討 ・インクルーシブデザイン・ワークショップの実施
	映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み			・基本設計における検討 ・新常設展での展示に向けた映像撮影 ・ハンズオングッズの検討 ・インターネットの環境の改善を検討	・実施設計における検討 ・新常設展での展示に向けた映像撮影 ・ハンズオングッズの検討 ・インターネットの環境の改善を検討
	新常設展のPRと活用に向けた取り組み			・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道 ・県民とともに新常設展を考えるワークショップの実施	・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道 ・ホームページ、フェイスブック等でのPR ・特別陳列「とくしまタイムトラベル」での新常設展のプロモーション展示 ・広報戦略策定に向けた研修会の実施

70 中期活動目標と自己評価

						<ul style="list-style-type: none"> ・来館者調査の実施 ・県民とともに新常設展を考えるワークショップの実施 ・「蔵出し!とくしま“宝もの”展」 「徳島まるづかみ展」の開催計画
1-2	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	44,142人	42,764人	49,800人
		観覧者のリピーター率		61% (8月)	40% (8月)	35% (8月)
		観覧者の満足度	80%	83% (8月)	88% (8月)	99% (8月)
		展示替え回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	23回 (部門展示5回、トピックコーナー7回、阿波の近世絵画7回、ロビー等の小展示4回)	16回 (部門展示4回、トピックコーナー6回、阿波の近世絵画3回、ロビー等の小展示3回)	15回 (部門展示5回、トピックコーナー6回、阿波の近世絵画2回、ロビー等での小展示2回)
		展示室内の改善・修繕の実施状況		・部門展示室(自然)の展示ケースの修繕 ・総合展示室内展示ケースの修繕	・総合展示室、部門展示室及び展示ケースの消耗品等の交換、調整	・部門展示室の扉の修繕検討 ・企画展示室ウォールケースの一部修繕
1-3	魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然250人/日 総合150人/日 人文100人/日	577人(ザ・モンスター:25,986人、45日) 128人(江戸幕府と徳島藩:4,095人、32日)	111人(阿波漁民ものがたり:4,328人、39日) 295人(ジャングルいきもの図鑑:15,338人、52日)	243人(ミネラルズ2019:8,740人、36日) 416人(とくしまの恐竜時代:18,710人、45日)
		観覧者の満足度	80%	89%(ザ・モンスター) 90%(江戸幕府と徳島藩)	95%(阿波漁民ものがたり) 91%(ジャングルいきもの図鑑)	94%(ミネラルズ2019) 94%(とくしまの恐竜時代)
		展示への注目度	5件/回	12(ザ・モンスター) 5(江戸幕府と徳島藩)	9(阿波漁民ものがたり) 7(ジャングルいきもの図鑑)	8(ミネラルズ2019) 22(とくしまの恐竜時代)
		企画展の検討状況		令和元年度以降の計画の協議	令和2年度以降の計画の協議	令和3年度以降の計画の協議
1-4	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	2回/年	2回 日本のアザラシと極地の動物たち、ふるさとのたからもの	2回 青蓮院十一面観音菩薩立像、ごっついで那賀川	4回 ヒロシマ原爆展、とくしまタイムトラベル、「板東俘虜収容所」の世界展、二品家政所下文
		特別陳列観覧者数	自然300人/日 総合200人/日 人文100人/日	336人(日本のアザラシと極地の動物たち:16,800人、50日) 111人(ふるさとのたからもの:2,887人、26日)	296人(青蓮院十一面観音菩薩立像:2,664人、9日) 161人(ごっついで那賀川:5,971人、37日)	318人(ヒロシマ原爆展:5,731人、18日) 205人(とくしまタイムトラベル:6,364人、31日) 89人(「板東俘虜収容所」の世界展:2,498人、28日) 44人(二品家政所下文:444人、10日)
		観覧者の満足度	80%/回	88%(アザラシ) 100%(たからもの)	93%(青蓮院十一面観音像) 96%(ごっついで那賀川)	97%(とくしまタイムトラベル)
		展示への注目度	5件/回	7(アザラシ) 9(たからもの)	4(青蓮院十一面観音像) 5(ごっついで那賀川)	11(ヒロシマ原爆展) 2(とくしまタイムトラベル) 3(「板東俘虜収容所」の世界) 2(二品家政所下文)
		特別陳列等の検討状況		令和元年度以降の計画の協議	令和2年度以降の計画の協議	令和3年度以降の計画の協議
1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	2回 鳥居龍蔵 日本人の起源に迫る、文化の森人権啓発展	2回 鳥居龍蔵と小金井良精、文化の森人権啓発展	2回 文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島をさぐる及び文化の森人権啓発展
		移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	0回	2回 徳島県戦没者記念館 レヴェタかつうら	2回 かつうら恐竜時代 あわぎん恐竜時代展
1-6	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録等2冊	企画展図録等1冊	企画展図録等1冊
		展示解説等の実施状況		企画展展示解説9回 企画展記念講演会1回 企画展関連行事2回 特別陳列展示解説(スライド&トーク含む)8回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー24回 常設展活用イベント4回 部門展展示解説11回	企画展展示解説6回 企画展記念講演会4回 企画展関連行事1回 特別陳列展示解説1回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー24回 常設展活用イベント4回 部門展展示解説11回	企画展展示解説8回 企画展関連行事2回 特別陳列展示解説5回 特別陳列関連行事2回 クイズラリー21回 常設展活用イベント5回 部門展展示解説9回 常設展見どころ解説2回 移動展展示解説1回
		展示解説シート等の配布・設置状況		—	—	部門展示室5件、トピックコーナー1件

1-7	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況	部門展示「祝 県立図書館100周年 本家源之丞座の資料」 トピックコーナー「高校生がつくった徳島藩家老の屋敷門」 「身のまわりの植物を楽しもう」 ロビー等での小展示「ジュニア学芸員講座」 「カメラやスマホで展示ブツを写してみよう88 自然編」 「中級クラス植物観察会活動紹介展」 「ちびっ子原始人写真コンテスト」	部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」 特別陳列「ごっついで那賀川」 ロビー等での小展示「ジュニア学芸員講座」開催報告	部門展示「文化の森の植物」「アゲハチョウと甲虫」 トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本」 企画展「ミネラルズ2019」 特別陳列「とくしまタイムトラベル」
-----	------------------	---------	--	---	---

●自己評価

(1-1) 常設展リニューアルの実施

- ・新常設展設計事業として、30年度の基本設計に引き続き、元年度は4月から10月の間、実施設計を行い、10月には実施設計図書が納品された。
- ・新常設展構築事業の入札、契約をし、3月には展示製作に係る検討を開始した。
- ・多彩な実物資料（モノ）の展示、実物資料の魅力の発信方法について、実施設計で検討した。実施設計の一環として、5月に新常設展計画を再点検するためのワークショップを実施し、実物資料（モノ）の魅力発信方法について検討した。このほか、新常設展での重要文化財等の展示に関する文化庁との協議、新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作を行った。また、新常設展で活用する予定のデジタルアーカイブの構築と資料撮影を行った。
- ・展示替えをしやすいフレキシブルな展示、施設になるよう、実施設計で検討した。新常設展での展示替えを意識した資料の収集を行った。
- ・誰もが利用しやすい展示、施設になるよう、実施設計で検討した。5月、6月に各1回ずつ「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップを実施し、多様な展示利用者を想定した検討を行った。
- ・映像やハンズオン等を用いた体験型の展示について、実施設計で検討した。実施設計の一環として、展示室での映像展示（AR・VR等）やポータブル端末の活用に向けて、インターネット環境の改善について検討した。また、新常設展での展示に向けた映像撮影、ハンズオングッズの検討を行った。
- ・新常設展に関する取材対応をし、マスコミにより報道された。ホームページ、フェイスブックを用いた案内等PRを行った。特別陳列「とくしまタイムトラベル」では、新常設展のプロモーション展示を行った。広報戦略策定に向けた研修会を実施した。2年度に開催予定の「蔵出し！とくしま“宝もの”展」、「徳島まるづかみ展」でのプロモーション展示について検討した。新常設展PRに向けた利用者ニーズ把握のため、5月には県民とともに新常設展を考えるワークショップを、11月にはアンケートによる来館者調査を実施した。

(1-2) 常設展の改善・充実

- ・常設展観覧者数は49,800人であり、29年度、30年度より増加している。
- ・元年度は常設展に関するアンケートを夏季（7月26日～9月1日）に実施した。リピーター率（過去1年以内の複数回利用者率）は、35%で、30年度の40%より下がっている。
- ・観覧者の満足度は、アンケートでの「とてもよい」、「よい」の回答率によった。99%と高評価を得ており、29年度、30年度と比べてもとくに満足度が高い。ただ、体験型展示、映像展示、動きのある展示を求める意見もあり、この点については、新常設展での対応を検討している。
- ・展示替え回数は15回で、30年度の16回とあまり変わらない。内訳は、部門展示5回（「文化の森の植物」、「アゲハチョウと甲虫」、「大嘗祭と阿波」、「博物館所蔵の刀剣」、「阿波晩茶の製造技術と製造用具」）、阿波の近世絵画2回（「武田信玄上杉謙信一騎打図」、「四季富士山図」）、トピックコーナー6回（「徳島県勝浦町から中四国初の獣脚類恐竜の骨化石などを発見」、「世界農業遺産を支えるモノ」、「新着資料紹介 戦争関係資料」、「奇怪！魚類の頭骨標本」、「徳島県勝浦町から産出した恐竜時代のカメ化石」、「タンポポはスゴイ」）、ロビー等での小展示2回（「写真で見る徳島の遺跡」、「写真で見る徳島の遺跡2」）である。
- ・展示室内の改善・修繕として、部門展示室の扉修繕の検討、企画展示室のウォールケースの一部修繕を行った。

(1-3) 魅力ある企画展の計画的開催

- ・元年度は企画展2回（「ミネラルズ2019」、「とくしまの恐竜時代」）を実施した。同じ地学分野による企画展だっ

72 中期活動目標と自己評価

たが、比較的年齢層の高い女性が多く来館した「ミネラルズ 2019」と、ファミリー層を中心に来館者を集めた「とくしまの恐竜時代」と、それぞれで主な観覧者層が異なり、多様な観覧者層にアプローチできたと評価できる。

- ・企画展の1日あたりの観覧者数は「ミネラルズ 2019」が243人（総観覧者数：8,740人、開催日数：36日）、「とくしまの恐竜時代」が416人（総観覧者数：18,710人、開催日数：45日）であった。「とくしまの恐竜時代」では目標値を達成したが、「ミネラルズ 2019」ではわずかに目標値にとどかなかった。
- ・観覧者の満足度は、「ミネラルズ 2019」、「とくしまの恐竜時代」でいずれも94%であり、目標値を上回った。各企画展とも、観覧者から高い評価を受けた展示だったと言える。
- ・企画展への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を取り上げている。「ミネラルズ 2019」で8件、「とくしまの恐竜時代」で22件であり、ともに目標値に達した。なお、過去3年の他の企画展と比較しても「とくしまの恐竜時代」の22件は突出した数字であり、マスコミの注目度が高かった。
- ・企画展開催計画については、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素をバランス良く取り入れた多様で計画的な運営を心掛けている。また、予算が少ない中で、外部資金の獲得や予算申請方法の工夫により、展示内容や広報の充実を図ることを検討し、実施している。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。

(1-4) 多様な展示の開催促進

- ・特別陳列等の開催回数は4回（「ヒロシマ原爆展」、「とくしまタイムトラベル」、「板東俘虜収容所」の世界展、「二品家政所下文」）で、目標値を上回った。
- ・特別陳列の1日あたりの観覧者数は、「ヒロシマ原爆展」318人（総観覧者数：5,731人、開催日数：18日）、「とくしまタイムトラベル」205人（総観覧者数：6,364人、開催日数：31日）、「板東俘虜収容所」の世界展」89人（総観覧者数：2,498人、開催日数：28日）、「二品家政所下文」44人（総観覧者数：444人、開催日数：10日）であった。「ヒロシマ原爆展」、「とくしまタイムトラベル」では目標値を上回ったが、「板東俘虜収容所」の世界展、「二品家政所下文」では、目標値にとどかなかった。「板東俘虜収容所」の世界展、「二品家政所下文」は年間でも観覧者が少ない冬期から年度末にかけて開催したこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が要因と考えられる。
- ・観覧者の満足度として、「とくしまタイムトラベル」では97%と高評価を得ており、満足度の高い展示であったと言える。
- ・特別陳列への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を取り上げている。「ヒロシマ原爆展」11件、「とくしまタイムトラベル」2件、「板東俘虜収容所」の世界展」3件、「二品家政所下文」2件であった。「ヒロシマ原爆展」は目標値を大幅に上回ったが、その他は目標値に達しなかった。

(1-5) 他機関との共同展示等の促進

- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により、企画展「文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る」を開催した。
- ・文化の森6館及び徳島県教育委員会人権教育課の共催により、「2019年度文化の森人権啓発展」を開催した。
- ・他機関との共同による移動展を2回（「かつうらの恐竜時代」、「あわぎん恐竜時代展」）実施し、目標値を達成した。「かつうらの恐竜時代」は、勝浦町が主催、「あわぎん恐竜時代」は、阿波銀行が主催し、いずれも当館が協力した移動展である。他機関との連携による展示は、当館単独では難しい分野、資料、地域、施設での展示を可能にし、新たな観覧者を得られるため、今後も継続できるよう努めていきたい。

(1-6) 展示解説等の推進

- ・企画展図録を1冊（「とくしまの恐竜時代」）発行した。
- ・常設展活用イベント5回（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森 大秋祭り！！」、「文化の森ウィンターフェスティバル」、「イベントボランティアかけ絵企画」）を行った。文化の森全体のイベント4件、当館単独のイベント1件を開催した。多くの観覧者を迎えた中で、常設展の有効な活用につながる魅力的なイベント内容を工夫している。
- ・企画展の展示解説を8回、特別陳列の展示解説を5回、部門展示の展示解説を9回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1回中止）、移動展の展示解説を1回行った。企画展関連行事を2回、特別陳列の関連行事を2回行った。
- ・手話通訳&要約筆記付き常設展見どころ解説を1回、視覚障がい者のための常設展見どころ解説を1回行った。
- ・子ども向け展示解説の一環として、クイズラリーを21回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回中止、台風接近のため1回中止）実施した。

(1-7) 県民などとの協働による展示の推進

・部門展示「文化の森の植物」、「アゲハチョウと甲虫」、トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本」、企画展「ミネラルズ 2019」、特別陳列「とくしまタイムトラベル」は、県民と協働で開催した。展示での県民との協働件数は5件だった。毎年新たな形で県民協働による展示を実施している。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	101回	96回	86回
	普及行事参加者数	5,000人/年	8,206人	7,250人	8,648人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	94.0% (16行事)	89.9% (19行事)	95.3% (7行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	5回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	38件	38件	27件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	5件	8件	13件
	館での授業件数		5件	5件	8件
	教員研修件数		5件	4件	5件
	職場体験件数		8件	10件	7件
	遠足件数		109件(学校105件、その他4件)	123件(学校101件、その他22件)	139件(学校89件、その他50件)
	学校の満足度	80%	98%	98%	99%
2-3 普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	40件/年	42件	30件	36件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4 県民との協働による普及行事等の推進	県民との協働による普及行事等の実施状況		8件(公募ボランティア4件、普及行事4件)	9件(公募ボランティア5件、普及行事3件)	10件(公募ボランティア4件、普及行事6件)
2-5 だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況				5件(インクルーシブワークショップ1件、普及行事2件、インバウンド向け対応1件、広報改善1件)

※2-2 遠足件数の(その他)は、学童保育等の利用件数である。

●自己評価

(2-1) 県民のニーズを反映した多様な催しの開催

- ・普及行事の実施回数は、30年度の96回から10回減り、86回であった。91回計画していたが、5回が新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため中止になったことは残念であった。参加者数は8,648人で、30年度の7,250人から1,400人ほど増えている。これは、人文・自然分野の行事ともに、その行事当たりの参加人数に大きな変化はないが、春・夏・秋・冬の4回行う「文化の森フェスティバル」の参加者数が、800人近く増えているためである(30年度4,802人、元年度5,565人)。また、企画展「ミネラルズ2019」「とくしまの恐竜時代」の観覧者数が多く、展示解説など関連行事に参加者が多かったことも要因である(30年度11行事549人、元年度10行事1,110人)。
- ・普及行事は、30年度と同じ13シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、生物に関する行事、屋外で実施する行事、バスツアー、古文書講座など歴史に関する行事には多数の申込みがある。
- ・普及行事への参加者の満足度は、7行事で行ったアンケート結果では、95.3%が満足していると回答しており好評であった。毎年参加のリピーターも多く、アンケートをもとに、県民のニーズを考えて内容等を工夫した成果が現れていると考える。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、海陽町立博物館での「海部自然・文化セミナー」が4回、阿波銀行での移動展における「とくしまの恐竜時代」展示解説が1回、計5回あった。目標値の5回を1回上回った。今後も、他館・機関と連携し、アウトリーチ活動も広げていきたい。
- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により「令和元年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生・高校生から研究レポートを公募、フォーラム(発表会)で口頭発表してもらうとともに、優れた成果を表彰した。応募は中学生5組、高校生6組、計11組、参加者は延べ76人であった。遠足等での来館が少ない中学校や高

74 中期活動目標と自己評価

等学校との連携も深めることができた。

(2-2) 学校教育支援事業の推進

- ・元年度の出前授業数は、27件で、30年度同様に目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が13件と多く、次いで吉野川市6件、阿南市の4件である。これらの3市が大半を占めているものの、県西部(2件)からの依頼もある。校種別では、小学校が23件(学童保育2件)、中学校が2件、高校が2件であった。高校の1件は、県西部ということもあり、テレビ会議という形で実施した。幼稚園・保育園についても広がりを目指したい。出前授業の内容では、小学校の「昔の道具とくらし」が圧倒的に多いが、「昆虫・水生生物」などもある。中学校でも「阿波藍」「戦争」に関するものもあったが、全体としては少ない。中学校や高等学校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、教員・生徒の満足度は99%で高い評価を得ている。
- ・資料の貸出件数は、30年度より5件多い13件であった。内訳は、「岩石・化石」(5件)、「戦争」(3件)、「昔の道具」(2件)などであった。
- ・館内での授業は8件(30年度5件)、教員研修は5件(30年度4件)であった。元年度で7回目となる教員研修として実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」は、参加者の好評を得ているが、博物館と学校の授業との関わりを提案することによって、より学校教育との連携が図られると考える。
- ・職場体験は、30年度より3件少ない7件であった。中学校6件、高等学校1件である。職場体験を通じて、出前授業での需要は少ない中学校や高等学校との連携が図られているといえる。
- ・元年度の遠足は139件(学校教育課程89件、学童保育等50件)であり、30年度の123件(学校教育課程101件、学童保育等22件)より増えている。内訳でみると、学校教育課程での利用は12件減り、土曜・日曜や長期休業中での学童保育やその他教育支援施設の利用は、28件と大幅に増加している。校種別では、小学校が63件、未就学(幼稚園・こども園等)が22件となっている。中学校・高校は少数である。
- ・高校生以下を対象に毎月2回実施しているクイズラリー参加者は、2,299人であり、30年度の1,637人から大きく増えた。中でも、未就学児(0~6歳)は30年度790人から1,087人と大きく増え、高校生も30年度26人から54人と倍増した。年度当初に幼稚園・保育園にチラシを配るなど、広報する校種(対象年齢)を絞ったことに要因があると考えられる。
- ・その他、近年の傾向として、デイサービスセンター(児童・高齢者等)や障がい者支援施設の利用者、インバウンド等の団体での入館件数が増えている。

(2-3) 普及的記事の執筆推進

- ・普及的記事の執筆数は、33件であった。
- ・博物館ニュースの発行は、例年通り4件であった。

(2-4) 県民との協働による普及行事等などの推進

- ・イベントボランティアを公募し、「かげ絵」(参加者:142人)、「科学体験フェスティバル in 徳島」(参加者:930人)、「あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」」(参加者:705人)、「文化の森ウィンターフェスティバル」(参加者:1,010人)においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
- ・普及行事等のうち、「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップ(2回)、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ(公募)」(1回)、「みどりを楽しもう・味わおう」(2回)、「ミュージアムトーク「ゼロから始める植物学」」(5回)、「野外生きものかんさつ」(10回)、「企画展関連行事「ミネラルズ2019」展示解説」(1回)の6件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。
- ・29年度から本格的に始まったみどりのサポート隊と協働で、シリーズ「みどりを楽しもう・味わおう」の普及行事を実施している。行事内容の新しいアイデアが考案されるなど、普及行事がより充実したものになってきた。普及行事の参加者に喜んでもらえるなど、成果が上がっている。

(2-5) だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み

- ・様々な立場の人が参加しやすい普及行事のあり方を目指し、5件の取り組みを行った。まず、リードユーザーの県民や専門家等と共に、「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップを実施し、多様な利用者を想定した検討を行った(1件)。次に、「手話通訳&要約筆記付き常設展見どころ解説」と「視覚障がい者のための常設展見どころ解説」を行った(2件)。これらのことを通じて、誰もが参加しやすい展示解説を模索している。また、団体で来館した外国人観光客などインバウンド対応についても、展示案内や方法の工夫を進めて

いる（1件）。さらに、一部の普及行事ではファクシミリでの受付を行うなど、普及行事の広報改善にも取り組んでいる（1件）。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査等実施状況	2件/年	1件（外部との共同1）	1件（外部との共同1）	2件（外部との共同1）
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	21件/年	21件/年	20件/年
	共同研究プロジェクト件数	3件/年	7件/年	6件/年	10件/年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2件/年	3件/年	4件/年	4件/年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件/年	申請4・採択3（継続4）	申請1・採択0（継続7）	申請2・採択0（継続7）
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請0・採択0・継続1	申請0・採択0・継続1	申請0・継続0
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24本/年 （査読付き4本/年）	23本 （査読付き5）	23本 （査読付き6）	28本 （査読付き7）
	学会・研究会での発表件数	24件/年	18件/年	14件/年	12件/年
	マスコミへの資料提供件数	3件/年	1件/年	3件/年	8件/年

●自己評価

(3-1) 調査研究活動の推進

- ・課題調査として「金属製考古資料の発錆に関する調査」を実施した。
- ・30年度に課題調査として実施した「日本最古級恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）緊急発掘調査事業」を、新たに「日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト」として拡充のうえ実施した。予算的な規模が大きくなったため、別事業として扱うことにした。実施件数は、課題調査に繰り入れることにする。
- ・課題調査等の合計件数は2件であり、目標値に達した。
- ・各学芸員が個別調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員などによる館内公表会（セミナー）を2回実施した。

(3-2) 外部研究機関等との連携の推進

- ・元年度は他機関等の研究者との共同研究数については、20件で目標値を達成した。
- ・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことを指す。日本学術振興会科学研究費補助金等による「近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究」、「民俗展示の多言語化のための基礎的研究—東アジアの水産資源を素材として—」、「地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化—」、「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から—」、「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」の他に、「タンポポ調査・西日本2020」、「勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査」、「若杉山遺跡出土品に関する調査」、「藩撰地誌「阿波志」に関する調査」、「阿波晩茶の製造技術に関する調査」、「地域における歴史文化研究拠点の構築」、「犬伏家住宅の民具（製薬用具等）に関する調査」がこれにあたり、目標値を達成した。

(3-3) 県民参画型調査研究の推進

- ・元年度の県民参画型調査については、合計4件で目標値を達成した。「タンポポの分布調査」、「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト」が実施された。

(3-4) 外部資金の獲得による調査研究事業の推進

- ・日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）の元年度の申請を2件（研究代表者）行った（30年11月申請）。
- ・元年度は、科研費等の公的研究助成金の申請が2件、採択が0件で、申請数、採択数とも目標値に達しなかった。

76 中期活動目標と自己評価

なお、科研費研究代表者として1件（「近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究」、科研費研究分担者として5件（「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究」、「民俗展示の多言語化のための基礎的研究—東アジアの水産資源を素材として」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化」、「ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から」の研究を一部継続して行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの拡がりがかがえる。一方、研究代表者としての申請は少なく、積極的な努力が必要である。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。

- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。
- ・元年度の民間の研究助成金への申請はなかった。

(3-5) 調査研究成果の公表

- ・学術論文数は28本、うち査読付き論文は7本であった。学術論文数、査読付き論文数は、ともに目標値に達した。
- ・学会・研究会での発表は12件で、目標値に達しなかった。令和2年2月以降に蔓延した新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止や延期になった学会・研究会が多く、その影響があった。
- ・マスコミへの資料提供は、「徳島県勝浦町において新たに発見された竜脚類恐竜の歯とワニの椎体と国内最古級恐竜化石発掘調査プロジェクト クラウドファンディングについて」と、「第3回勝浦町恐竜発掘活性化協議会の開催について」、「勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査について」、「勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査（後方支援施設での小割作業）の開始について」、「勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査で発見された肉食恐竜（獣脚類）の歯化石について」、「徳島県勝浦町から発見された日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石について」、「徳島の恐竜化石シンポジウム 徳島の恐竜化石をもっと発掘！さらに推進！—徳島恐竜化石最前線— 開催について」、「第4回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について」の8件であり、目標値を大幅に超えた。これらはすべて、「日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト」関連である。今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
収集					
4-1 継続的な資料の収集	収蔵資料点数	R5年度末で550,000点	527,566	530,726	544,248
	新規資料増加点数	4,000点	3,618	3,160	13,522
	採集資料件数	20件/年	10	11	17
	購入資料件数	3件/年	4	5	6
	寄贈資料件数	100件/年	64	55	66
4-2 寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		79	85	78
	新規寄託件数	3件/年	7	6	3
4-3 文献資料の充実	図書冊数		14,055	14,162	14,330
	新規受入図書冊数	140冊	114	107	168
	寄贈図書冊数	40冊	13	27	65
	購入図書冊数	100冊	101	80	103
	購入雑誌タイトル数		33	33	33
保存					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	50.0%	49.9%	49.2%
4-5 資料の安全な保存	燻蒸の実施	3回/年	3回 (燻蒸庫3)	3回 (燻蒸庫2+全室1)	3回 (燻蒸庫3)
	収蔵庫点検	12回/年	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回
	展示室点検	12回/年	11回	12回	12回
	企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査				パッシブインジケーターなどによる空気環境調査を実施
	新たな防虫・防菌対策の検討				二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施
4-6 収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等				他館の収蔵庫の状況を調査

活用						
4-7	展覧における利用促進	展示利用点数		1,076	4,879	2,268
		常設展での利用点数		493	663	274
		常設展以外の展示での利用点数		583	4,212	1,994
4-8	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	59	61	94
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など				特別陳列「とくしまタイムトラベル」などの展示で情報発信

●自己評価

(4-1) 継続的な資料の収集

- ・ 収蔵資料点数は、平成30年度末時点で530,726点であったのが、令和元年度に544,248点となった（元年度末時点）。
- ・ 新規資料点数は、13,522点で、目標値の4,000点/年を上回った。新規資料のうち特に多かったのが、動物分野（無脊椎動物）の約1万点であった。
- ・ 採集資料件数は17件・寄贈資料件数は66件で、いずれも目標値を下回った。
- ・ 元年度は地学分野で2件（2点）、歴史分野で4件（52点）、計6件（54点）の資料購入があった。いずれも1点あたりの購入金額が100万円未満のため、資料収集委員会は開催されなかった。

(4-2) 寄託資料の受け入れの促進

- ・ 新規寄託は3件で、目標値の3件/年を達成した。

(4-3) 文献資料の充実

- ・ 図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・ 図書冊数は、14,330冊で、30年度から168冊増加した。
- ・ 購入雑誌タイトル数は、33タイトルであった。

(4-4) 収蔵資料データベースの整備

- ・ 収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。18年度から増加しはじめ、19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移した。29年度に登録率が50.0%となり、いったん目標値に達したものの、30年度に登録率は49.9%であった。元年度は登録点数が268,012点、登録率が49.2%となり、目標値を下回った。

(4-5) 資料の安全な保存

- ・ 元年度は、燻蒸庫燻蒸を3回実施した。
- ・ 25年1月から、収蔵庫の定期点検を実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。元年度は自然課で12回、人文課で12回の点検を行い、目標値に達した。
- ・ 28年6月から、学芸員の交替で月に1回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行っている。元年度は12回の点検を行い、目標値に達した。
- ・ 30年度に引き続き、元年度も生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫および企画展示室で、パッシブインジケータや検知管による空気環境調査を行った。
- ・ 外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。
- ・ 開館からおよそ30年が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでおり、定期点検や修繕が必要になっている。30年度に引き続き、元年度も燻蒸庫の活性炭交換を行った。また、温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。
- ・ 文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、26年度以降、検査範囲に常設展示室も加えている。元年度も引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

(4-6) 収蔵スペースの確保

- ・ 資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。

78 中期活動目標と自己評価

資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

(4-7) 展覧における利用促進

・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示利用点数（館蔵資料と寄託資料の合計）を記録している。元年度の利用点数は2,268点（うち館蔵資料2,245点、寄託資料23点）であった。そのうち常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において274点（うち館蔵資料260点、寄託資料14点）、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、展示パッケージの貸出、移動展）において1,994点（うち館蔵資料1,985点、寄託資料9点）の資料を利用した。展示利用点数は、30年度に比して大幅に減少した。これは、30年度に館蔵資料を多数出品した企画展（ジャングルいきもの図鑑など）を開催したことによる。

(4-8) 貸し出し等の促進

・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用（収蔵資料の閲覧・貸出・模写・複製・撮影・出版物掲載など）等件数を設けている。これは、他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては〔Ⅱ普及教育〕を参照）。元年度は94件で、目標値を上回った。なお、94件のうち、資料の貸し出しは20件、写真・映像の提供は33件であった。その他、外部から依頼を受ける資料調査にも数多く対応している。

(4-9) 資料収集保存活動に対する理解の促進

・資料収集保存活動に対する理解を促進するため、様々な取り組みを行っている。元年度は、トピックコーナーで、発掘調査や購入などによる新着資料の紹介を行った。また、特別陳列「とくしまタイムトラベル」では、旧館時代に収集し、現在では入手困難となっている貴重資料の保存実績や、毎月実施している展示室・収蔵庫の環境調査、新着資料の燻蒸作業などについて紹介した。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供しよう努めます。	資料提供件数	30件/年	27件	29件	34件
		マスコミ取材報道件数	100件/年	92件	103件	99件
		マスコミ出演等件数	15件/年	18件	18件	21件
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
		広報関係出版物発送状況				
		年間催し物案内発送件数（発送回数）	600件（1回）/年	626件（1回）	625件（1回）	785件（1回）
		月間催し物案内発送件数（発送回数）	各80件（12回）/年	各87件（12回）	各85件（12回）	各81件（12回）
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	9,000,000件/年	9,860,615件	10,645,850件	12,337,362件
		HPの新規および更新したページ数	70ページ/年	75ページ/年	439ページ/年	697ページ/年
		HPの内容の更新頻度	月3回以上	3.3回/月	2.4回/月	2.1回/月
5-4 SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	80回/年	81回	54回	60回
5-5 だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	こどもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応				・企画展専用サイト等で実施
		HPの多言語対応				・新常設展設計事業と連動して検討
		HPの見やすさや色の検討				・新常設展設計事業と連動して検討
		デジタルアーカイブ				・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施
5-6 常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況				5件（FB4、HP1）

●自己評価

(5-1) マスコミへの資料提供等の推進

- ・資料提供件数は34件で、30年度より5件増加し、目標値を上回った。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、引き続き積極的な資料提供が必要である。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞・雑誌によって取材・報道された件数である。元年度は99件で、30年度より4件減少したが、「国内最古級恐竜化石発掘調査プロジェクト」のクラウドファンディングや「とくしまの恐竜時代」など注目度の高い話題が多かった。
- ・マスコミ出演等件数は21件で、30年度より3件増えた。15件が「勝浦の恐竜化石」や「とくしまの恐竜時代」に関するものである。

(5-2) 広報活動の強化

- ・広報手段の新規開拓状況としては、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定・拡充した。また、勝浦町で開催した移動展「かつうらの恐竜時代」において図録等の出版物を配布した。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、小学校で県内の全児童に配布するなど学校を中心に配布したほか、元年度は幼稚園や保育園などにも配った。そのため、発送件数が30年度より160件増加している。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間・月間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童・生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。

(5-3) インターネットによる情報発信の推進

- ・インターネットによる情報発信においては、元年度は1年間でホームページに約1,200万件のアクセスがあった。30年度の約1,064万件より約136万件増加し、目標値の900万件を上回った。
- ・新規コンテンツ数は697ページ/年で、目標値70ページ/年を大幅に上回った。新規コンテンツ数が増えた理由は、企画展やボランティア活動などの情報を積極的に発信したことに加え、「国内最古級恐竜化石発掘調査プロジェクト」クラウドファンディングや企画展「とくしまの恐竜時代」、新たな化石発見のプレスリリースなど、恐竜化石関連のページを多数作成したことによる。
- ・内容の更新頻度は2.1回/月(26回/年)で、30年度より減少し、目標値の3回/月以上も下回った。

(5-4) SNSによる情報発信

- ・元年度はFacebookページの更新回数が60回で目標値に達しなかった。積極的に活用すべき情報発信ツールであるため、今後はより一層の活用を努めていきたい。

(5-5) だれもが情報にアクセスできるホームページづくり

- ・HPのスマートフォン等への対応は、企画展「とくしまの恐竜時代」、特別陳列「とくしまタイムトラベル」の専用HPで実施した。
- ・多言語、文字の大きさや配色、読み上げツールなどの対応については、新常設展の実設計画業務と合わせて検討した。
- ・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業により、50点の館蔵資料を撮影した。デジタルデータを2年度に「徳島県立博物館デジタルアーカイブ」サイトにて公開する予定である。

(5-6) 常設展のリニューアルに関する情報発信

- ・Facebookにて4件、特別陳列「とくしまタイムトラベル」の専用HPにて(1件)発信した。今後、新常設展設計事業がより具体化されていくことから、進捗状況について随時発信できるよう努めていきたい。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	250人/年	190人	217人	262人
	個人会員		58人	54人	48人
	家族会員・家族数		132人・34組	163人・43組	214人・58組

80 中期活動目標と自己評価

6-1	友の会活動の充実と活性化	会員の継続率	前年度会員の70%	59%	76%	70%
		個人会員		63%	76%	79%
		家族会員		54%	76%	62%
		友の会行事実施回数・参加者数	6回/年	6回・79人	6回・119人	6回・147人
		展示利用率	50%	59% (54%)	55% (45%)	65% (39%)
		個人会員		53% (52%)	50% (41%)	58% (17%)
		家族会員		68% (59%)	60% (51%)	71% (57%)
		延べ利用者数		305人 (199人)	216人 (123人)	334人 (126人)
		個人会員		126人 (96人)	79人 (47人)	104人 (34人)
		家族会員		179人 (103人)	137人 (76人)	230人 (92人)
		会報の発行回数	2回/年	2回	2回	2回
6-2	公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		イベントボランティア30人	イベントボランティア47人	合計92人 (イベントボランティア46人、みどりのサポート隊46人)
		公募ボランティア活動回数 (全体会・班会合、イベント)		合計25回 イベントボランティア会合21回	合計31回 イベントボランティア会合26回	合計41回 会合37回 (イベントボランティア27回・みどりのサポート隊10回)
		企画運営型行事等件数		イベント4回 5件 (5/5、8/4-5、8/19、11/4、2/11)	イベント5回 3件 (8/4-5、11/4、2/11)	イベント4回 4件 (5/4、8/3-4、11/4、2/11)
		県民などとの協働による展示の実施状況		部門展示1件、トピックコーナー1件	部門展示1件、トピックコーナー1件、特別陳列1件	部門展示2件、トピックコーナー1件、企画展示1件、特別陳列1件、常設展更新に向けたワークショップ2件
6-3	各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		2件/年	3件/年	4件/年
		県民参画型調査の件数		2件/年	3件/年	4件/年
		県民との協働による普及行事等の実施状況		9件 (公募ボランティア4件、普及行事4件、みどりのサポート隊1件)	22件 (県民ワークショップ2件、公募ボランティア5件、普及行事15件)	9件 (公募ボランティア4件、普及行事5件)

※6-1の展示利用率及び延べ利用者数における()内の数値は、有料観覧者の割合及び人数

●自己評価

(6-1) 友の会活動の充実と活性化

- ・友の会会員数は、平成30年度は217人、令和元年度は262人で、45人の増加である。内訳は、個人会員が54人から48人で6人の減少、家族会員が163人(43組)から214人(58組)で51人(15組)の増加となっている。ここ数年会員数が減少していたが、家族会員の増加により、回復が見受けられた。勧誘ポスターを作成し館内に掲示したことが、会員増加の要因と考えられる。今後も継続して、勧誘ポスターの掲示やチラシの配布を行い、PRに努める。また、博物館掲示板等やインターネットを利用した情報発信も、引き続き行っていく。
- ・会員の継続率は、30年度が76%、元年度が70%と、2年連続で目標値を上回った。今後も引き続き、新規会員を募集する働きかけの強化や、会員が魅力を感じる会の運営を図っていく。
- ・友の会行事の実施回数は6回で、参加者数は147人であった。行事参加人数も近年の減少傾向からの回復が見受けられた。今後も引き続き、会員の満足度向上をめざした行事の工夫を図っていく。
- ・展示利用率は、30年度は55%であったが、元年度は65%となり目標値を上回った。今後も、会員が博物館に足を運びたくなるような、広報の工夫が求められる。

(6-2) 公募ボランティアの協働推進

- ・17年度から公募しているイベントボランティアは、30年度から継続した16人に加えて、新規登録の30人が加わり、合計46人が参加した。そのうち高校生が33人と大半を占めていたのが特徴で、ボランティア活動の場として博物館を選択した生徒が多かったと考えられる。
- ・毎年2月11日に開催しているボランティア企画イベント「博物館Vキング」に向けて、3グループに分かれて、年間27回の会合を開催した。「博物館Vキング」では、「博物館で楽しいハンドクラフト」、「紙工作いろいろ」、「かげ絵と絵本の読み聞かせ」の3つのブースを出展し、イベント参加者数は1,264人であった。
- ・また、博物館資料や博物館の活動を紹介するとともに他団体の活動を学ぶため、博物館外で実施されたイベントにも参加した。徳島大学で開催された「第23回科学体験フェスティバル in 徳島」では、「暗やみで光る!? 博物館資料のレプリカを作ろう!!」を2日間(8月3・4日)にわたりボランティア延べ33人と協働で出展した。また、あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」(11月4日)では、「恐竜の骨格模型組み立て」

をボランティア7人と協働で出展した。

- ・29年度より、植物分野の普及行事を考案する「みどりのサポート隊」を公募している。元年度は46人が登録し、10回の会合を行った。

(6-3) 各種事業での県民協働の推進

- ・部門展示「文化の森の植物～植物相の移り変わり～」、「アゲハチョウと甲虫—愛好家たちのコレクション—」、トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本～河野コレクションより～」、企画展示「ミネラルズ2019」、特別陳列「とくしまタイムトラベル—過去・現在・未来—」の5件の展示を県民と協働で開催した。また、新常設展設計事業の一環として、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を1回、「インクルーシブデザイン×徳島県立博物館」ワークショップを2回実施した。
- ・普及行事として、「企画展展示解説」、「ミュージアムトーク」、「野外生きものかんさつ」、「みどりを楽しもう・味わおう」、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を県民と協働で実施した。また、公募ボランティアと協働で「イベントボランティアかげ絵企画」・「博物館Vキング」を開催するとともに、「科学体験フェスティバル in 徳島」、「おもしろ博士の実験室」といった館外のイベントへ出展した。
- ・「タンポポ調査・西日本2020」、「日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト」、「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」の4件の県民共同参画型調査を実施した。

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	544	625	571
	周知状況		HPへの記載	HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		26	35	35
	講演会等の受講者数		(1,325)	(1,320)	(1,162)
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		31	28	29
	機関・団体等への協力状況		0	0	0
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		5	4	4
	学生・院生指導人数		0	0	0
	博物館実習生受入人数		10 (5大学)	13 (8大学)	16 (8大学)
	学芸員養成科目受講者数		128	70	59
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		19	3	1
	学会等役員受託数		16	15	15
	学会等事務局受託数		7	5	3
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数		8	8	8
	博物館関連団体加入数		6	6	6
	連携事業等の実施数		15	18	19
			移動展0回、四国地区博物館協議会及び徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

(7-1) レファレンス利用者の拡大

- ・レファレンス件数は571件で30年度から54件減少したが、目標値500件は上回った。分野別の件数では、元年度は動物（昆虫）と地学が同数で最も多く、ともに129件、次いで歴史78件であった。
- ・レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2) 講師派遣等の推進

- ・元年度の講師派遣は35件で、30年度と同数だった。2月中旬より、新型コロナウイルス感染症拡大防止により取りやめになった件もあるので、予定では30年度を上回っていたと見られる。分野別にみると、歴史が15件で最も多かった。

82 中期活動目標と自己評価

・派遣先の受講者数は、29件において概数が記録されており、1,162人であった。

(7-3) 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供

- ・各種委員会等の委員等受託数は29件で、30年度から1件増加した。これらのうち12件は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるものであり、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。
- ・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

(7-4) 大学教育への寄与

- ・元年度の大学における非常勤講師の受託数は3件で、30年度より1件減少した。
- ・元年度の博物館実習生の受入人数は16人で、30年度に比べて3人増加した。
- ・元年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- ・県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」、「博物館展示論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。元年度は、延べ59人を指導した。開講予定だった「博物館教育論」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休講した。

(7-5) 学会・研究会の運営への寄与

- ・元年度の学会や研究会の当館及び文化の森の施設における開催数は1回で、30年度に比べて2回減少した。
- ・学会等役員受託数は17件で、30年度より2件増加した。
- ・学会等の事務局受託数は3件で、30年度より2件減少した。

(7-6) 博物館施設の連携強化への貢献

- ・博物館関連団体の委員等受託数は8件で、30年度と同じだった。
- ・博物館関連団体加入数は6件で、30年度と同じである。これらのうち2件は当館が事務局を引き受けている。
- ・他館等との連携事業数は19件で、30年度より1件増加した。元年度は移動展を2回開催した。また、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会及び研修会を実施したほか、県内の博物館との連携事業を行った。

(8) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	29年度実績	30年度実績	元年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示点検・修繕および改善	常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計	常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計、製作着手
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「ザ・モンスター」 20% 「江戸幕府と徳島藩」10%	「阿波漁民ものがたり」8% 「ジャングルいきもの図鑑」13%	「ミネラルズ2019」 10% 「とくしまの恐竜時代」 14%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		2件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊）	3件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊、恐竜化石発掘調査）	3件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊、恐竜化石発掘調査）
8-4 設置者による理解および外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 30,787千円	2月補正後 91,683千円	2月補正後 80,100千円
	外部資金獲得数		申請6、採択5、継続5	申請3、採択1、継続8	申請3、採択2、継続7 クラウドファンディング1
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 1月26日	自衛消防隊の防火防災訓練 1月26日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月11日
	危機管理体制の整備状況		植物・地学研究室書棚固定	分析室書棚固定	事務室等書棚固定
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		文化庁等の研修 日本博物館協会全国博物館大会	文化庁等の研修 日本博物館協会全国博物館大会	文化庁等の研修 ICOM京都大会、日本博物館協会全国博物館大会
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第3期中期活動目標の運用	第3期中期活動目標の運用 第4期中期活動目標の検討	第4期中期活動目標の策定・運用
	自己点検評価の状況		28年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	29年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	30年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月29日	博物館協議会 9月13日	博物館協議会 9月26日

●自己評価

(8-1) 利用しやすい博物館をめざす施設の改善

- ・展示室の点検を日常的に行い、修繕及び改善に努め、より多くの人たちが利用しやすい施設づくりに努めた。
- ・常設展リニューアルに向けての設計を行い、利用しやすい展示室へと抜本的に改装するための検討に取り組んだ。また、展示製作に着手した。

(8-2) 博物館認知度の向上と利用者層の拡大

- ・元年度も企画展で観覧者へのアンケートを行った。アンケート結果によれば、80～90%が県内在住者であった。県外の利用者の割合は、春季企画展「ミネラルズ」で10%、夏季企画展「とくしまの恐竜時代」で14%、特別陳列「とくしまタイムトラベル」で3%であった。
- ・文化の森の他館と連携して、イベントや展示等の広報の強化に努めた。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。元年度は19件であった。
- ・25年度から始めた講座室の有料貸し出しについては、元年度は3件であった。

(8-3) 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「科学体験フェスティバル in 徳島」(徳島大学)「おもしろ博士の実験室」(あすたむらんど徳島)に出展したほか、「文化の森ウィンターフェスティバル」におけるイベント「博物館Vキング」を実施した。
- ・様々な連携による事業展開は、運営基盤の強化につながる取り組みであり、意義があった。

(8-4) 設置者による理解および外部資金の獲得

- ・外部資金は、日本学術振興会科学研究費補助金等公的な研究助成を1件申請し、新規採択0件、継続7件であった。また、展示・普及教育等に関する公的助成、民間助成を各1件申請し、いずれも採択された。
- ・「日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト」に係るクラウドファンディングを行った。当館としては、初めての取り組みであった。

(8-5) 防災意識の向上と危機管理体制の強化

- ・自衛消防隊の防災訓練を3月に行った。
- ・地震対策として事務室等の書棚の固定を行った。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

(8-6) 職員の意識改革と資質向上

- ・文化庁や日本博物館協会などが開催した研修会等に、職員14人を派遣した。

(8-7) 博物館評価システムの構築

- ・26年9月に策定した第3期中期活動目標にもとづいて、30年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた(外部評価)。
- ・第3期中期活動目標が30年度をもって終了したことから、第4期目標案をまとめた。博物館協議会で承認され、運用を開始した(令和元～5年度)。

X 観覧者等統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計にはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

●令和元年度 常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者														観覧者総数					
		個 人		団 体 (割引20%)		有料観覧者計	学 校 教 育					個 人					無料観覧者計										
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般		高校・大学生	小・中学生	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生		障がい者	高齢者	その他							
4月	26	435	6	9	165	0	2	617	1	4	2	25	0	0	0	0	0	3	29	476	38	36	76	337	1,112	2,104	2,721
5月	27	271	7	0	135	5	1	419	2	86	25	1,510	0	0	0	0	0	27	1,596	981	57	43	66	390	3,257	6,390	6,809
6月	26	456	8	3	158	24	0	649	0	0	4	55	0	0	0	0	4	55	267	30	28	56	139	477	1,052	1,701	
7月	26	315	6	3	133	1	1	459	2	134	8	108	0	0	1	10	11	252	1,204	79	33	66	500	3,288	5,422	5,881	
8月	27	-	-	-	-	-	-	-	4	109	19	367	0	0	0	0	23	476	2,439	137	93	68	928	7,794	11,935	11,935	
9月	25	512	18	3	228	1	0	762	1	87	9	332	0	0	1	6	11	425	680	40	24	71	268	2,003	3,511	4,273	
10月	26	354	9	2	173	103	0	641	4	451	20	1,103	0	0	1	7	25	1,561	239	19	7	43	310	784	2,963	3,604	
11月	26	111	5	0	49	0	0	165	2	71	9	528	0	0	0	0	11	599	472	55	25	62	354	1,981	3,548	3,713	
12月	24	318	13	1	222	1	1	556	1	22	4	141	0	0	0	0	5	163	175	15	15	51	213	314	946	1,502	
1月	23	530	17	0	304	0	0	851	3	115	4	120	0	0	0	0	7	235	318	45	58	89	361	702	1,808	2,659	
2月	25	483	25	3	201	1	0	713	2	16	3	22	0	0	2	54	7	92	580	21	15	107	359	1,779	2,953	3,666	
3月	26	313	17	32	128	4	16	510	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163	27	16	31	183	406	826	1,336		
計	307	4,098	131	56	1,896	140	21	6,342	22	1,095	107	4,311	0	0	5	77	134	5,483	7,994	563	393	786	4,342	23,897	43,458	49,800	

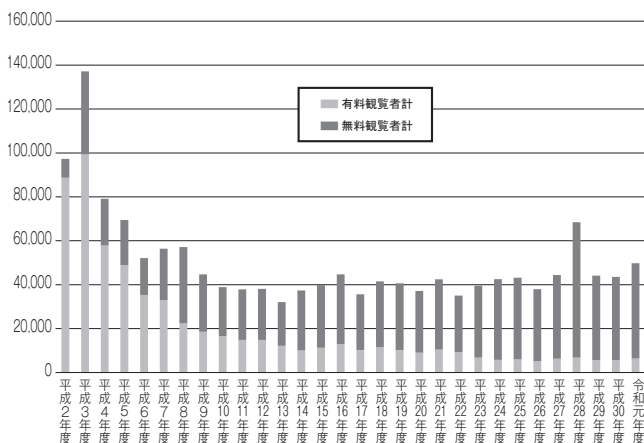
※7月20日(土)～9月8日(日)は、「家族でおでかけ・節電キャンペーン」により無料。
 ※8月15日(木)は台風10号接近による臨時休館、10月12日(土)は台風19号接近による臨時休館。

●令和元年度 企画展観覧者数

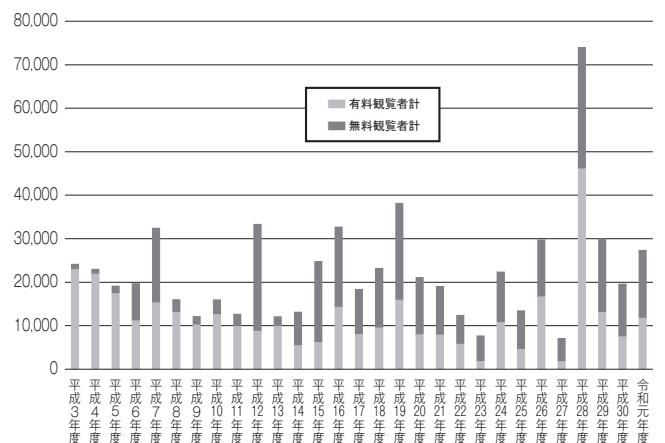
(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有 料 観 覧 者						無 料 観 覧 者														観覧者総数				
			個 人		団 体 (割引20%)		減免(割引50%) 有料観覧者計	学 校 教 育					個 人					無料観覧者計									
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般		高校・大学生	小・中学生	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生		障がい者	その他							
第1回企画展 「ミネラルズ2019」	H31.4.24 R2.6.2	36	2,048	69	23	1,006	14	0	649	3,809	3	90	25	1,523	0	0	0	0	28	1,613	1,599	112	108	225	1,274	4,931	8,740
第2回企画展 「とくしまの恐竜時代」	R2.7.19 R2.9.8	45	4,424	38	4	2,222	10	0	1,290	7,988	6	243	30	508	0	0	3	171	39	922	4,246	246	155	502	4,651	10,722	18,710
合 計		81	6,472	107	27	3,228	24	0	1,939	11,797	9	333	55	2,031	0	0	3	171	67	2,535	5,845	358	263	727	5,925	15,653	27,450

●常設展観覧者数 (平成2～令和元年度)



企画展観覧者数 (平成2～令和元年度)



●企画展観覧者数累計 (平成3～令和元年度)

(単位:人)

Table with columns for year, name, opening period, opening days, individual visitors, family visitors (50% discount), no discount, no fee, and total visitor count. Rows list various exhibitions from 1991 to 2019, including art, nature, and historical displays.

※平成14年度から小・中学生及び高校生の土・日曜日、祝・休日、長期休業日における観覧料が無料となり、学校教育による観覧料も無料となった。これに伴い、無料観覧者の計数基準が変更されている。
※平成24年9月から障がい者とその介助者1人の観覧料が無料となった。

●特別陳列観覧者数累計（平成4～令和元年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
第1回館蔵品展	平 5. 2.16～ 3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平 6. 2. 1～ 2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平 7. 1.13～ 2. 5	21	3,165
第2回収蔵品展	平 8. 2.16～ 3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11. 7.17～ 8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12. 5～12.24	18	1,850
勝瑞時代～細川・三好氏と阿波～	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 ～在日コリアンの労働史～	平14. 6.25～ 7. 7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15. 1.21～ 3. 2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて ～知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道～	平15. 7.19～ 7.27	8	1,317
日本刀の美 ～赤羽刀とその他の館蔵品～	平16. 1.27～ 3. 7	35	8,698
収蔵品展	平16. 6.18～ 7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18. 1. 8～ 1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18. 2.18～ 3.19	26	3,848
旅と祈りの道～阿波の巡礼～	平19. 1.19～ 3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20. 1.17～ 3. 2	40	5,168
空から見た徳島	平21. 1.27～ 3.15	42	7,517
蝶に魅せられて ～愛好家たちのコレクション～	平21. 7.18～ 8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21. 9.19～10. 4	14	1,886
マンダラ ～チベット・ネパールの仏たち～	平21.12.12～平22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22. 7.17～ 9. 5	44	10,364
博物館の宝もの	平23. 7.15～ 9. 4	46	15,336
海からどんぶらこ～浜辺の漂着物～	平24. 4.27～ 6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平24. 9.25～10. 3	8	702
みんなの化石コレクション	平25.10.18～12. 1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平26. 3. 7～ 3.19	11	1,537
シエルズ	平27. 7.18～ 8.30	38	12,963
古代の彩り 徳島の朱	平28.12. 3～12.25	20	2,167
日本のアザラシと極地の動物たち	平29. 4.15～ 6.11	50	16,800
よみがえる、ふるさとの“たからもの” ～大津波被災文化財の再生から未来へ～	平29.12.16～平30.1.21	26	2,887
県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩立像	平30. 9.21～ 9.30	9	2,664
ごっついで那賀川 ～博物館資料で見る那賀川流域の自然 とくらし～	平30.10.13～11.18	37	5,971
ヒロシマ原爆展	令元. 7.10～ 7.30	18	5,731
博物館60周年記念展 とくしまタイムトラベル～過去・現在・未来～	令元.10. 5～11.10	31	6,364
「板東俘虜収容所」の世界展	令元.12.12～令2.1.19	28	2,498
八杵神社所蔵重要文化財 二品家政所下文～地域で伝えた文化財～	令 2. 3.26～ 4. 5	10	444
合計		1,038	235,169

●移動展観覧者数（平成14～令和元年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
昆虫の世界（海南町立博物館）	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展～江戸から昭和まで～（藍住町歴史館藍の館）	平16.12. 2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平17. 8. 3～ 8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平17. 8.19～ 9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平18. 2. 4～ 3. 5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平18. 7.22～ 8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平19. 4.26～ 5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平19. 6. 5～ 7.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平19. 8. 2～ 8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自然の博物館）	平20. 5. 3～ 5. 5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平20. 7.19～ 8.31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平20. 7.19～ 9. 7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平20. 9.25～11. 9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界（藍の館）	平21. 4. 4～ 4.29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平21. 7.18～ 8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平21. 7.25～ 8.30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平21. 9.25～11. 5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平21.11.21～平22.1.25	52	220
「ジオプラザ阿南」那賀川流域と県南部地域の化石展～化石が教えてくれるもの～」（阿南市科学センター）	平22. 7.17～ 8.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」（日和佐図書・資料館）	平22. 7.21～ 9. 5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①（貞光ゆうゆう館）	平22. 9.18～ 9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②（海陽町立博物館）	平22. 9.23～10. 3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平22.10. 9～10.17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平23. 7.22～ 9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平24. 9. 6～ 9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平25. 1.26～ 2. 7	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺（日和佐図書資料館）	平25. 7. 5～ 7.31	22	493
九州・五島行き～以西底曳き網漁業～（美波町由岐公民館）	平25.10.25～11. 4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平26. 4.15～ 5.13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセンター）	平27. 7. 1～ 9.30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平27.10. 3～10.18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平27.12. 6～平28. 1.6	26	500
「シカとカモシカ」パネル展（那賀町四季美谷温泉）	平28. 4.18～10. 9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（つるぎ町織本屋）	平28.10. 1～10.31	30	320
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（鳴門市立図書館）	平28.11. 5～11.30	23	4,052
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（海陽町立博物館）	平28.12.10～平29.1.22	33	282
移動展：県障害者の集い（徳島市あわぎんホール）	平28.11.27	1	15
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」	平29. 1.14～2.26	35	320
「戦中・戦後の暮らし」（徳島県戦没者記念館）	平30. 7.16～8.15	21	1,463
かつうらの恐竜時代	令元. 9.14～9.23	10	288
あわぎん恐竜時代展	令 2. 1.10～1.29	20	6,263
合計		1,244	64,952

●人権啓発等観覧者数(平成4～令和元年度)(単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1～12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4～12.9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12.4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12.9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12.9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12.6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12.5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令和元.12.4～12.10	6	278
合計		174	19,534

●館内各種展示観覧者数(平成28～令和元年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展	平28.7.20～8.28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平28.9.1～平29.2.2	128	19,364
ロビー展示「植物標本」	平29.12.5～平30.3.31	75	5,906
ロビー展示「博物館の催し物」	平30.4.1～30.7.4	82	7,597
ロビー展示「写真で見える地層」	平30.10.25～平31.2.22	98	9,071
ロビー展示「写真で見える徳島の遺跡①」	令和元.5.8～9.3	102	13,231
ロビー展示「写真で見える徳島の遺跡②」	令和元.2.27～(3.31)	29	1,593
合計		550	113,746

●その他(啓発を除く共催事業)観覧・参加者数(平成15～令和元年度)(単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―」(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんざい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平21.8.8～8.9	2	1,212
スタジオリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20～3.1	34	33,618
スタジオリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1～4.18	16	25,113
軌跡―継統と審積―	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23.7.20～8.28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平23.8.6～8.7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平23.10.29～12.4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平24.1.28～3.11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平24.8.4～8.5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平24.9.30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平24.11.25	1	27
特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ―北方のまなざし―」	平25.1.26～3.3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平25.8.3～8.4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書―外国語・学問・文学―」	平25.8.30	1	50
MT.第1回「鳥居龍蔵の収集した絵はがきの世界」	平25.9.29	1	14
MT.第2回「鳥居龍蔵の沖繩調査に関わった人々」	平25.11.24	1	14
共催事業第63回四国中世研究会	平25.12.22～12.23	2	47
MT.第3回「鳥居龍蔵の鹿児島調査」	平26.1.19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査―沖縄・南九州―」	平26.1.25～3.2	32	1,753
第1回 MT.「鳥居龍蔵の宮崎・鹿児島での古墳調査」	平26.6.15	1	9
第2回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―諏訪市とその周辺調査について―」	平26.9.14	1	7
第3回 MT.「鳥居龍蔵の伊那地方調査」	平27.11.23	1	18
第4回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―岡谷市とその周辺調査について―」	平27.1.17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界―鳥居龍蔵の信州調査―」	平27.1.24～3.1	32	2,827
第1回 MT.「鳥居龍蔵の金海貝塚調査」	平27.6.14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平27.8.9～8.10	2	1,743
ufotable 5周年展	平27.9.26～10.12	25	8,180
第2回 MT.「鳥居龍蔵と仏教文化―中国・朝鮮・日本―」	平27.11.22	1	11
第3回 MT.「鳥居龍蔵と黒潮文化―沖縄調査より―」	平28.1.17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵―世界に広がる知の遺産―」	平28.1.23～2.28	32	1,831
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見―国内外の視点から―」	平28.2.21	1	199
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平28.8.6～8.7	2	1,689
第1回 MT.「鳥居龍蔵の研究ライフ―その方法と人的交流―」	平28.6.12	1	15
第2回 MT.「鳥居龍蔵の出会った南米の史跡―ブラジルとペルーを中心に―」	平28.9.25	1	10
第3回 MT.「大正期の鳥居龍蔵と徳島―城山貝塚から勢見山「岩の鼻」へ―」	平28.11.13	1	24
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ―鳥居龍蔵、南アメリカへ行く―」	平29.1.28～3.5	32	2,905
鳥居企画展 記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査―鳥居龍蔵の思いを受けて―」	平29.2.5	1	51
徳島歴史文化フォーラム	平29.2.19	1	126
特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」関連 若杉山跡遺跡現地見学会	平29.2.26	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平29.8.5～8.6	2	1,444
サイエンスフェア2017「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平29.10.14～10.15	2	870
第1回 セミナー「あるブラジル移民の見た鳥居龍蔵の調査」	平29.6.18	1	14
第2回 セミナー「鳥居龍蔵、世界の巨石構造物を探る」	平29.7.17	1	31
第3回 セミナー「鳥居龍蔵のベストセラー『有史以前の日本』―日本人成立論めぐって―」	平29.9.18	1	28
第4回 セミナー「鳥居龍蔵、南方を探る―日本人の起源を求めて―」	平29.11.11	1	21
鳥居企画展「鳥居龍蔵 日本人の起源に迫る―本山彦一との交流―」	平30.2.10～3.18	32	1,746
平成29年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平30.2.18	1	146
鳥居企画展 記念講演会「日本人はどこから来たのか?」	平30.3.4	1	160
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平30.8.4～5	2	1,522
サイエンスフェア2018「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平30.11.4	1	765
第1回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査―日本人起源論との関係で―」	平30.6.17	1	20
第2回 セミナー「明治時代から大正時代の自然人類学調査の一端―小金井良精の調査例から―」	平30.7.16	1	20
第3回 セミナー「鳥居龍蔵、郷里を駆ける」	平30.9.17	1	35
第4回 セミナー「鳥居龍蔵の小学校在学歴―自伝・卒業証書・履歴書を読む―」	平30.11.25	1	17
鳥居企画展「鳥居龍蔵と小金井良精―日本人の起源を求めて―」	平31.1.26～3.3	32	1,830
平成30年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平31.2.17	1	86
鳥居企画展 記念講演会「骨が語る日本人の歴史」	平31.2.24	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	令和元.8.3～8.4	2	1,764
サイエンスフェア2019「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	令和元.11.4	1	709
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と小金井良精―城山貝塚の調査をめぐって―」	令和元.6.16	1	35
第2回 セミナー「鳥居龍蔵と大洲巨石調査を検証する―当館所蔵の資料より―」	令和元.7.28	1	35
第3回 セミナー「龍蔵にとって城山貝塚は何だったのか?」	令和元.8.25	1	36
第4回 セミナー「日本考古学史上における鳥居龍蔵の再評価―国内評価・研究を通して―」	令和元.9.16	1	33
第5回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査」	令和元.10.14	1	28
第6回 セミナー「鳥居龍蔵の未刊原稿群とその周辺―中国からの引き揚げリストをめぐって―」	令和元.11.24	1	25
第7回 セミナー「大正期の鳥居龍蔵と本山彦一」	令和元.12.22	1	24
第8回 セミナー「鳥居龍蔵と阿波の巨石物―川内村史を中心に―」	令和元.2.19	1	33
鳥居企画展「文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る」	令和元.2.8～3.15	32	1,481
令和元年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令和元.2.16	1	76
合計		653	214,071

XI 施設の概要

1. 沿革

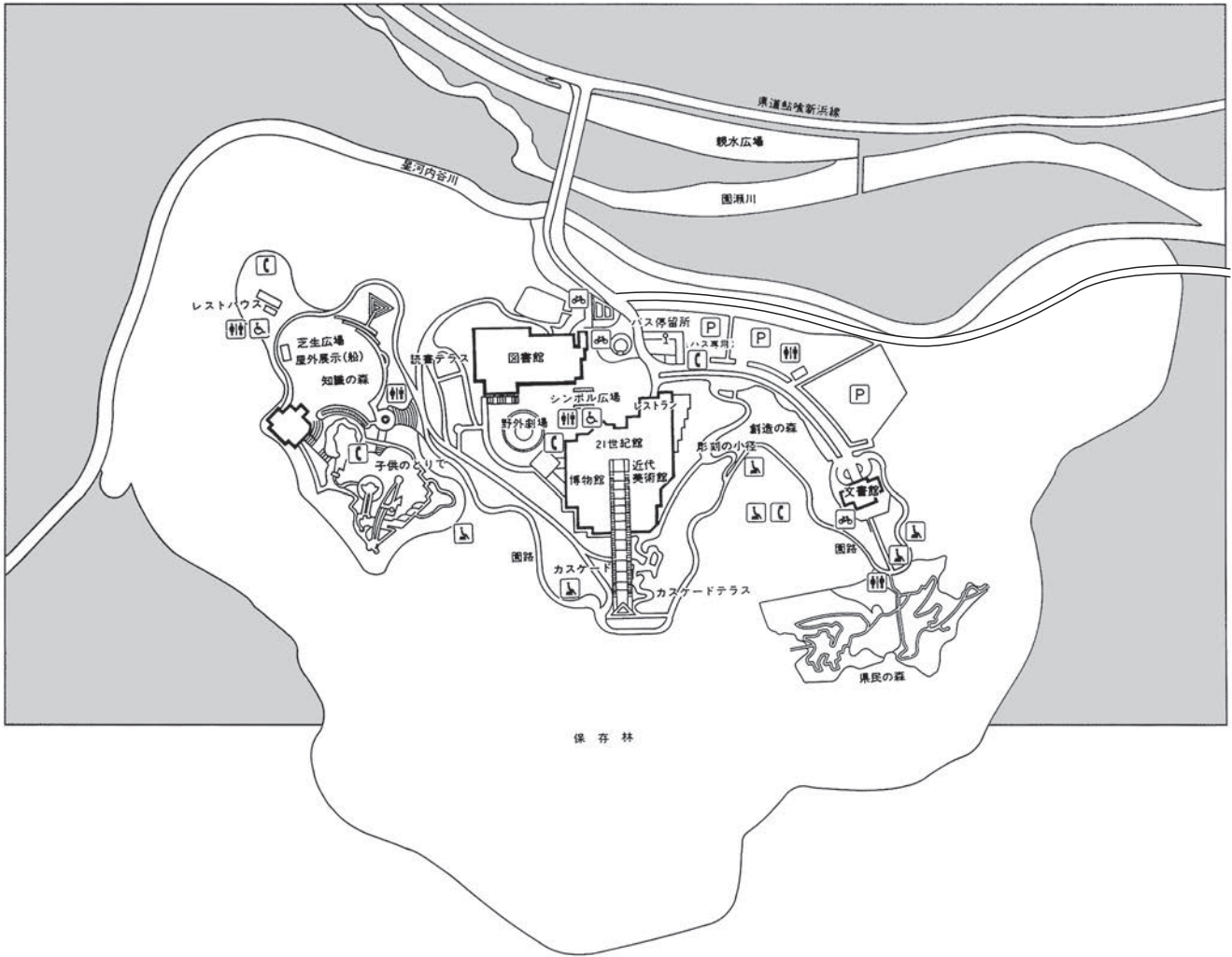
昭和 34 年 12 月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和 55 年 1 月	文化の森構想発表
4 月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和 56 年 2 月	文化の森懇話会報告書提出
昭和 57 年 3 月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12 月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和 58 年 3 月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和 59 年 1 月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4 月	美術品等取得基金設置
5 月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和 60 年 8 月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和 61 年 3 月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和 62 年 3 月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8 月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和 63 年 7 月	博物館展示工事着手
平成元年 4 月	旧博物館展示室閉室
12 月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2 年 3 月	旧博物館閉鎖
4 月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10 月	博物館展示工事竣工
11 月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3 年 2 月	博物館資料収集委員会設置
平成 4 年 3 月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5 年 3 月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録 [昭和 35.6] を変更）
平成 7 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7 年 7 月～8 年 3 月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8 年 4 月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8 年 12 月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成 12 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

90 施設の概要

平成 14 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成 15 年 7 月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成 17 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見—15 の人・もの・場所—」を開催
平成 22 年 4 月～23 年 3 月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成 24 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満 65 歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者 1 名の常設展・企画展観覧料を免除
平成 25 年 3 月	博物館管理規則の一部改正により、12 月 28 日の開館を実施
平成 27 年 4 月～28 年 3 月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわりの世界—門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施
令和 2 年 4 月	教育委員会から知事部局に移管

2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3 館棟）
●延床面積	22,382㎡（4 館合計—積層部分を含めると 23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上 4 階・塔屋 1 階・地下 1 階
●設計	(株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
●施工	
建築	大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
電気	四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
空調	東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
管	朝日工業社・大成設備 共同企業体
エレベータ	(株)東芝
家具	富士ファニチア(株)
移動展示ケース	(株)三井
展示	(株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

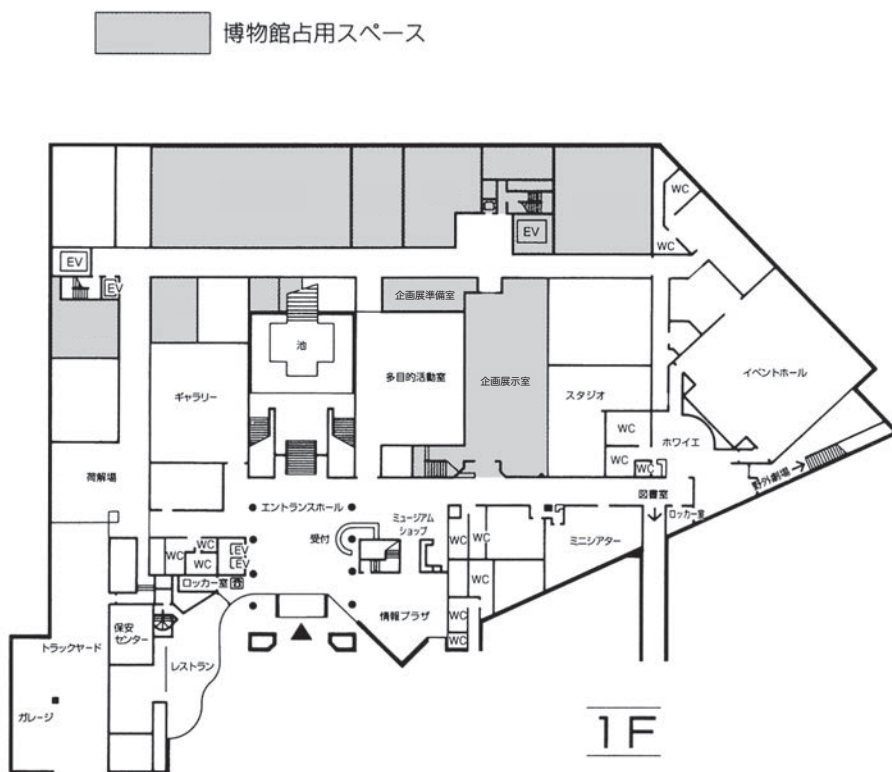
2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

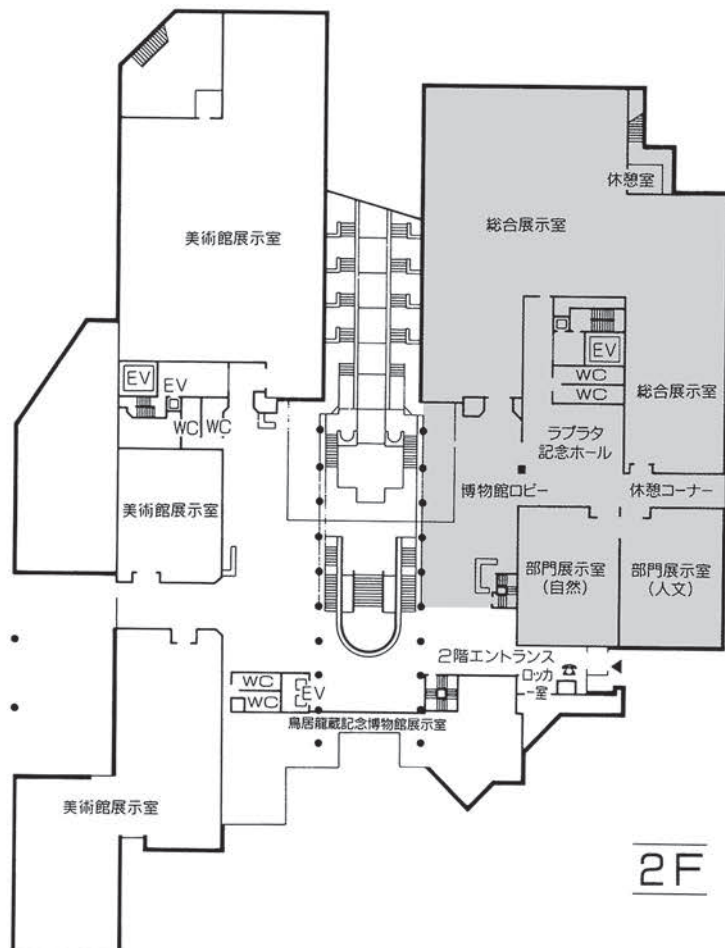
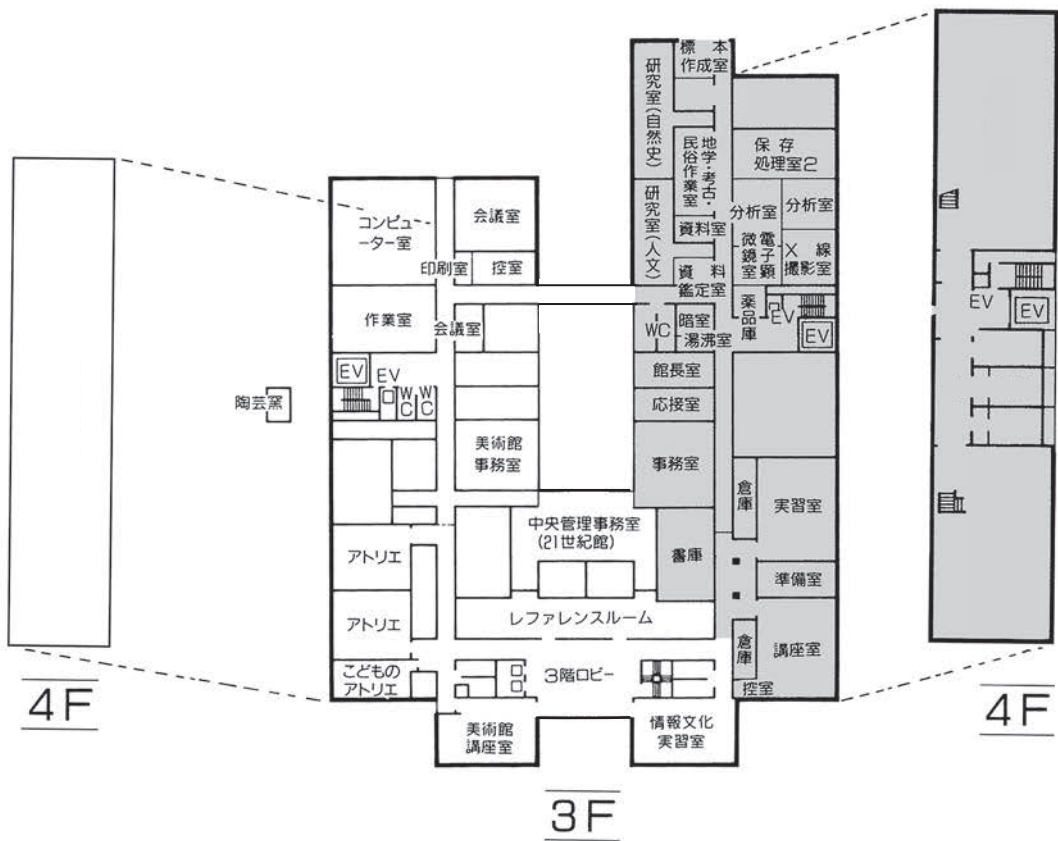
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。





XII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 令和2年3月26日 徳島県条例第11号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座などの教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(利用の許可)

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、知事の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同

表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員 10 人以内で組織する。
- 3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。
- 4 (省略)
- 5 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(規則への委任)

第 8 条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第 1 (第 4 条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20 人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者	1 人 1 回	50 円	40 円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1 人 1 回	100 円	80 円		
その他の者 (学齢に達しない者を除く)	1 人 1 回	200 円	160 円		

別表第 2 (第 4 条関係)

区 分	単 位	金 額
博物館講座室	午 前	2,200 円
	午 後	3,550 円

(他館の施設等は省略)

(備考)

- 1 「午前」とは午前 9 時 30 分から正午までを、「午後」とは午後 1 時から午後 5 時までを、「夜間」とは午後 6 時から午後 9 時までをいう。
- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。
- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室 1、集会室 2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第46号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を知事に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、知事が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 知事は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で知事に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第40号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則（抜粋）

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号

最近改正 令和2年3月31日 徳島県規則第53号

第1章 総 則（省略）

第2章 事務部局（省略）

第3節 センター等 [博物館に係る内容のみ]

第1款 設置等

(法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等)

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機

関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森 振興センター	徳島県立博物館（以下「博 物館」という。）	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

(分掌事務)

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

(所長)

第38条 センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副館長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

(主幹等)

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上 席 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学 芸 係 長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職 務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験が必要とする事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験が必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 センター等の分掌事務

センター等	分 掌 事 務
博 物 館	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名 称	庶務を担当する組織
70	徳島県立博物館協議会	博物館

徳島県立博物館年報 第29号（令和元年度）

令和2（2020）年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園）

TEL（088）668-3636 FAX（088）668-7197

E-mail kenritsuhakubutsukan@pref.tokushima.jp

ホームページ <https://museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：星印刷株式会社
